

# 球磨村住民アンケート 集計・分析結果

2021年5月

球磨村

特定非営利活動法人 環境防災総合政策機構

## 1) 調査目的

令和2年7月豪雨で、熊本県では7月3日夜から4日昼にかけて大雨となり、球磨川水系は13箇所で氾濫・決壊し、65名の尊い命が失われた。とくに被害の大きかった球磨郡球磨村で、住民がいつ、どのように危機感を醸成し、いつ、どのように避難をしたのか、詳細に把握することが、この調査の1つの目的である。水害当日の住民の意識や行動を詳細に把握することにより、球磨村および同様の水害リスクのある地域での防災対策を検討する材料とする。

また、今回の豪雨で氾濫・決壊した球磨川水系は、球磨村・人吉市・八代市で「球磨川水害タイムライン」が運用されていた。このタイムラインのアフター・アクション・レビュー（AAR・自然災害対応の検証・ふりかえり）の一環として、気象庁や球磨村、人吉市などから発せられた情報を住民がどのように受け取ったのか、また水害発生当日の球磨村と人吉市の住民の避難に関わる対応について、住民の行動を詳細に把握することによって、検証の材料とする。

## 2) 調査方法

球磨村の全世帯を対象とした、郵送での配布・回収による質問紙調査。

調査期間	2021年1月7日（木）～2021年2月22（月）到着分まで
調査地域	熊本県球磨郡球磨村
調査対象者	球磨村在住の全世帯
回答者	629人（配布数：1,099人、回収率：57.2%）
調査方法	郵送法

## 3) 調査内容

主な調査内容は以下のとおりである。

1. 水害に対する事前の備え・意識
2. 令和2年7月豪雨時の情報接触・危機感の醸成
3. 令和2年7月豪雨時の避難行動
4. 令和2年7月豪雨時に困ったこと
5. 令和2年7月豪雨での被害
6. 水害にかんする情報への意識
7. フェイス項目等

表 調査項目概要

項目名・目的	質問内容
1. 水害に対する事前の備え・意識	問1 災害の危険性認知
	問2 防災マップ認知
	問3 事前の水害対策
	問4 タイムライン認知
2. 令和2年7月豪雨時の情報接触・危機感の醸成	問5 気象・河川・避難情報の接触と危機感

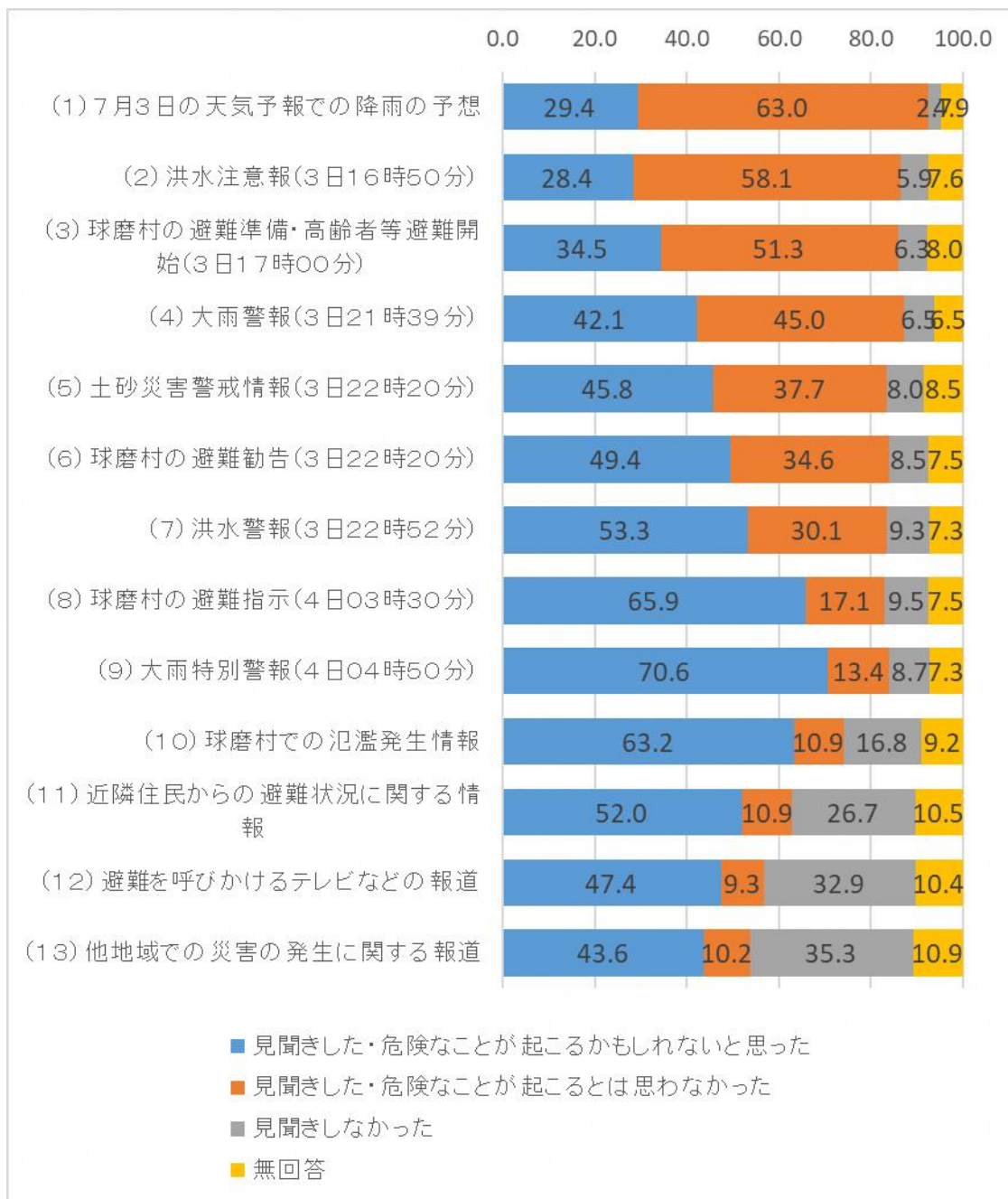
項目名・目的	質問内容
3. 令和2年7月豪雨時の 避難行動	問6 災害時に球磨村にいたか
	問7 危険なことが起こるかもしれないと思った時間
	付問7-1 危険なことが起こるかもしれないと思ったきっかけ
	問8 水害で自宅外に避難したか、避難/救助された時刻
	付問8-1 自宅にとどまった理由
	付問8-2 誰に救助されたか
	付問8-3 何で救助されたか
	付問8-4 ハード事業の対象地域か・それによって避難を躊躇したか
	付問8-5 避難することを決めた時刻
	付問8-6 自宅外への避難を考えたきっかけ
	付問8-7 すぐに避難したか、すぐに避難しなかった理由
	付問8-8 自宅外への避難を判断した時に参考にしたもの
	付問8-9 避難手段
	付問8-10 自宅外への避難で始めに向かった場所
	付問8-11 初めに避難した場所から移動したか、移動した理由
	付問8-12 避難の途中で危険なことがあったか
	付問8-13 誰と一緒に避難したか
	付問8-14 避難のときに支援を受けた人はいるか
	付問8-15 避難するときの新型コロナ対策
	問9 寝た時間・起きた時間
	付問9-1 目が覚めたきっかけ
	問10 7月4日の明け方の大雨・洪水情報接触メディア
	問11 防災行政無線で聞こえた内容
問12 町内会からの呼びかけ	
付問12-1 町内会からの呼びかけを受けた後の行動	
問13 7月4日の夜、いた場所	
4. 令和2年7月豪雨時に 困ったこと	問14 水害で孤立したか
	付問14-1 孤立した理由と時刻
	付問14-2 孤立した場所
	付問14-3 孤立した時に連絡した相手
	付問14-4 孤立した期間
	付問14-5 孤立した時に一緒にいた人
	問15 停電にあったか、いつ頃停電したか
	問16 7月4日の午前中に車に乗ったか
付問16-1 車に乗った時の状況	

項目名・目的	質問内容
	問 17 被災後の生活での不安
	問 18 水害の間に危険なことにあったか
5. 令和2年7月豪雨での被害	問 19 資産・財産の被害
	問 20 自宅の被害
	付問 20-1 床上浸水の程度
	付問 20-2 罹災証明上の被害
	問 21 具体的な浸水深
	問 22 人的被害
6. 水害にかんする情報への意識	問 23 水害当日知りたかった情報
	問 24 情報の伝達や情報の仕組み
	問 25 情報の正確性と迅速性についての意見
7. フェイス項目等	問 26 水害時の家の構造
	問 27 水害時の家の場所
	問 28 水害時の居住年数
	問 29 持っている車の台数
	問 30 自主防災組織への加入状況
	問 31 同居家族人数
	問 32 同居家族の災害時要支援者
	問 33 年齢・性別
	問 34 連絡先
問 35 防災上の教訓・意見（自由記述）	

#### 4) 主なトピックについて

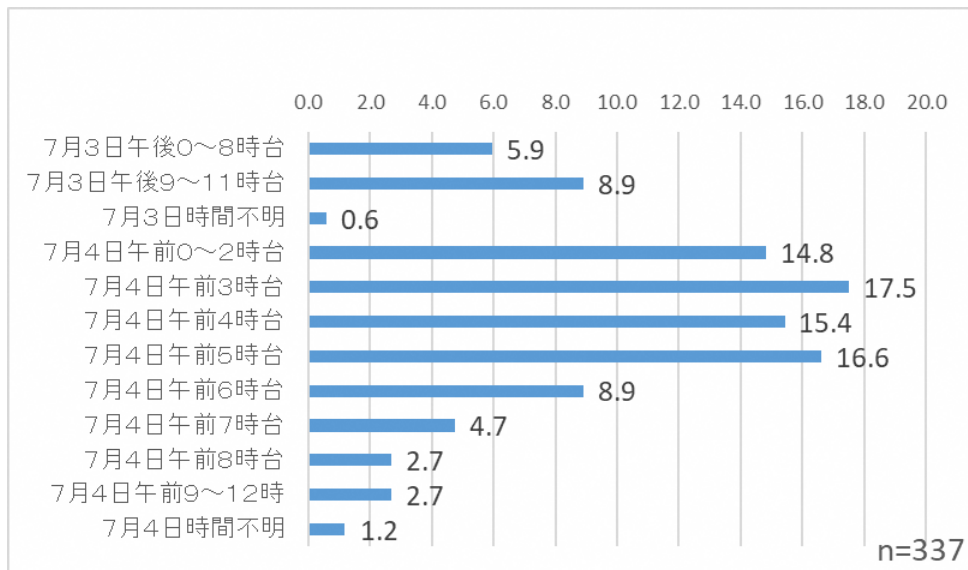
##### 1. 危機感の共有について

問5 今回の災害で、あなたは次のような気象や河川の注意報・警報、避難の呼びかけなどの情報を見聞きしたとき、危険なことが起こると思いましたか



・気象庁や球磨村などからの情報では、洪水警報や避難指示、大雨特別警報、氾濫発生情報で半数以上が「危険なことが起こるかもしれない」と感じている。  
 ・近隣住民からの避難状況に関する情報でも半数以上が「危険なことが起こるかもしれない」と感じている。

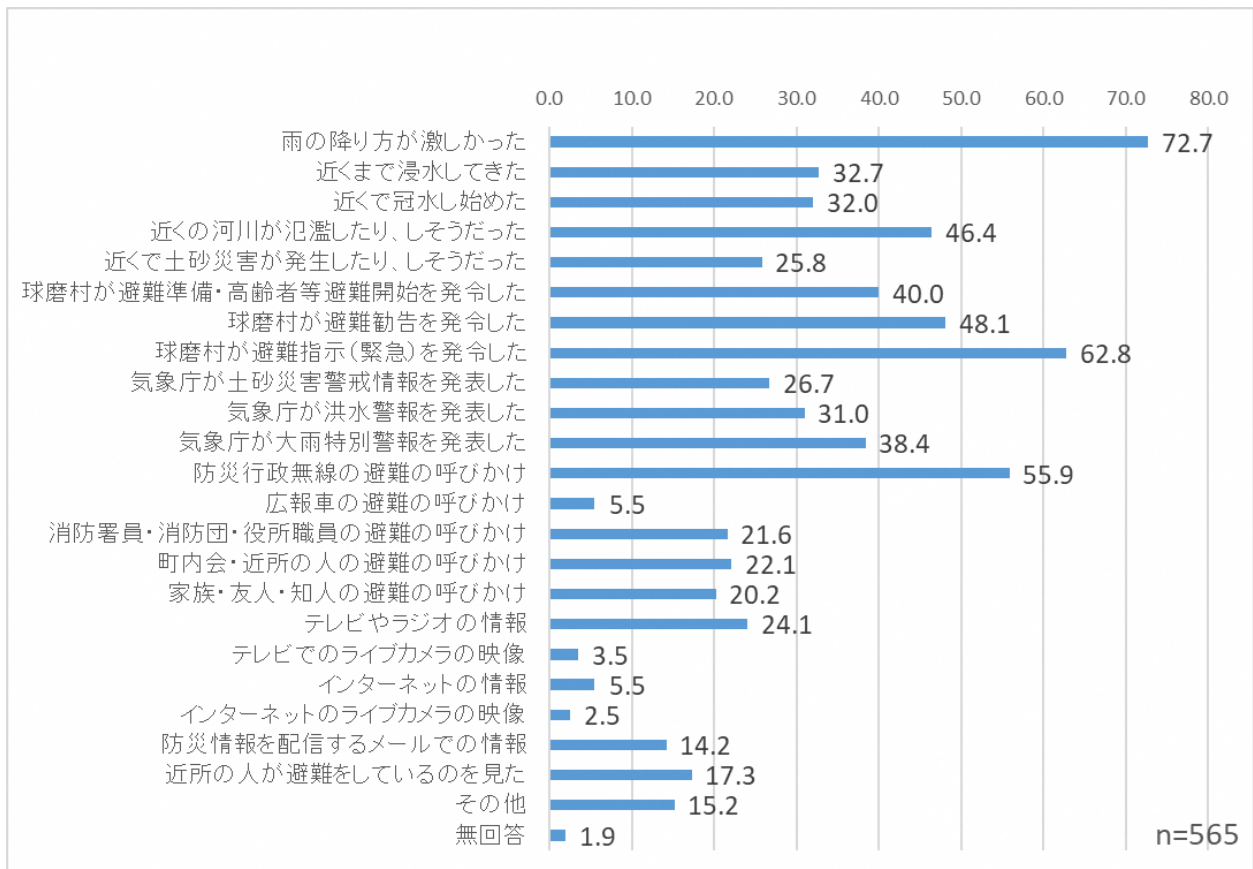
問7 危険なことが起こるかもしれないと思った日時



※無回答を除く

・「危険なことが起こるかもしれない」と思ったのは、大半が日付が変わって4日になってから。

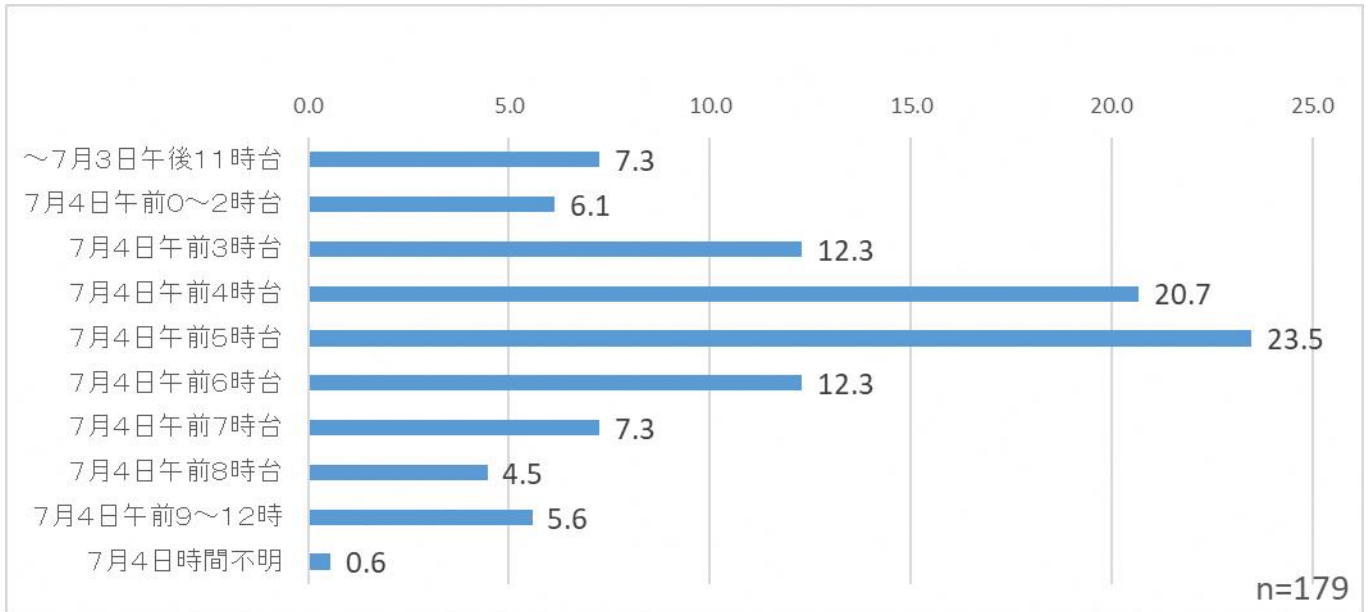
付問7-1 危険なことが起こるかもしれないと思った「きっかけ」は何ですか



・危険なことが起こるかもしれないと思ったきっかけは、「雨の降り方が激しかった」(72.7%)が最も高く、次いで「避難指示(緊急)」(62.8%)、「防災行政無線」(55.9%)。

## 2. 判断・意思決定について

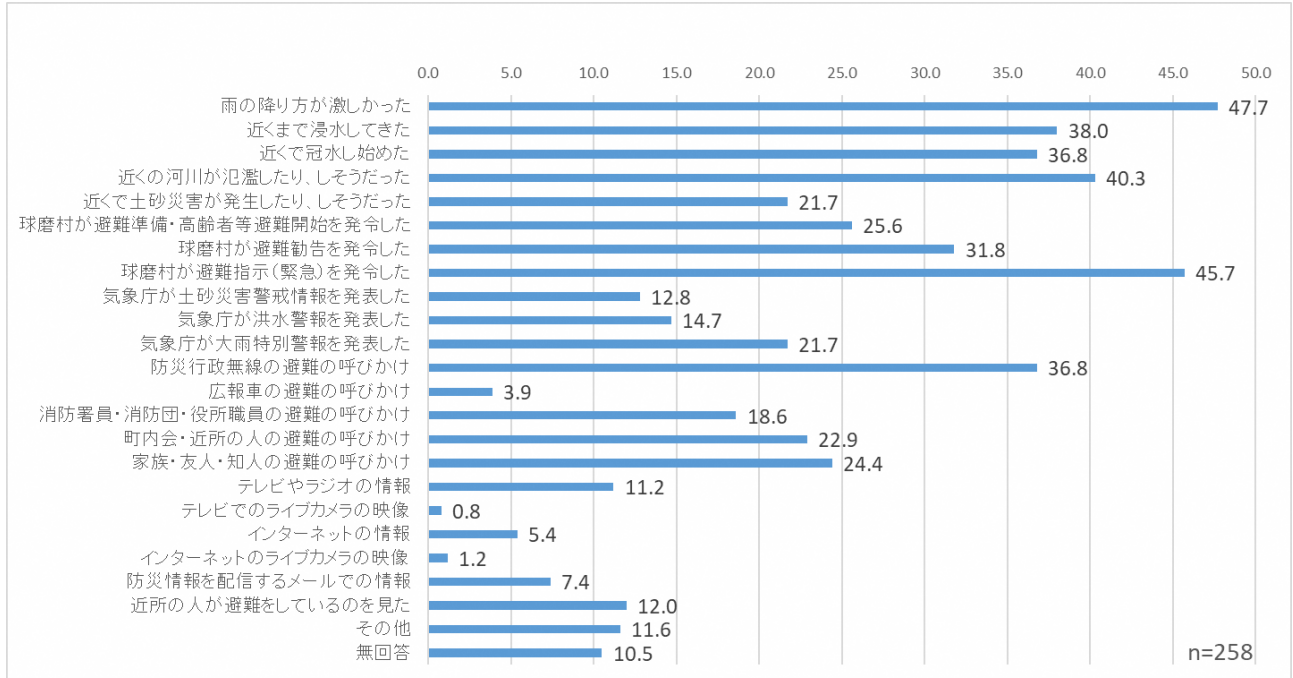
付問8-5 あなたは何時ごろ自宅外に避難することを決めましたか



※無回答除く

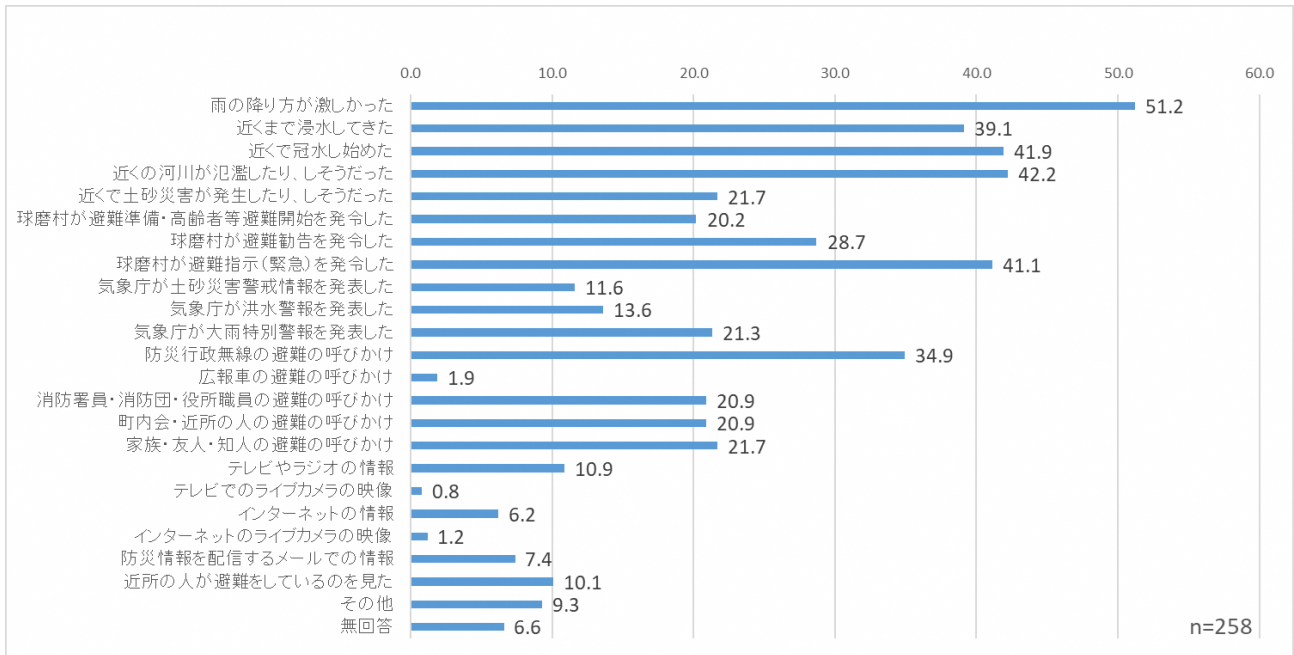
・自宅外に避難することを決めたのは、非常に危険な状況であった4時台・5時台いずれも2割強。

付問8-6 自宅外への避難を考えた「きっかけ」は何ですか



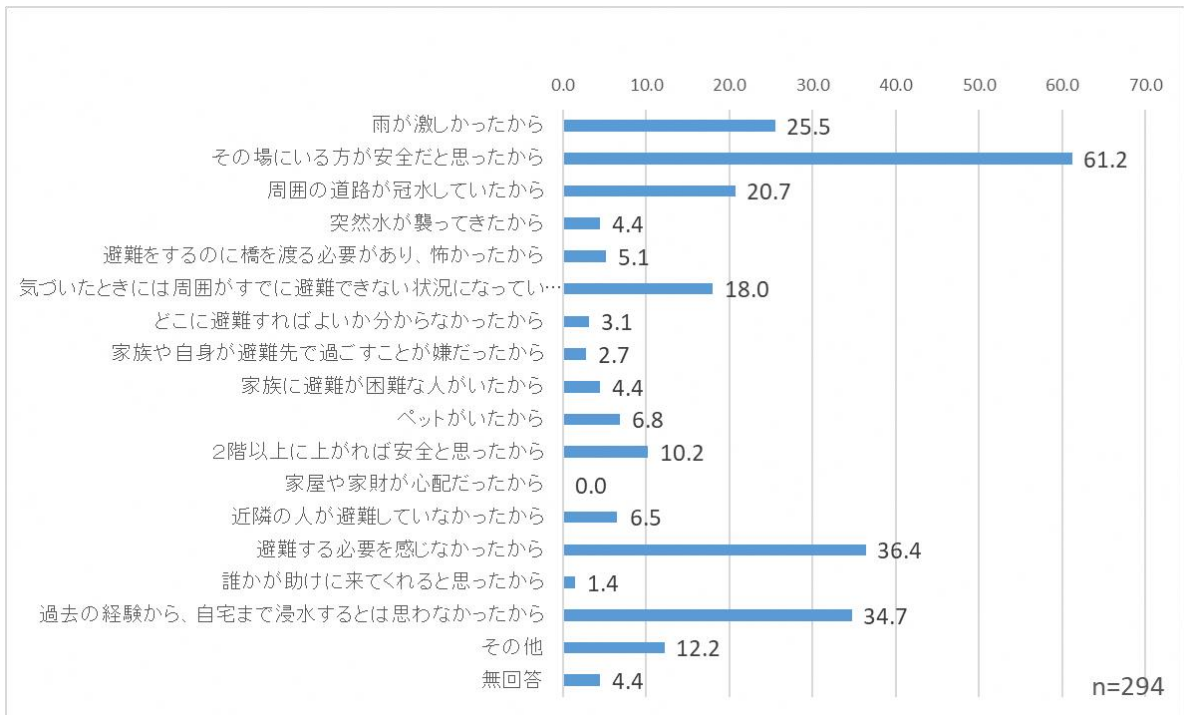
・自宅外への避難を考えたきっかけは、「雨の降り方が激しかった」「避難指示(緊急)」で半数弱。  
 ・それ以外では、「近くの線が氾濫したり、しそうだった」など、雨や河川の状況で、4割程度。  
 ・防災行政無線も36.8%と、避難を促している。

付問 8 - 8 自宅外への避難を判断したときに参考にしたものはどれですか (MA)



・避難の判断には、「雨の降り方が激しかった」などの雨や河川の状況、球磨村の避難指示が参考になっている人の比率が高い。

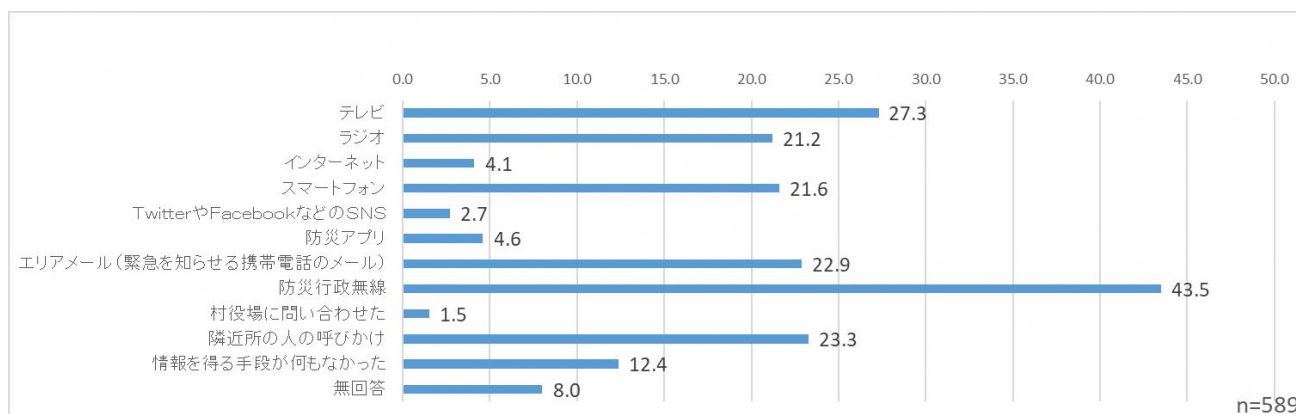
付問 8 - 1 自宅にとどまった理由は何ですか



・自宅にとどまった理由としては、「その場にいる方が安全だと思った」(61.2%)が最も高い。  
 ・次いで「避難するのを感じなかった」(36.4%)「過去の経験から、自宅まで浸水するとは思わなかった」(34.7%)といった認知の問題が高いが、「雨が激しかった」(25.5%)「周囲の道路が冠水していた」(20.7%)といった逃げ遅れもそれなりにいた。

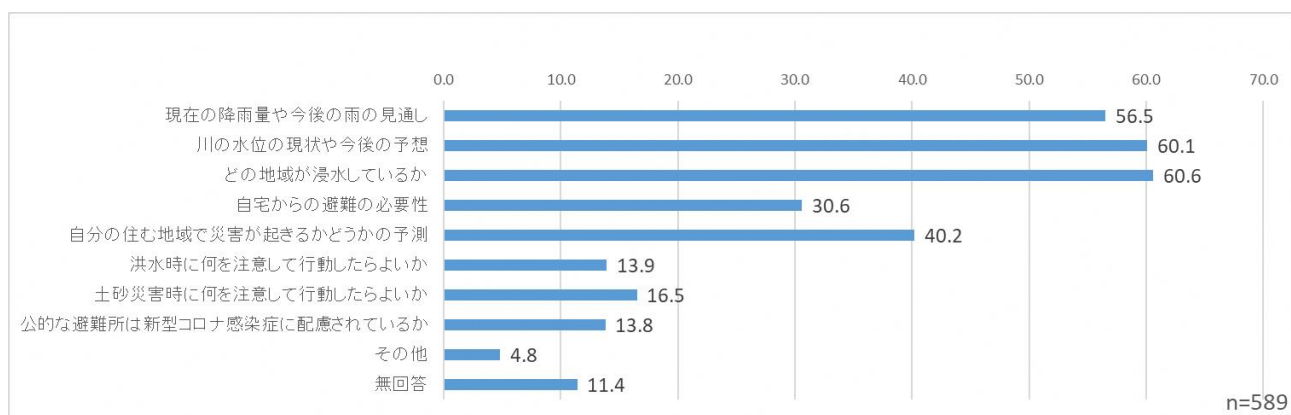


問10 7月4日の明け方、大雨や洪水について何で見聞きしましたか



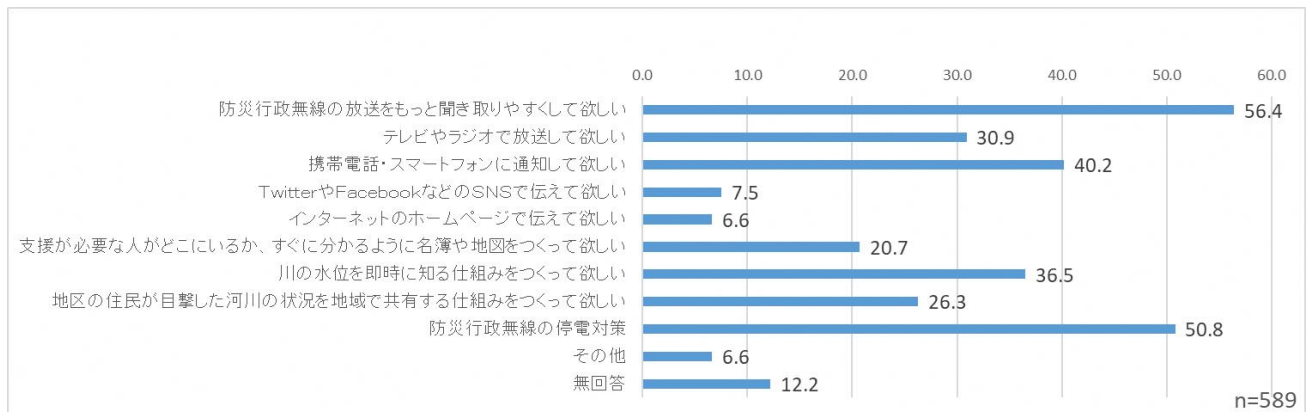
- ・ 4割強の人が防災行政無線で状況を見聞きしていた。
- ・ テレビやラジオは2割強で、雨が強くなった未明は放送時間外であったためであろう。

問23 水害当日、あなたが知りたかった情報は何ですか



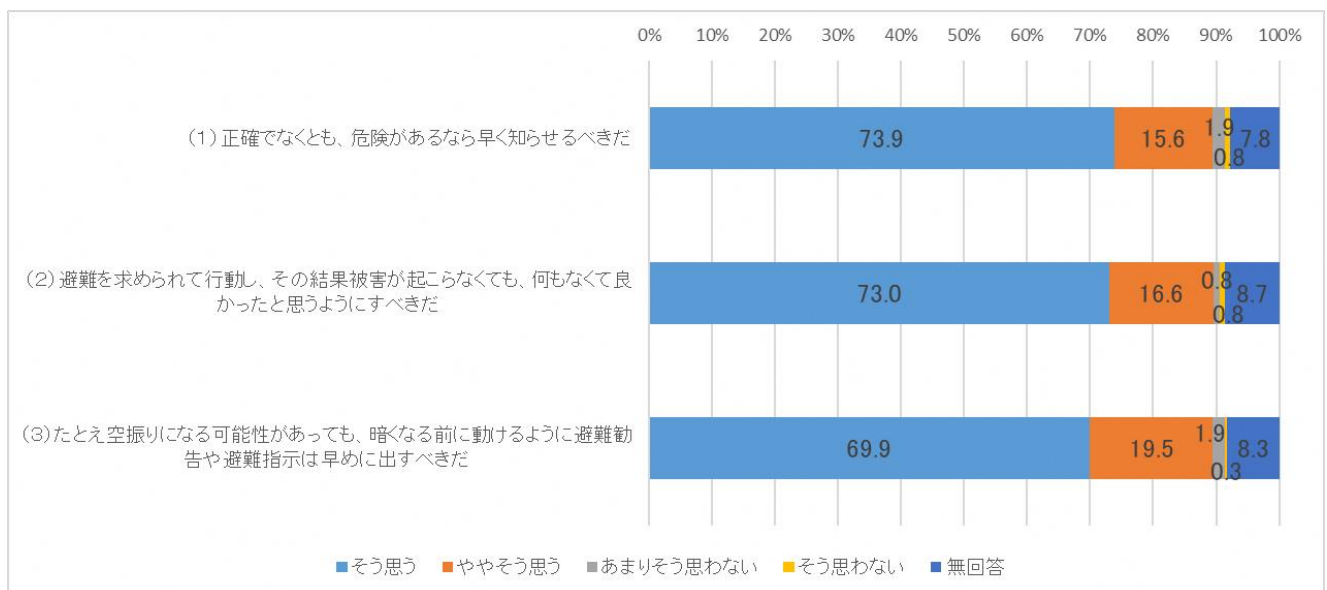
- ・ 知りたかった情報は、浸水している地域、川の水位の現状や今後の予想、現在の降雨量や今後の雨の見通しで6割程度。

問2 4 避難や水位に関わる情報の伝達や共有の仕組みについて、あなたの考えにあてはまるものすべてに○をつけてください



・情報伝達や共有の仕組みとして、半数以上が、防災行政無線を聞き取りやすくして、停電対策を求めている。

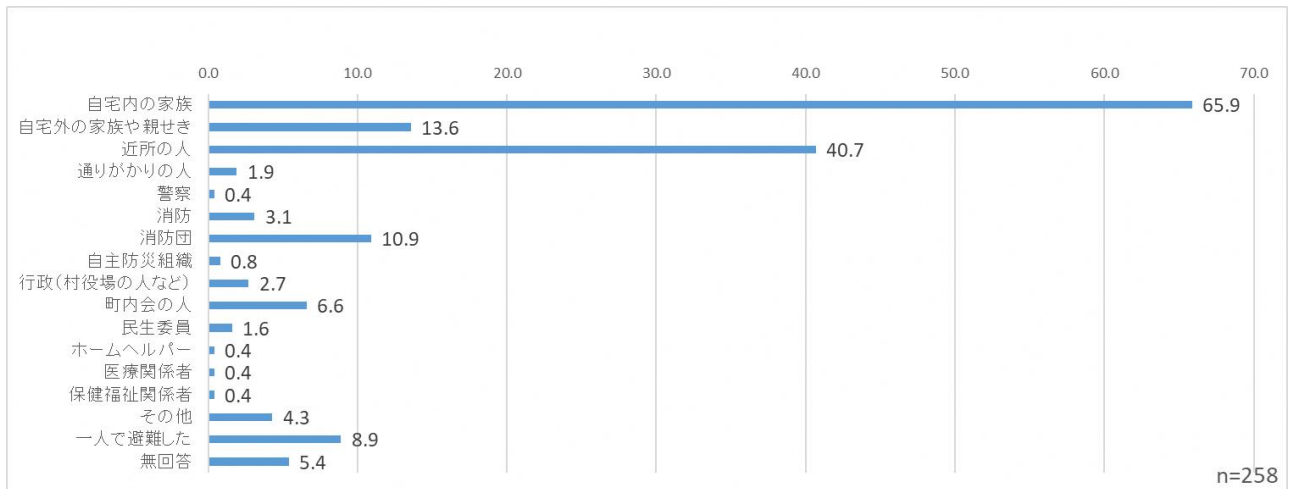
問2 5 水害や避難に関わる情報についての以下の意見をどう思いますか



・正確でなくとも、危険があるなら早く知らせるべきだと考えている人が9割弱  
 ・避難を求められて行動し、その結果被害が起こらなくても、何もなくて良かったと思うようにすべきだと考えている人も9割弱  
 ・たとえ空振りになる可能性があっても、暗くなる前に動けるように避難勧告や避難指示は早めに出すべきだと考えている人も9割弱

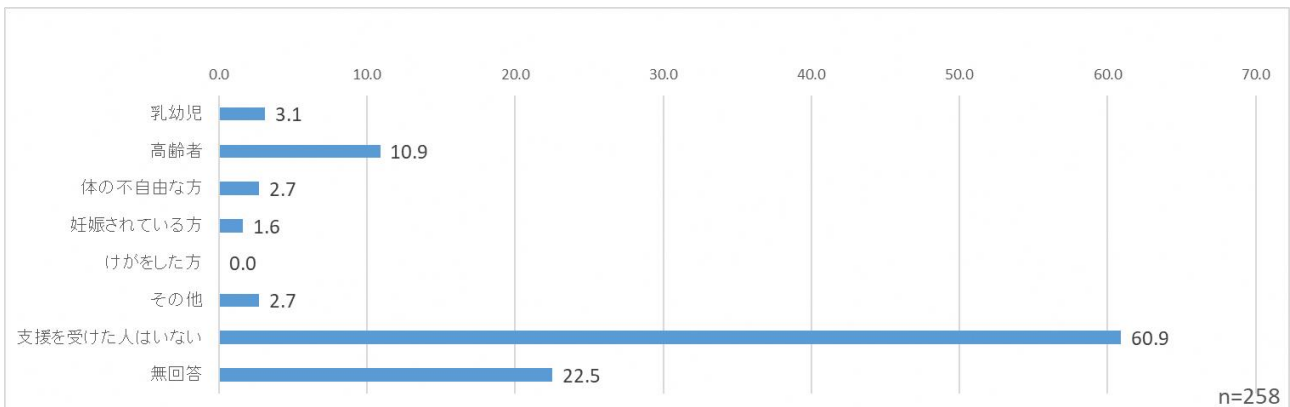
### 3. 要配慮者（要支援者）の避難について

付問8-13 あなたは、避難したときに誰かと一緒にいたか



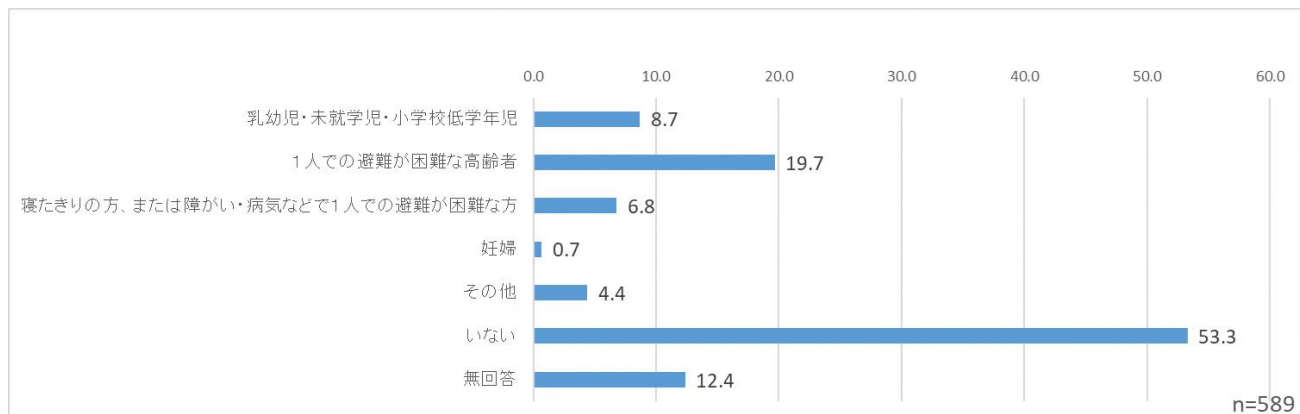
・家族と避難した人が3分の2程度と最も多いが、近所の人と避難した人も約4割いた。

付問8-14 あなたを含むご家族が避難するとき、支援を受けた人はいますか



・「支援を受けた人はいない」とした人が6割いた。

問3-2 あなたご自身も含めて、災害時に手助けが必要な方はいますか



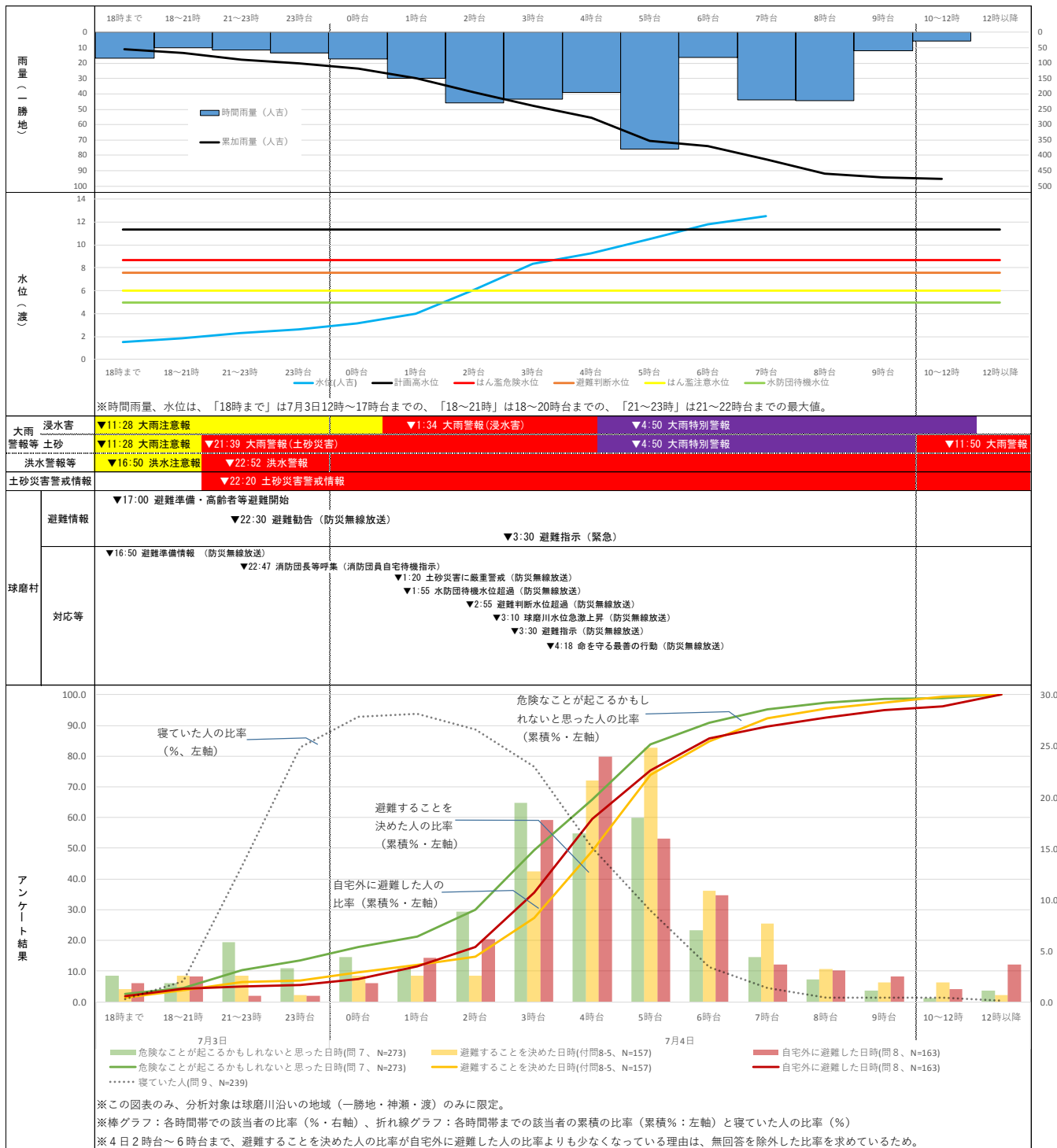
・災害時に手助けが必要な人は、半数はいない。

・約2割の家庭で、1人での避難が困難な高齢者がいる。

## 5) 住民の避難行動

球磨村調査において、「危険なことが起こるかもしれないと思った日時」(問7)「避難することを決めた日時」(付問8-5)「自宅外に避難した日時」(問8)に加えて、雨量や水位、気象警報、球磨村の対応の一部を整理したものが次の図1である。

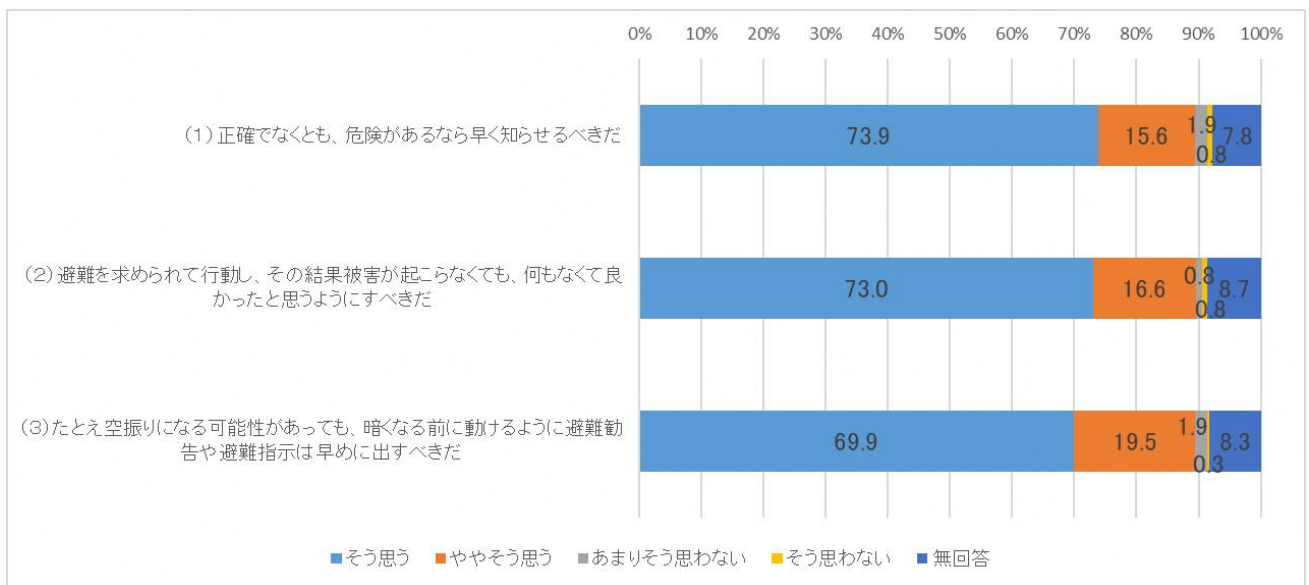
図1 住民の避難行動と気象・河川の状況、球磨村の対応



「危険なことが起こるかもしれないと思った日時」（問7）をみると、4日0時でも危険なことが起こるかもしれないと思った人は2割程度であり、「避難することを決めた日時」（付問8-5）「自宅外に避難した日時」（問8）では1割に満たない。避難指示が発令された4日3時30分でも危険なことが起こるかもしれないと思った人は半数程度であり、避難した人も3分の1程度であった。また、寝ていた人の比率（問9）を重ねてみると、4日1時台以降は起きている人は避難している様子がわかる。

いずれも、外が暗く大雨で水が迫ってきている状況で避難した人が多く、また夜遅くなると睡眠をとっている人も多い。そのため、可能性が低くても早い段階で「避難情報」を提供するなど、「避難情報」を発出するタイミングの検討が必要であろう。問25においても、そういった情報提供について、約9割が肯定的に捉えている（図2）。

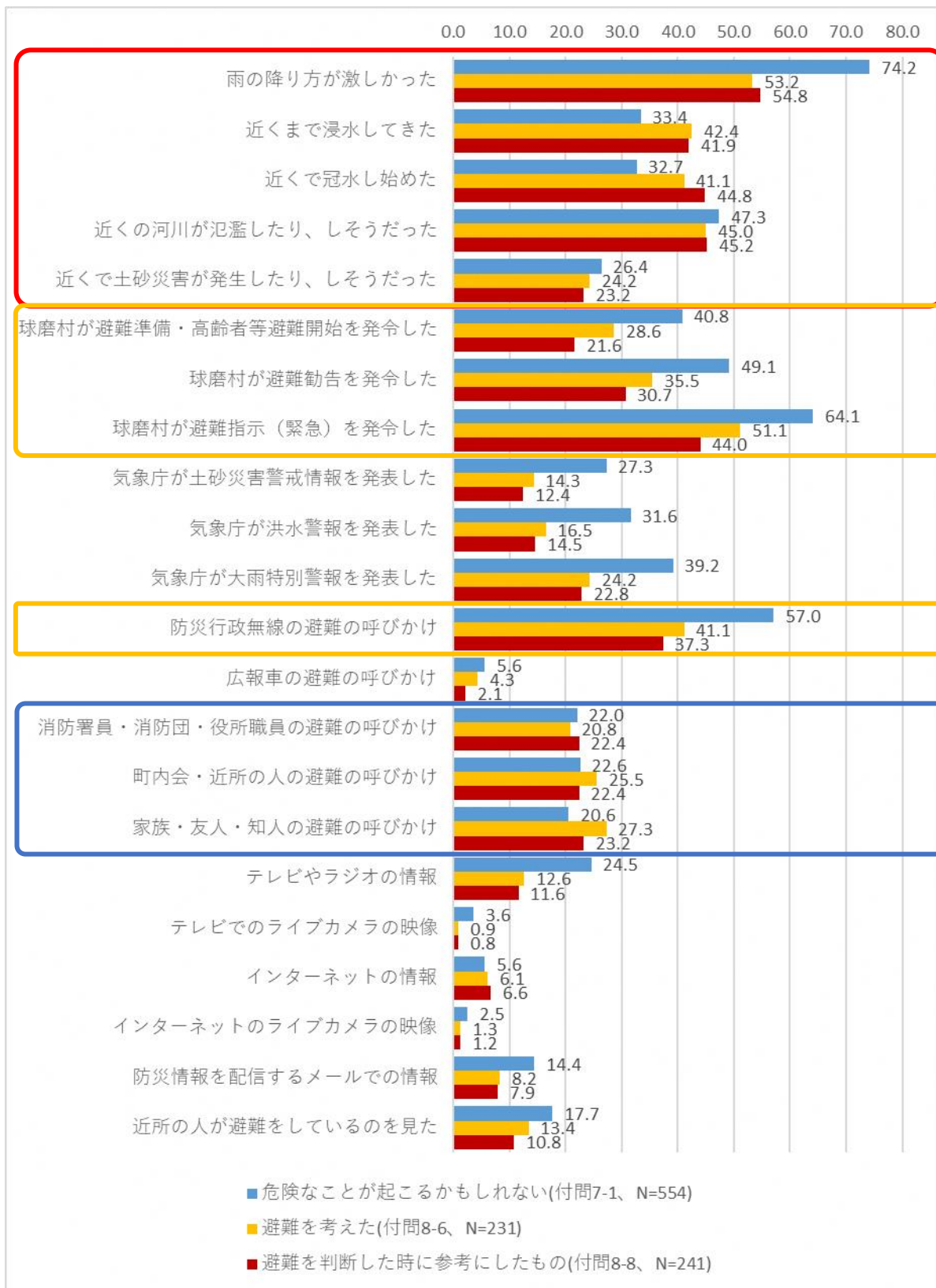
図2 水害時の情報についての意見（球磨村・問25）



一方で、危険なことが起こると思ったり、避難を考えたり、避難を決めた「きっかけ」について確認した結果が次の図3である。「危険なことが起こると思った」きっかけとしては、「雨の降り方が激しかった」（74.2%）「近くの河川が氾濫したり、しそだった」（47.3%）といった状況に加え、球磨村の避難に関する情報や防災行政無線が効いている。雨や河川の状況は危機意識を醸成するとともに避難を促しているが、避難に関する情報では危機意識を持った人の比率に比べて避難行動に結びついた人の比率が10ポイント以上下がっている。この点は、伝え方の検証及び検討が必要であろう。

さらに、雨や河川の状況以外で、危機意識と避難行動が結びついている「きっかけ」としては、家族や友人・知人、近隣、消防団などの地域コミュニティである。ここで、危機意識を持ったきっかけとして、地域コミュニティは雨や河川などの状況や球磨村からの避難情報に比べて低くなっているが、見聞きした情報（問5・見聞きしなかった人の比率が29.8%）でもわかるように、そもそもそれらに接触した人が他に比べて少ないことが1つの要因であろう。

図3 避難などを考えた「きっかけ」(球磨村)



## 6) 調査結果の概要

調査結果（球磨村調査）	課題
・ 6割以上が、自分の住む地域に浸水の「危険性はないと思っていた」「考えたことがなかった」と回答。（問1）	・ 居住地域の災害リスクの周知
・ 避難するタイミング（18.3%）や家族での話し合いをしていた（18.0%）人は2割以下。（問3）	・ マイ・タイムラインの推進
・ 勉強会（15.1%）や防災訓練への参加（12.7%）は2割以下。（問3）	・ 勉強会や防災訓練の周知
・ 「水害に対する備えは行なっていなかった」人も15.6%存在する。（問3）	・ 防災教育の推進
・ 球磨村・球磨川水害タイムラインを「知らなかった」人が約半数、等（問4）	・ 行政の取り組みの周知 ・ 地区タイムラインの推進
・ 「自宅にいて救助された」人が1割弱。（問8）	・ 早い段階で避難を促す
・ 自宅にとどまった理由として、「雨が激しかった」（25.5%）「周囲の道路が冠水していた」（20.7%）といった逃げ遅れもそれなりにいた。（付問8-1）	・ 危険になる前に避難を促す情報の提供
・ 3分の2の人が避難を決めてからすぐに避難しているが、3割の人がすぐに避難していない。理由は、半数弱が「避難の準備に手間取ったから」であった。（付問8-7）	・ 平時からの避難準備を促す
・ 避難手段は、自家用車が半数、徒歩が約4割であった。（付問8-9）	・ 徒歩での避難者の避難支援 ・ 避難場所での駐車スペースの確保
・ 避難先は、指定避難所が27.5%、地域で決めた避難所で16.3%と避難所が多い。（付問8-10）	・ 避難所を開けるタイミングの確認
・ 一度自宅外に避難した後避難や移動をした理由は、村の指示やはじめに避難した場所が危険になったという人が多かった。（付問8-11）	・ 既存の避難場所の安全性の確認
・ 半数強の人が、コロナ対策としてマスクを持って行っているが、それ以外の対策は3割以下。（付問8-15）	・ 住民へのコロナ対策の周知 ・ 避難所のコロナ対策
・ 町内会からの呼びかけを聞かなかった人は4割弱いる。（問12）	・ 地区タイムラインの推進
・ 孤立した人は半数弱であり（問14）、その4分の3が自宅で孤立している（付問14-2）。また、孤立した人の4割以上が3日以上孤立している（付問14-4）。	・ 自宅での備蓄の推進
・ 7割強の人が停電にあった（問15）。	・ 停電時の対策の推進
・ 知りたかった情報は、浸水している地域、川の水位の現状や今後の予想、現在の降雨量や今後の雨の見通しで6割程度。（問23）	・ 情報共有の仕組みの検討
・ 情報伝達や共有の仕組みとして、半数以上が、防災行政無線を聞き取りやすくして停電対策を求めている。（問24）	・ 防災行政無線の対応
・ 約2割の家庭で、1人で避難が困難な高齢者がいる。（問32）	・ 避難支援の方法の確認

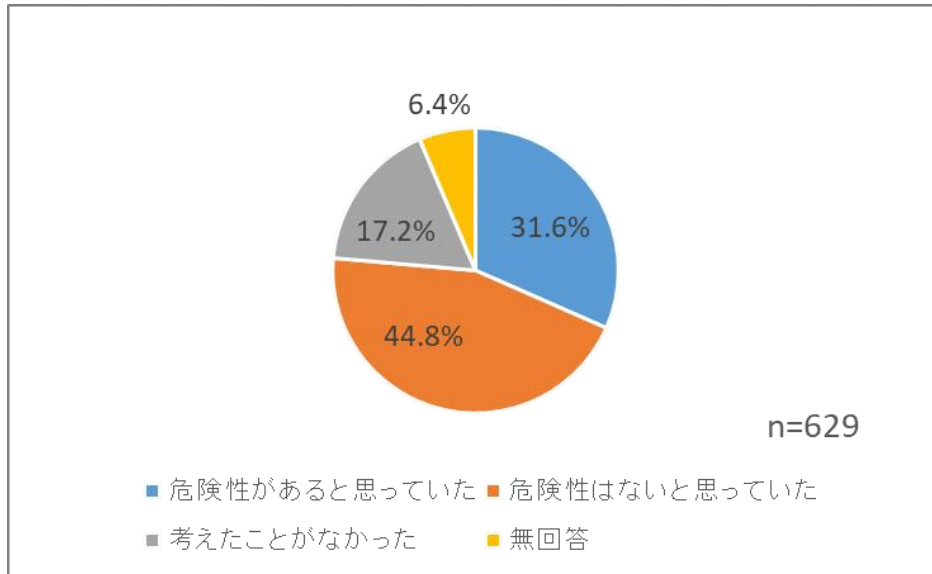
## 7) 単純集計

### 1. 水害に対する事前の備え・意識

問1 日ごろから、今回の災害前に、あなたは次のことについてどう思っていましたか

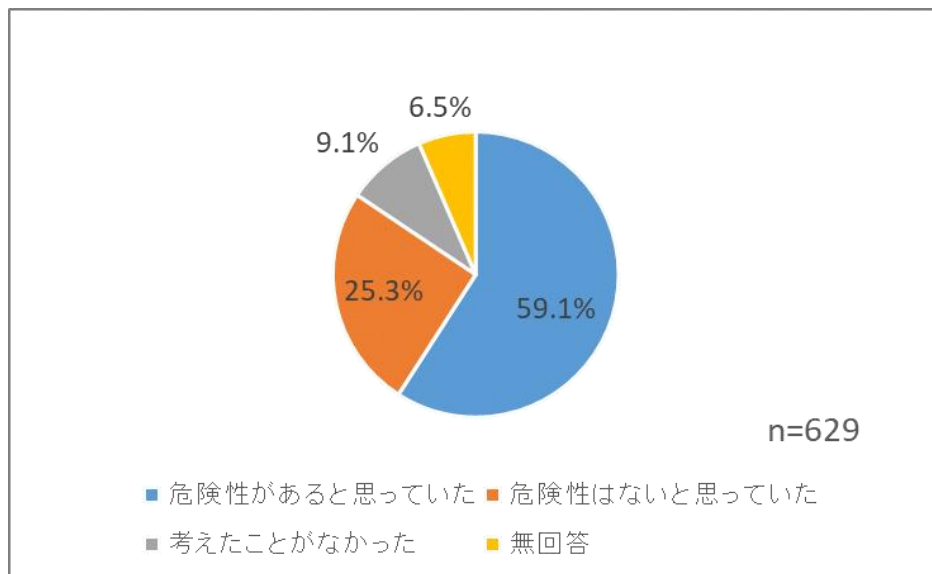
(1) 自分の住む地域に、以下のような危険性があると思っていましたか

(1) 浸水の危険性



- ・ 6割が、浸水の「危険性はないと思っていた」「考えたことがなかった」と回答。
- ・ 浸水の「危険性があると思っていた」人は31.6%

(2) 土砂災害の危険性

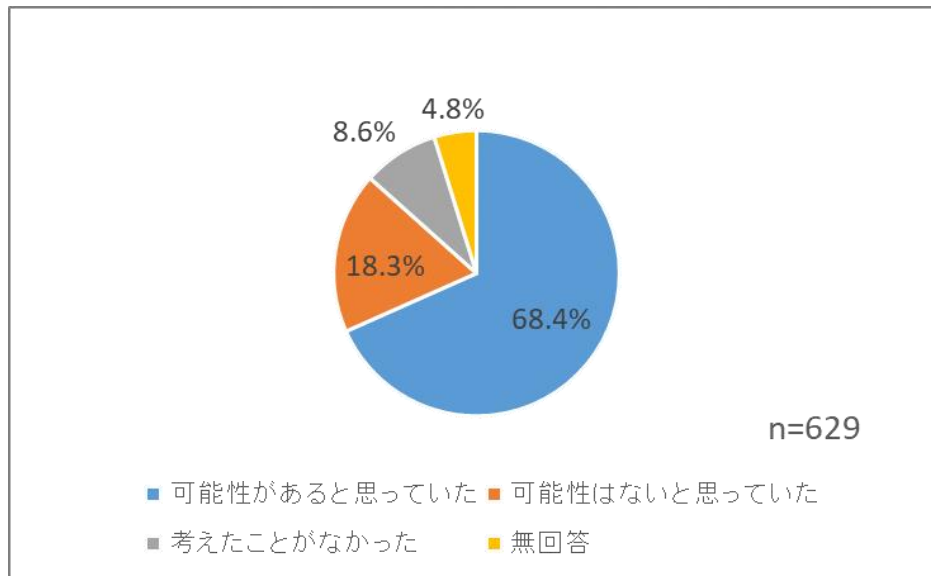


- ・ 約6割の人が、土砂災害の「危険性があると思っていた」。



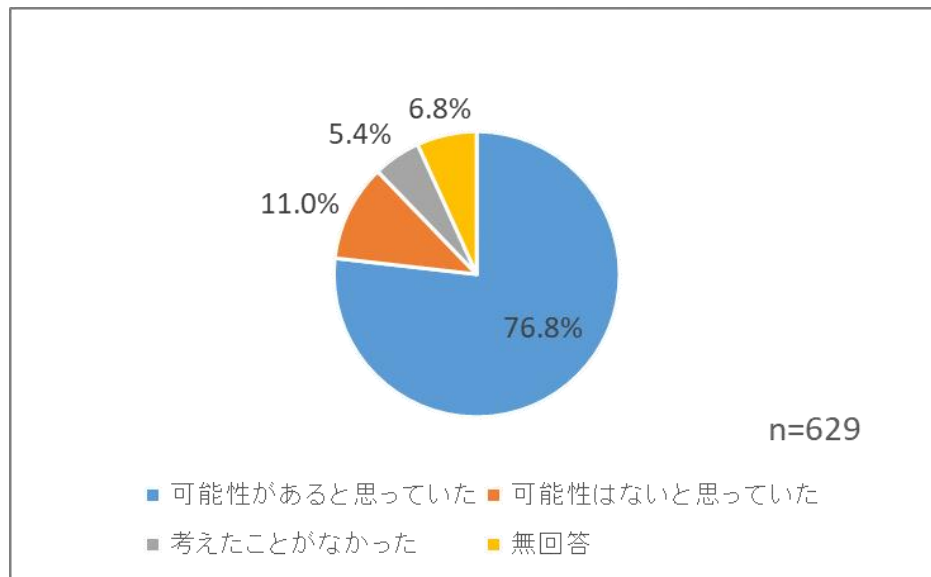
(2) 球磨村で、以下のような災害の可能性があったと思っていましたか

(1) 球磨川や支流の氾濫の可能性



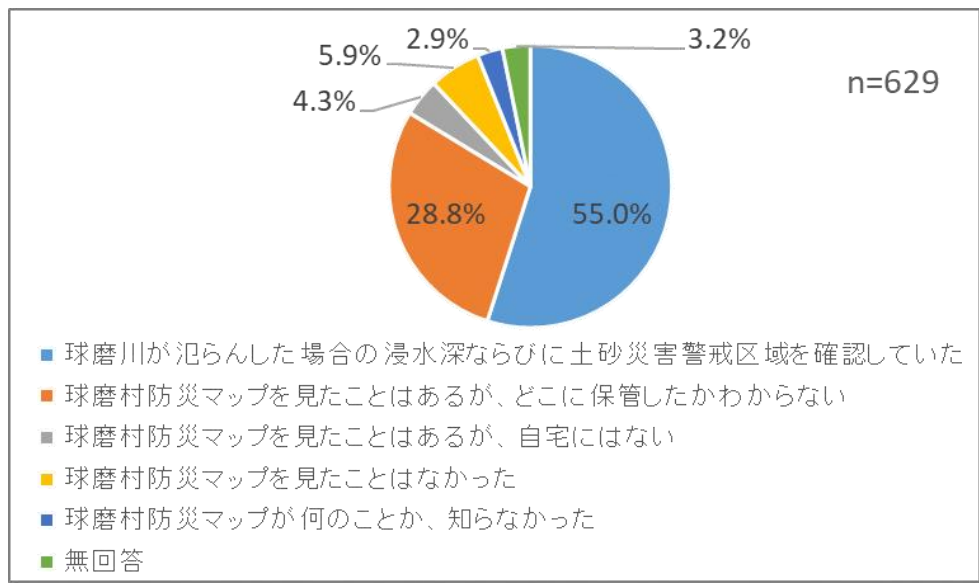
・約7割の人が球磨川や支流の氾濫の「可能性があったと思っていた」

(2) 土砂災害の可能性



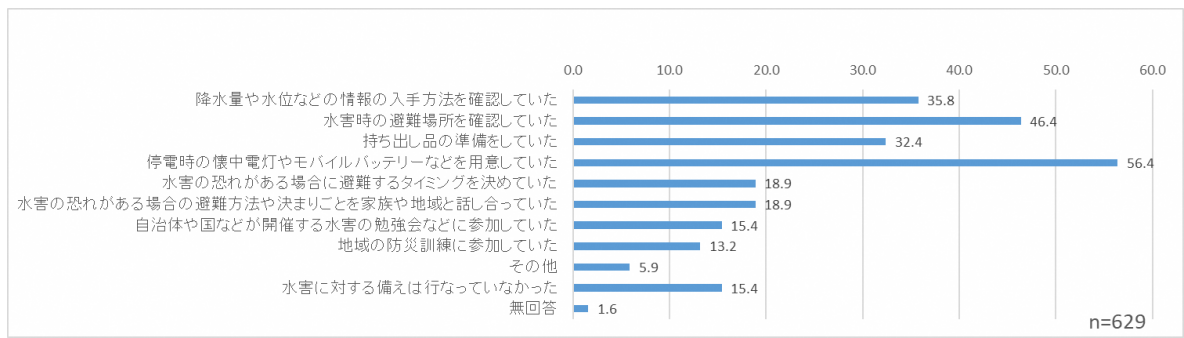
・8割近くの人が、土砂災害の「可能性があったと思っていた」

問2 今回の災害より以前に、球磨村が作成している総合防災マップ（洪水ハザードマップ）で、ご自宅周辺などの浸水深ならびに土砂災害が発生した場合の警戒区域を確認していましたか



・半数以上の方が総合防災マップを確認していた。

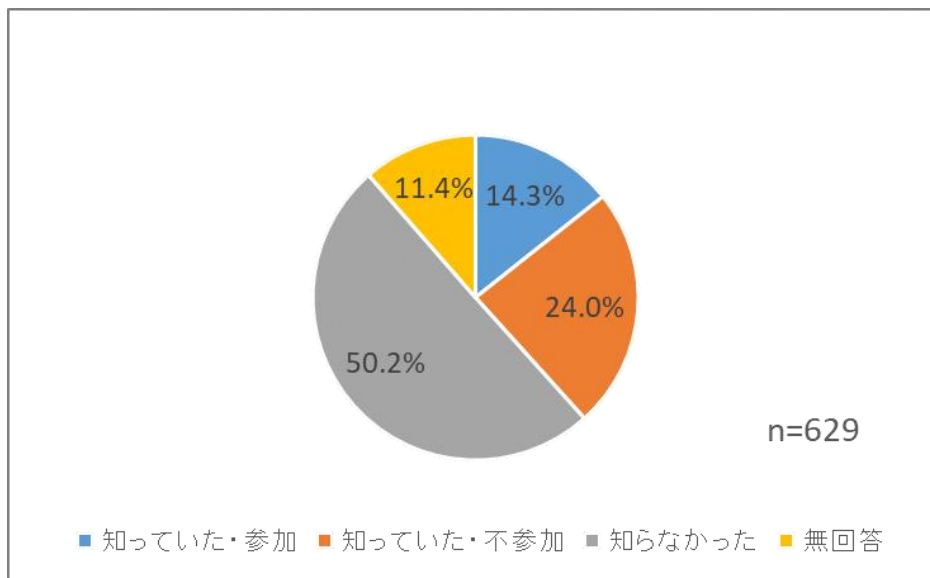
問3 今回の災害前に、あなたは水害についてどのような対策をしていましたか



・「停電時の懐中電灯やモバイルバッテリーなどを用意していた」人が半数以上。  
 ・避難場所の確認や情報入手方法の確認、持出品の準備は3割以上。  
 ・避難するタイミングや家族での話し合い、勉強会や防災訓練への参加は2割以下。  
 ・「水害に対する備えは行なっていなかった」人も15.4%存在する。

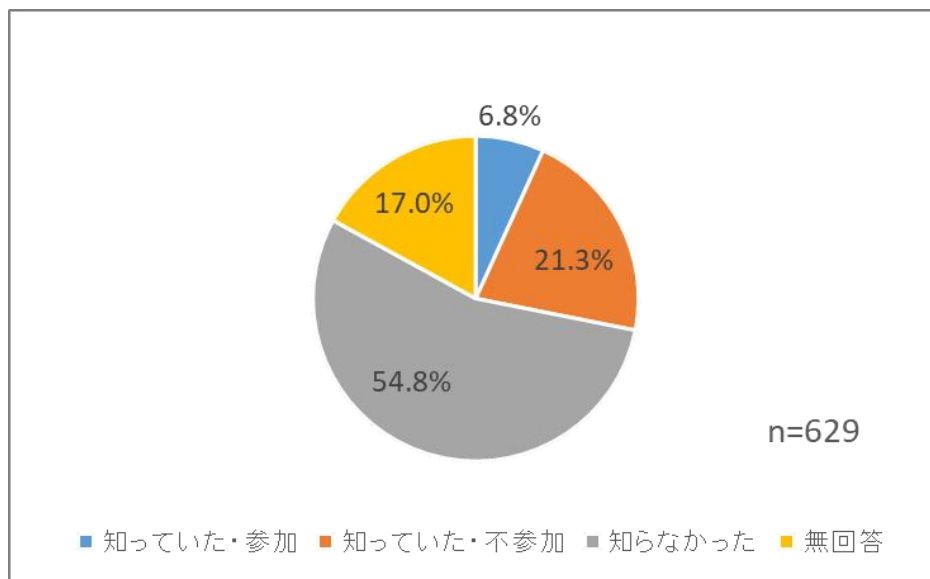
問4 今回の災害前に、あなたは球磨川流域での以下の取り組みを知っていましたか

(1) 球磨村・球磨川水害タイムライン



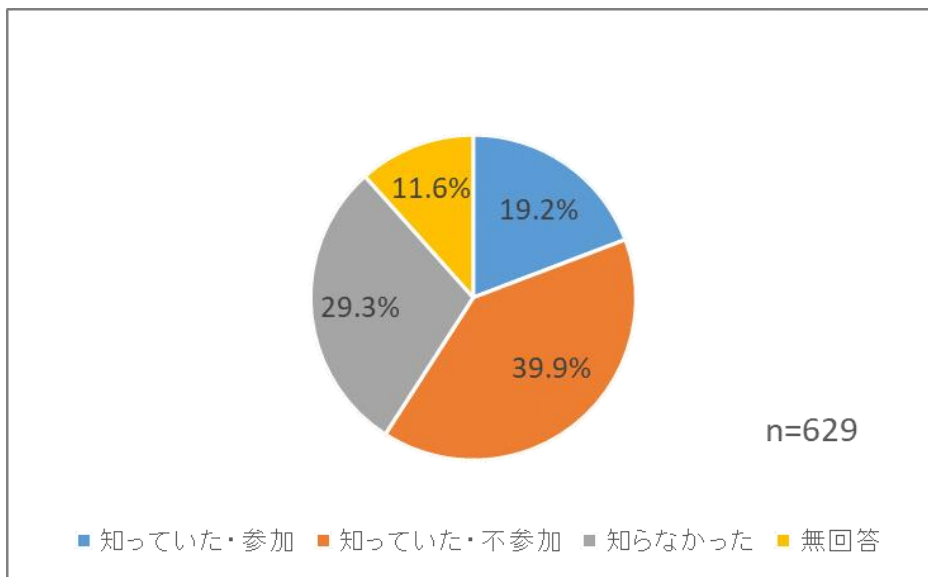
・球磨村・球磨川水害タイムラインを「知らなかった」人が約半数。

(2) 球磨村 渡地区コミュニティタイムライン



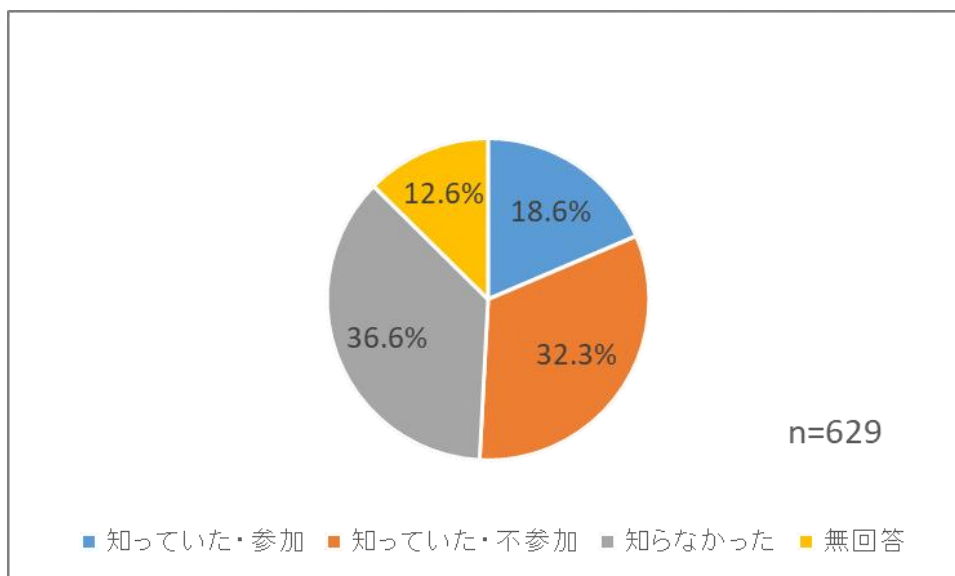
・球磨村 渡地区コミュニティタイムラインを「知らなかった」人が約半数。

(3) 球磨村 村民防災会議



・球磨村 村民防災会議を「知っていた」人は約6割だが、知らなかった人が約3割。

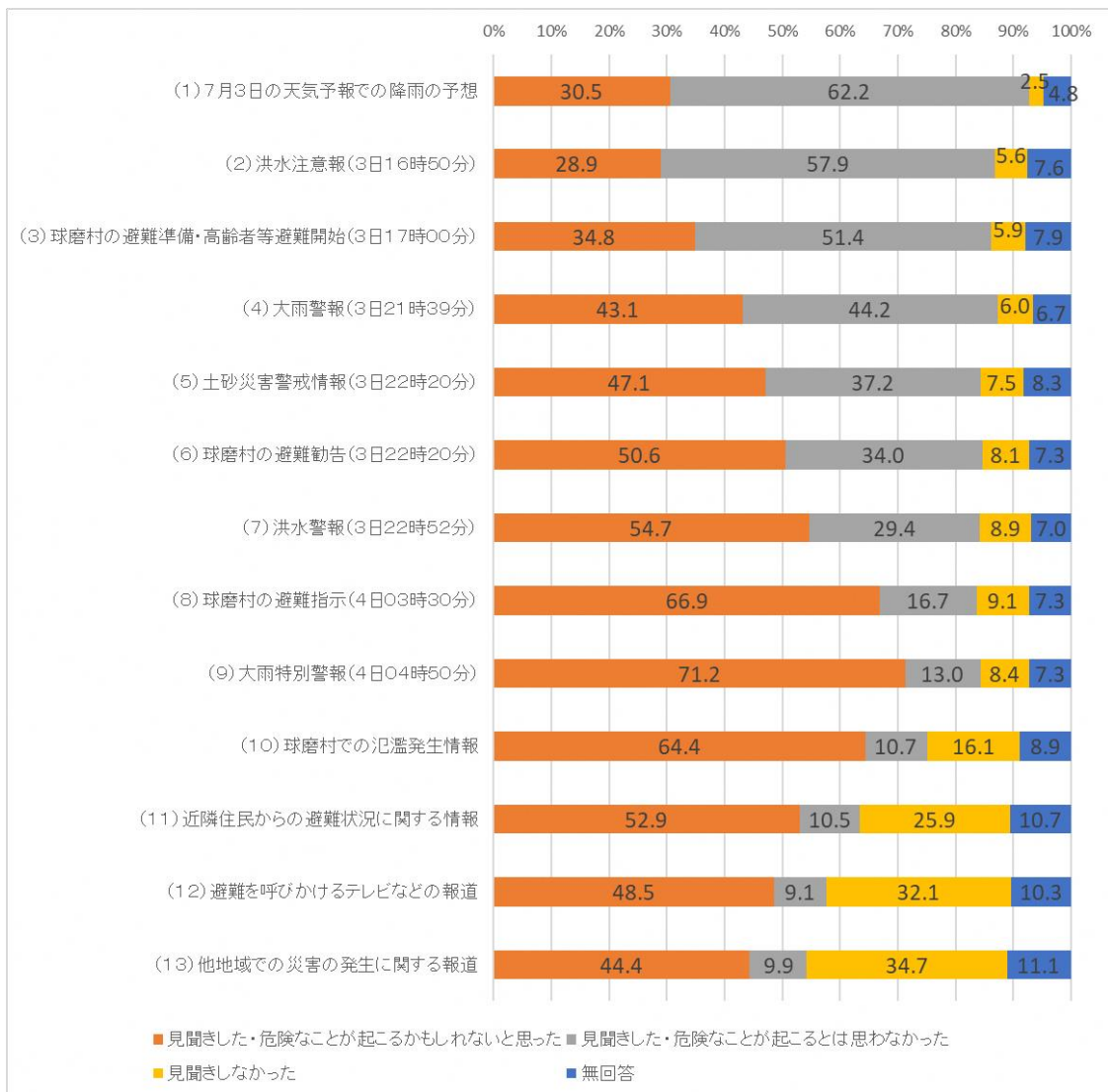
(4) 役場の防災管理官による防災教育



・役場の防災管理官による防災教育を「知っていた」人は約半数だが、知らなかった人が4割弱。

## 2. 令和2年7月豪雨時の情報接触・危機感の醸成

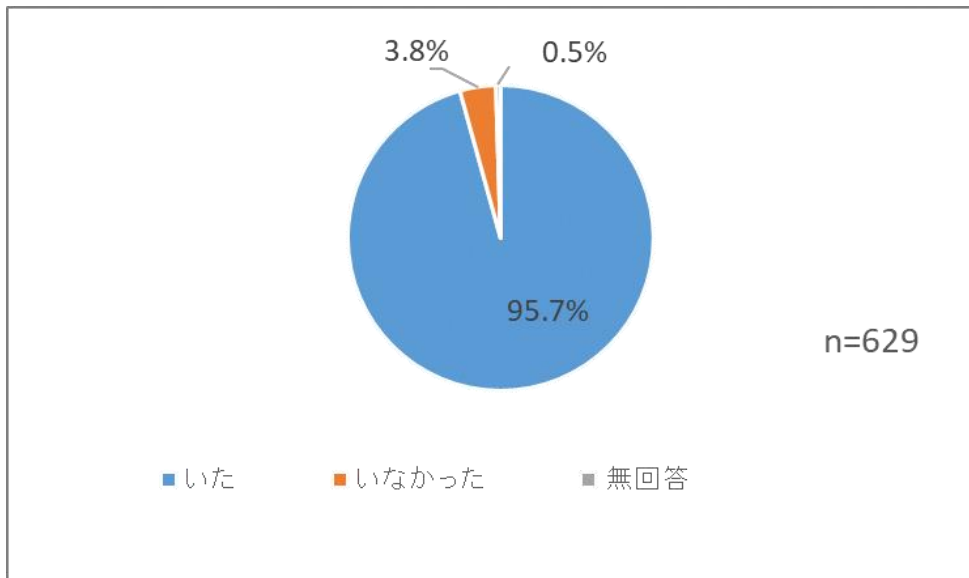
問5 今回の災害で、あなたは次のような気象や河川の注意報・警報、避難の呼びかけなどの情報を見聞きしたとき、危険なことが起こると思いましたか



- ・気象庁や球磨村などからの情報では、洪水警報や避難指示、大雨特別警報、氾濫発生情報で半数以上が「危険なことが起こるかもしれない」と感じている。
- ・近隣住民からの避難状況に関する情報でも半数以上が「危険なことが起こるかもしれない」と感じている。

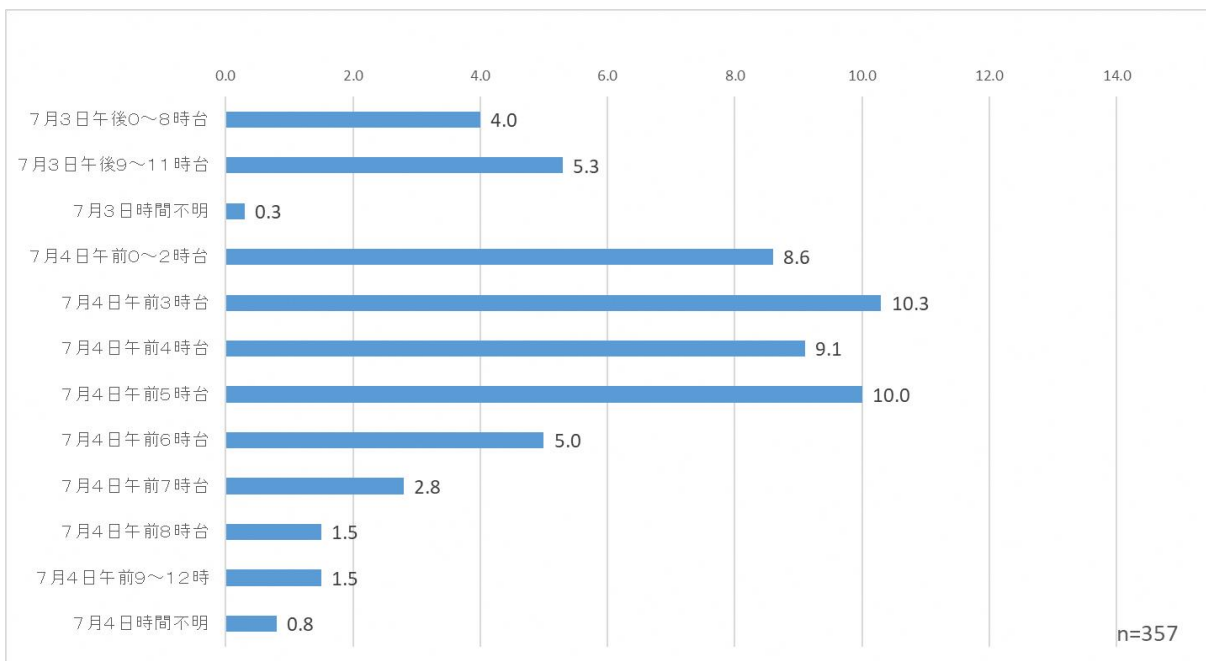
### 3. 令和2年7月豪雨時の避難行動

問6 あなたは、7月3日～4日にかけて、球磨村にいらっしゃいましたか



・回答者の大半が、水害当日球磨村にいた。

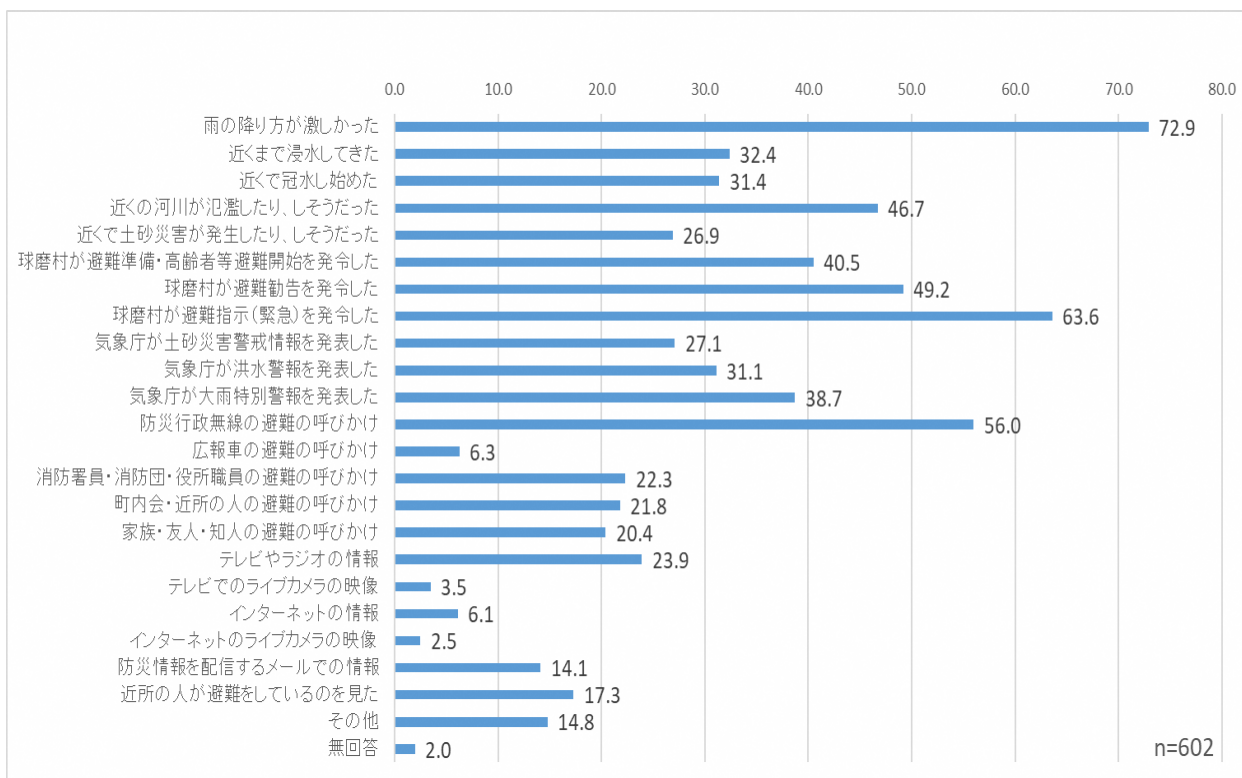
問7 危険なことが起こるかもしれないと思った日時



※無回答を除く

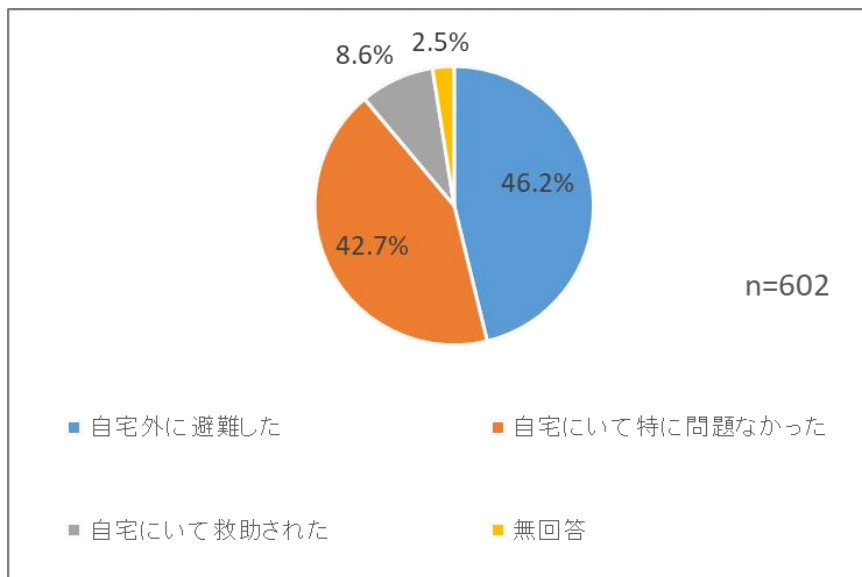
・「危険なことが起こるかもしれない」と思ったのは、大半が日付が変わって4日になってから。

付問 7-1 危険なことが起こるかもしれないと思った「きっかけ」は何ですか



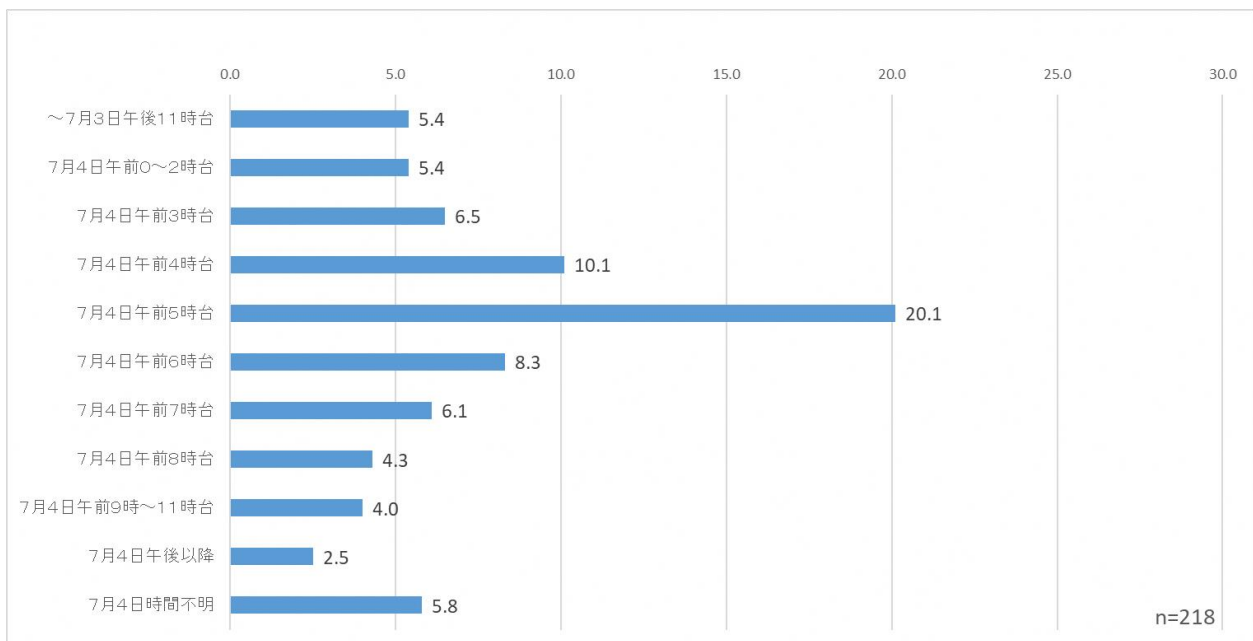
・危険なことが起こるかもしれないと思ったきっかけは、「雨の降り方が激しかった」(72.9%)が最も高く、次いで「避難指示(緊急)」(63.6%)、「防災行政無線」(56.0%)。

問8 あなたは、今回の水害で自宅外に避難をしましたか



- ・「自宅外に避難した」人と「自宅にいて特に問題なかった」人が4割強。
- ・「自宅にいて救助された」人が1割弱。

問8 自宅外に避難した日時

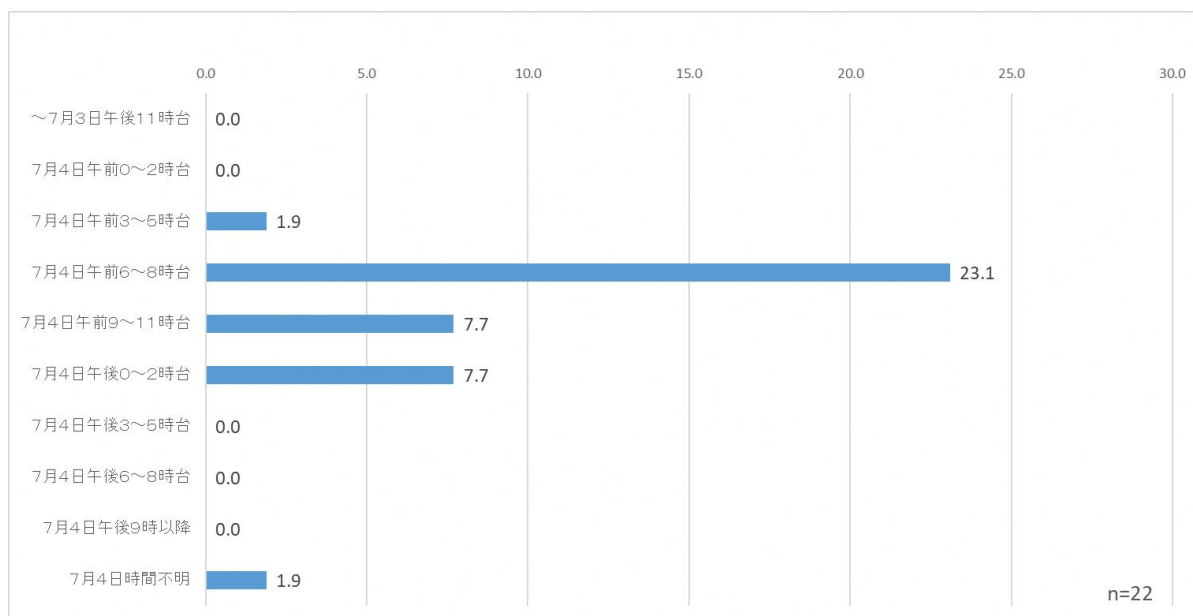


※無回答を除く

- ・自宅外に避難したのは、1/4が4日5時台と非常に危険な状況。



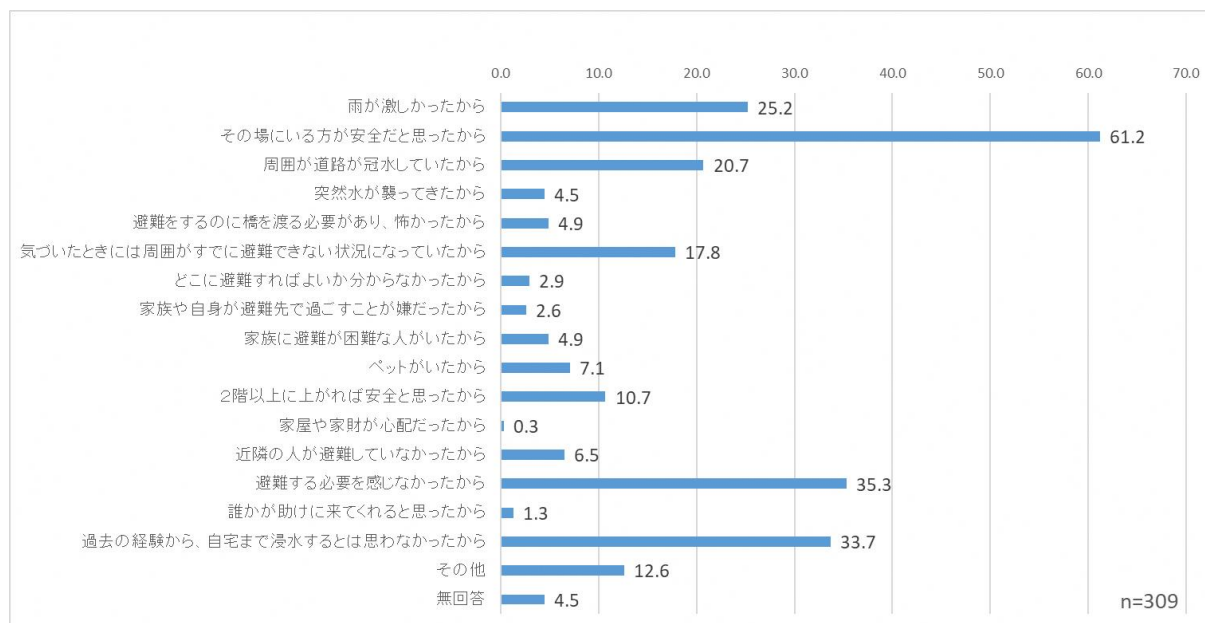
問8 自宅において救助された日時



※無回答を除く

・自宅において救助された人は、1/4が4日の6時～8時の間。

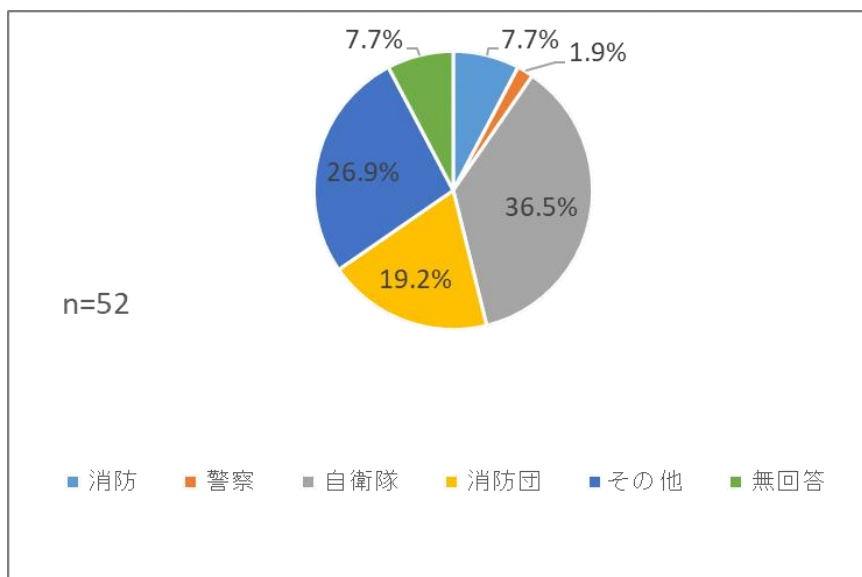
付問8-1 自宅にとどまった理由は何ですか



・自宅にとどまった理由としては、「その場にいる方が安全だと思った」(61.2%)が最も高い。

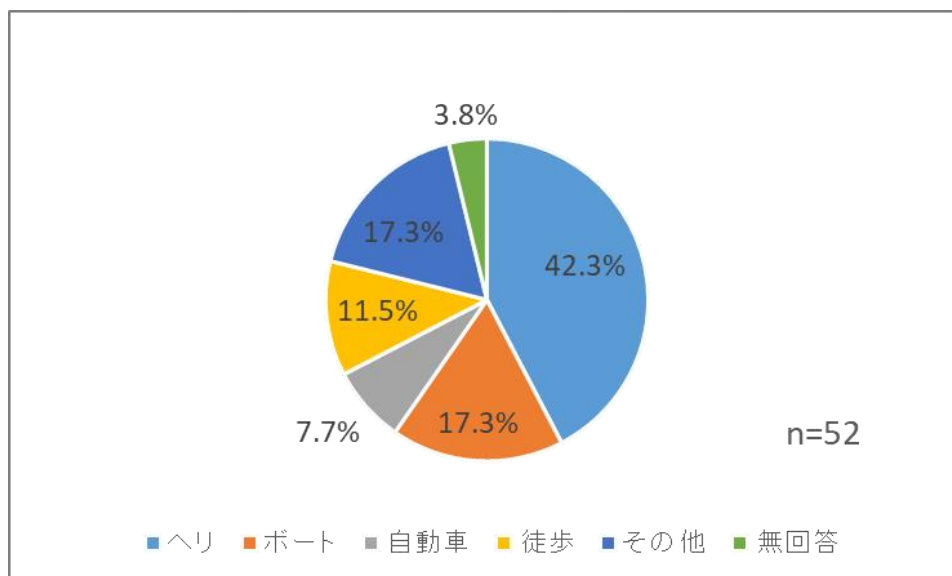
・次いで「避難するのを感じなかった」(35.3%)「過去の経験から、自宅まで浸水するとは思わなかった」(33.7%)といった認知の問題が高いが、「雨が激しかった」(25.2%)「周囲の道路が冠水していた」(20.7%)といった逃げ遅れもそれなりにいた。

付問 8 - 2 あなたは誰に救助されましたか



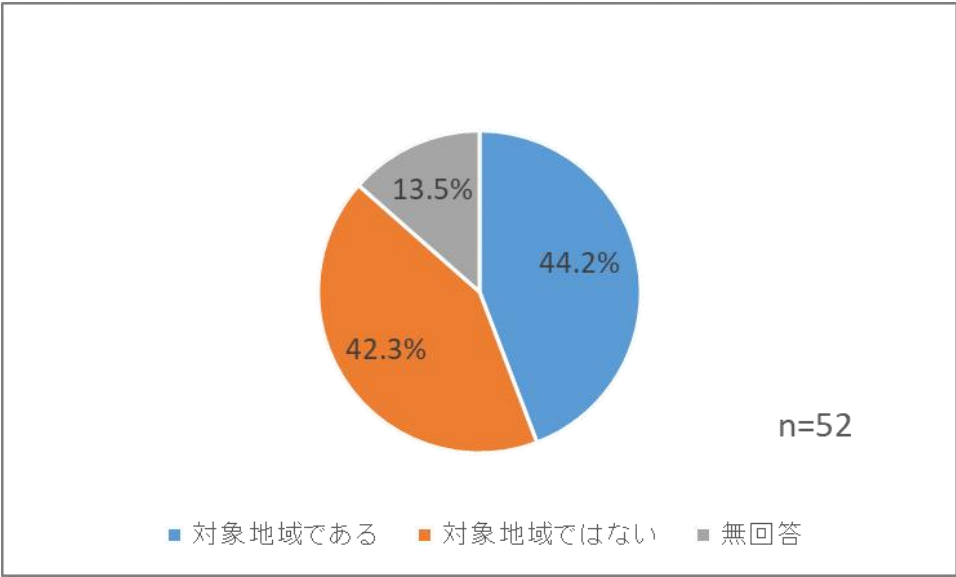
・ 1/3 以上が自衛隊に救助されている。

付問 8 - 3 あなたは何で救助されましたか



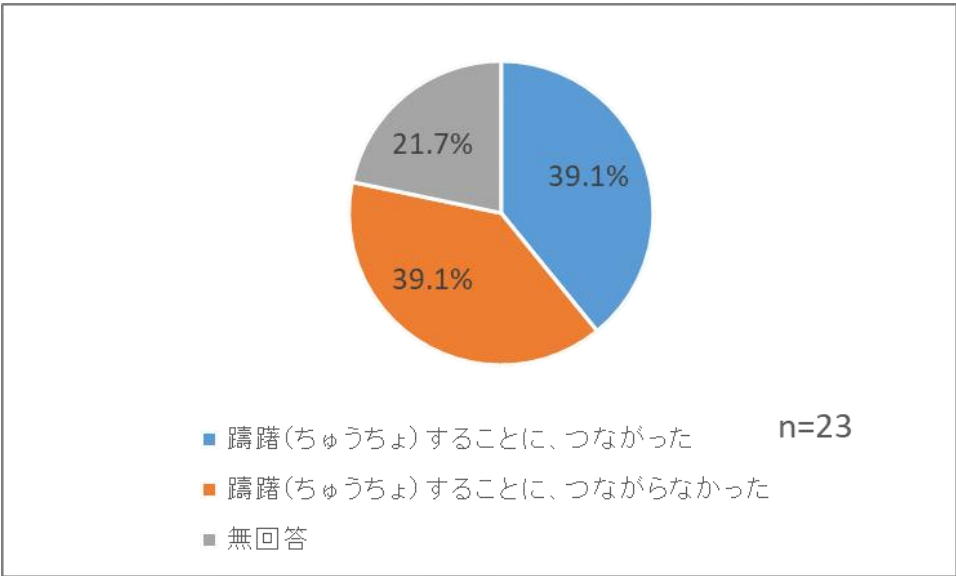
・ 4 割以上がヘリで救助されている。

付問 8 - 4 あなたのお宅は、国土交通省等が実施したハード事業（嵩上げ、堤防の整備、導流堤等）の対象地域でしたか



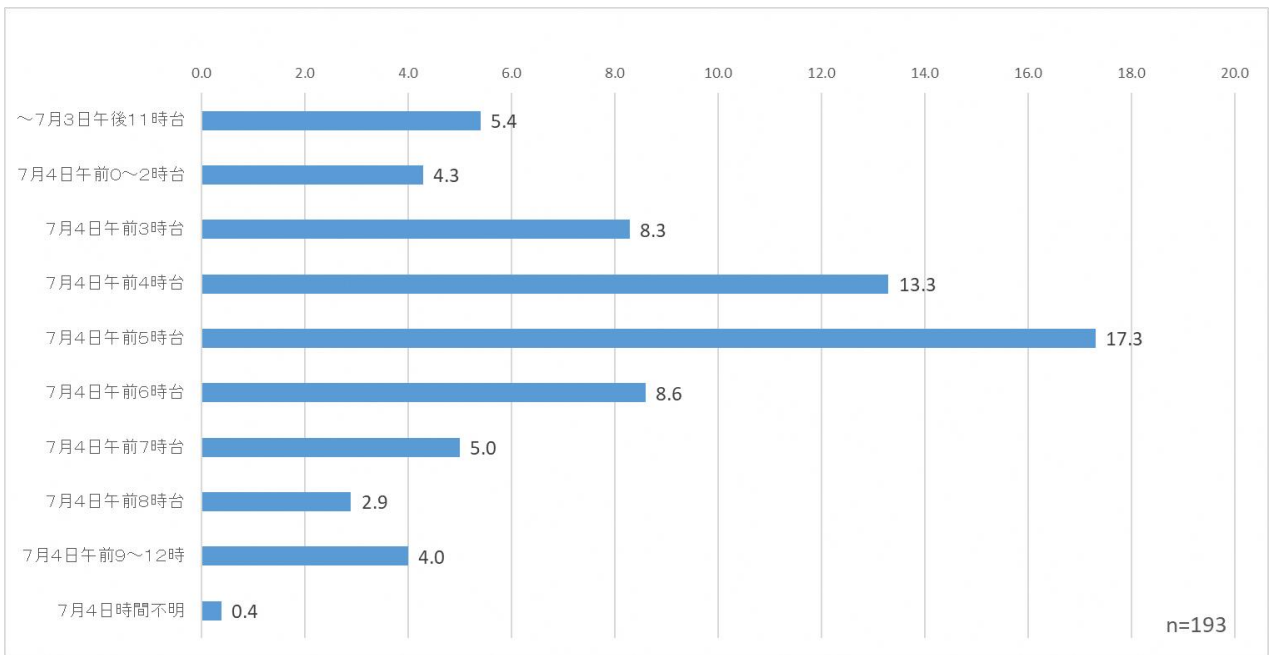
・ハード事業の対象地域が 44.2%

付問 8 - 4 【対象地域である】ハード事業により安全性が向上したことで、避難を躊躇（ちゅうちょ）することにつながったと思いますか



・ハード事業の対象地域に住んでいる 23 人のうち、そのために避難を躊躇した人が約 4 割。

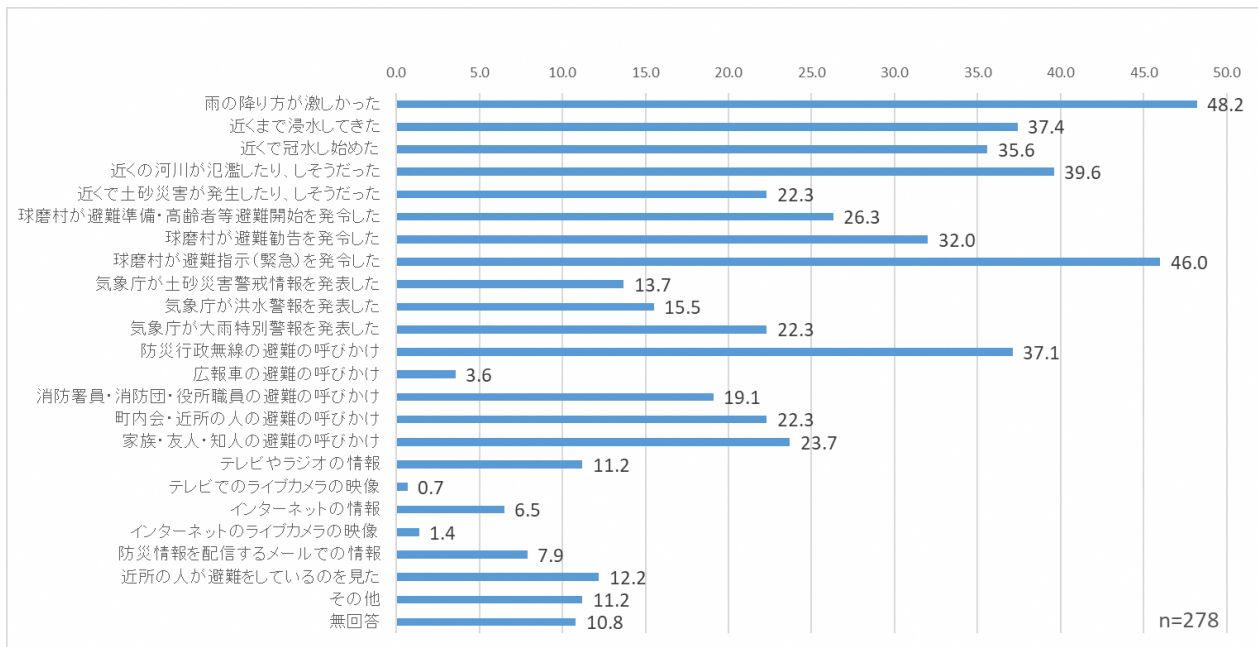
付問 8 - 5 あなたは何時ごろ自宅外に避難することを決めましたか



※無回答除く

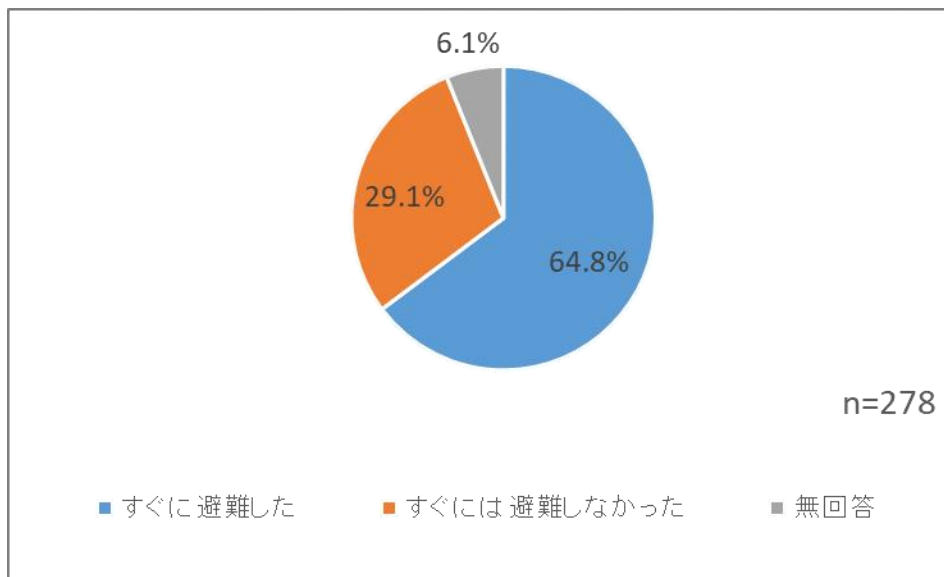
・自宅外に避難することを決めたのは、非常に危険な状況であった4時台・5時台いずれも2割弱。

付問 8 - 6 自宅外への避難を考えた「きっかけ」は何ですか



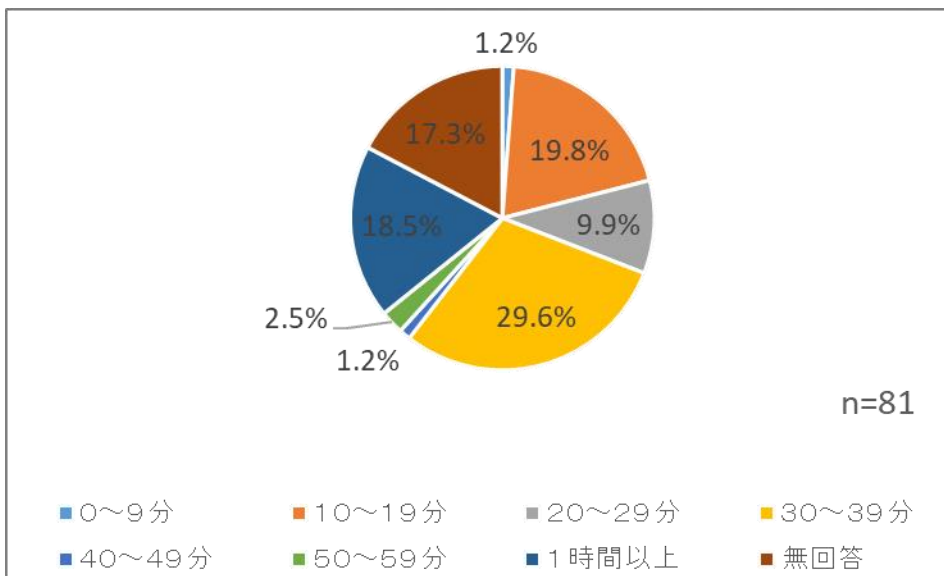
・自宅外への避難を考えたきっかけは、「雨の降り方が激しかった」「避難指示(緊急)」で半数弱。  
 ・それ以外では、「近くの線が氾濫したり、しそうだった」など、雨や河川の状況で、4割程度。  
 ・防災行政無線も37.1%と、避難を促している。

付問 8 - 7 避難を決めてからすぐに避難しましたか



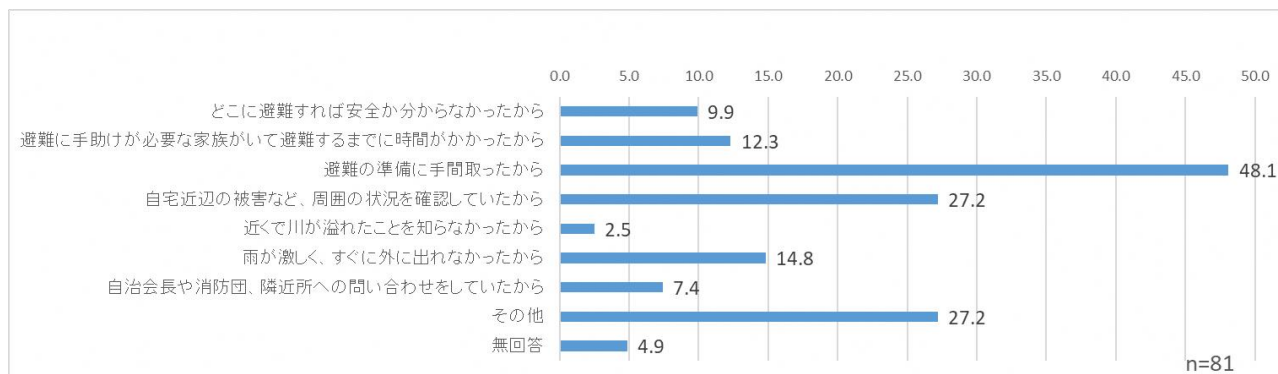
・ 7割弱の人が避難を決めてからすぐに避難しているが、3割の人がすぐに避難していない。

付問 8 - 7 避難し始めるまでにかかった時間



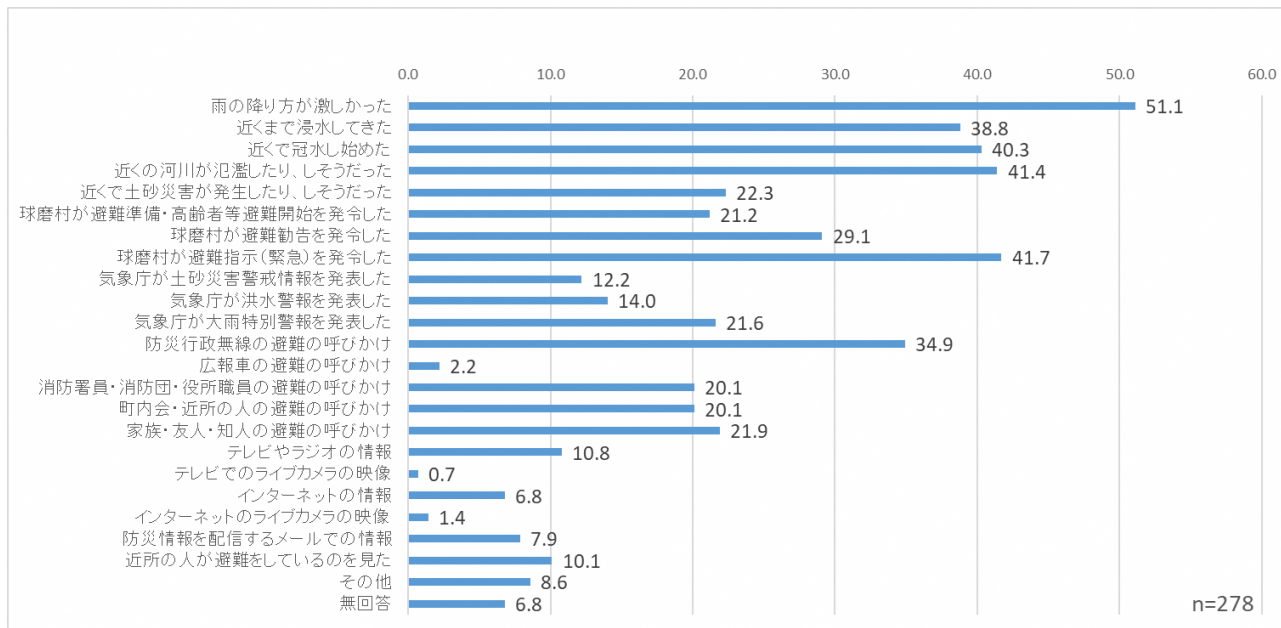
・ 3分の2の人が10~39分程度避難するまでに時間がかかっている。  
 ・ 1時間以上かかっている人も18.5%いた。

付問 8 - 7 【すぐには避難しなかった】すぐには避難しなかったのは、どのような理由ですか



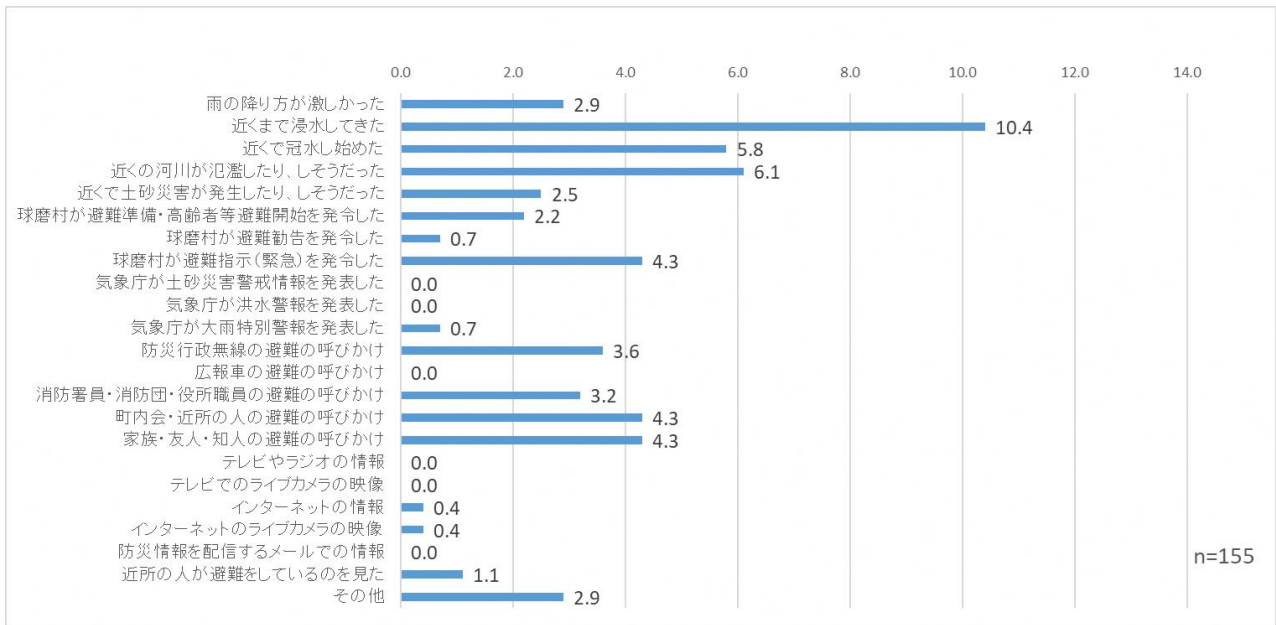
- ・ 避難に時間がかかった理由としては、半数弱が「避難の準備に手間取ったから」であった。
- ・ 3割弱の人が、周囲の状況を確認している。

付問 8 - 8 自宅外への避難を判断したときに参考にしたものはどれですか (MA)



- ・ 避難の判断には、「雨の降り方が激しかった」などの雨や河川の状況、球磨村の避難指示が参考になっている人の比率が高い。

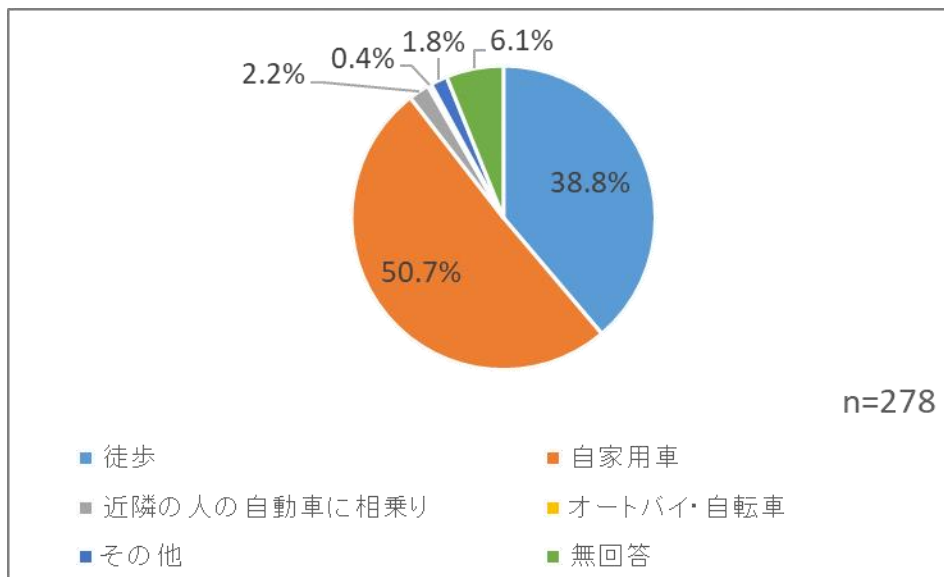
付問 8 - 8 自宅外への避難を判断したときにもっとも参考になったものはどれですか (SA)



※無回答を除く

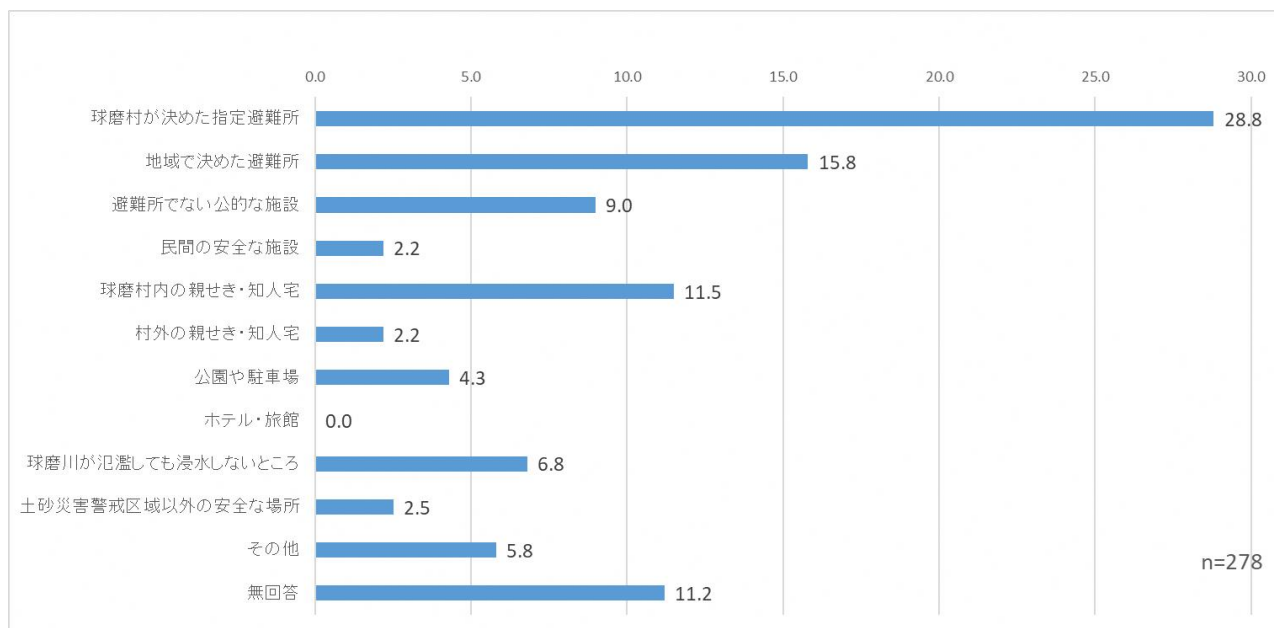
・単一選択式では、「近くまで浸水してきた」が参考になったとした人が最も多かった。

付問 8 - 9 あなたは、どのような手段で避難しましたか



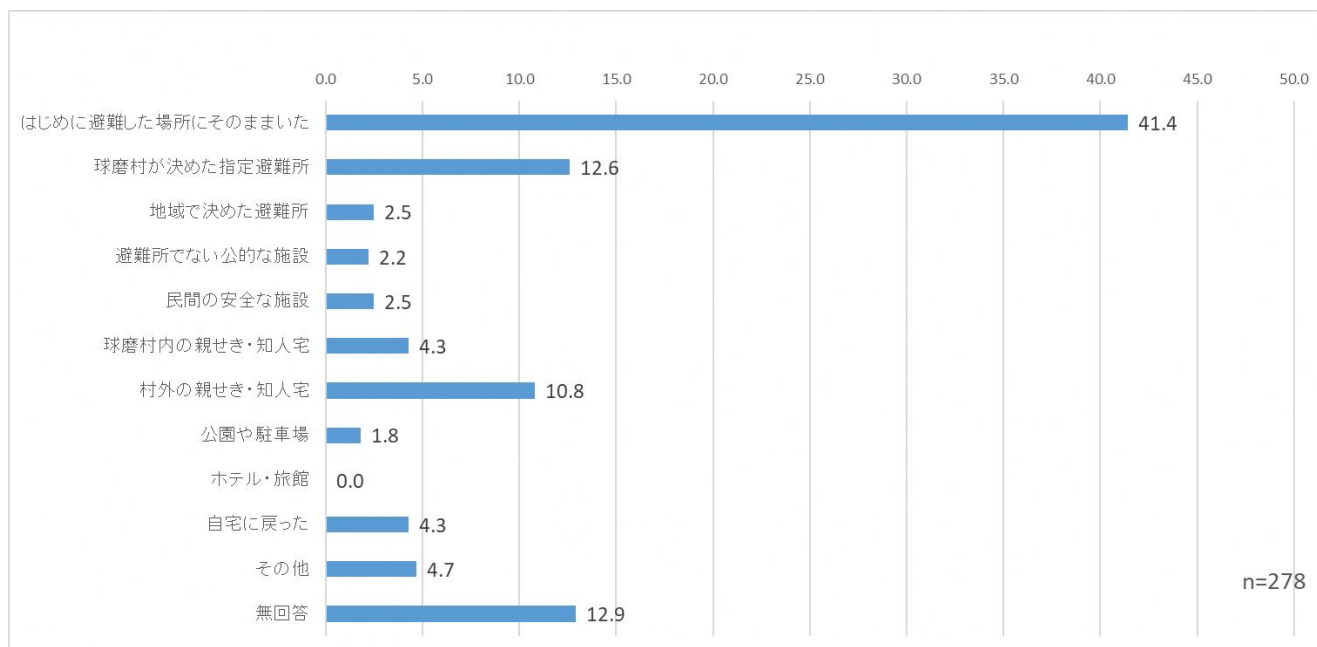
・避難手段は、自家用車が半数、徒歩が約4割であった。

付問8-10 あなたは、ご自宅からの避難のために、はじめにどこに向かいましたか



- ・避難先は、指定避難所が28.8%、地域で決めた避難所で15.8%と避難所が多い。
- ・村内の親せき知人宅も11.5%と縁故避難も一定程度見られた。

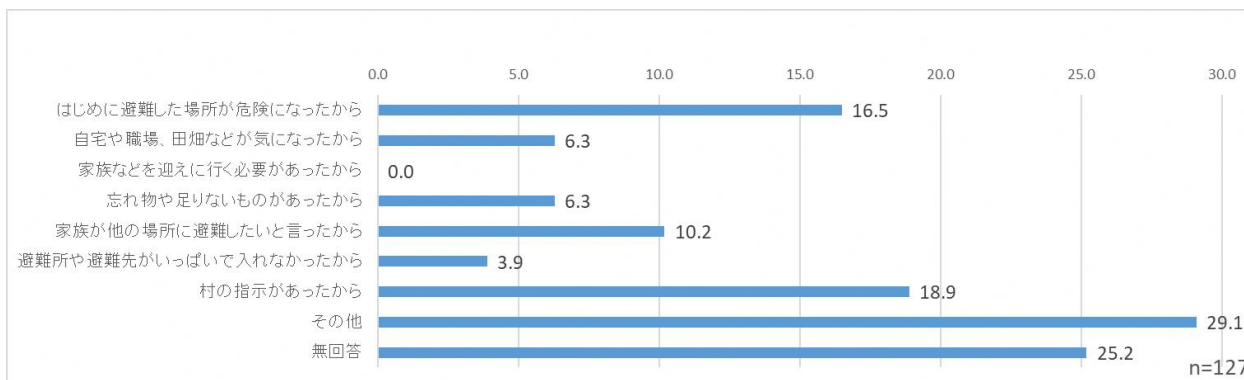
付問8-11 あなたは、自宅外に避難した後、事態が落ち着くまでどこか別の場所に避難や移動しましたか



- ・一度自宅外に避難した後、指定避難所（12.6%）や村外の親せき・知人宅（10.8%）など、移動した人が約半数いた。

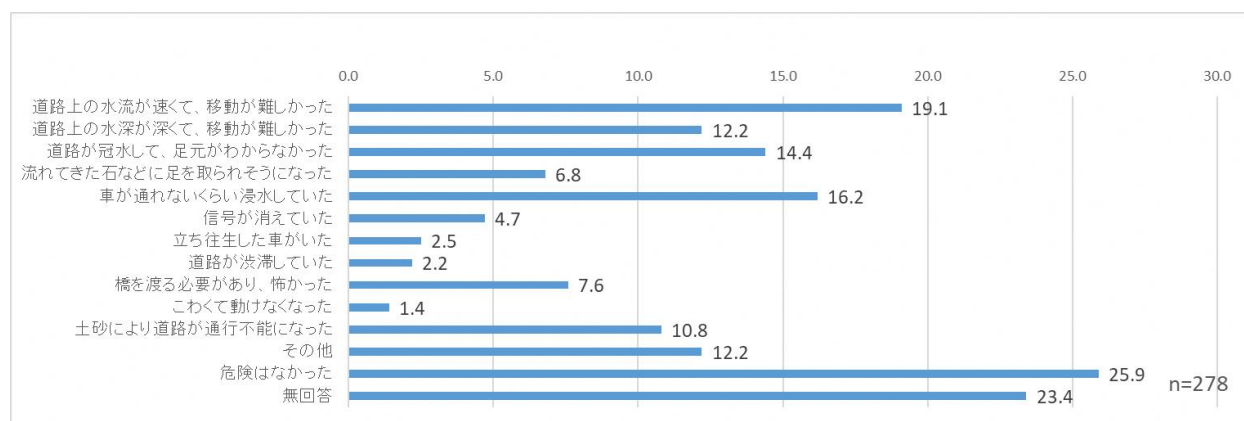


付問 8 - 1 1 【一度、自宅外に避難した後、避難や移動した人】自宅外に避難した後、別の場所に避難や移動したのは、どのような理由ですか



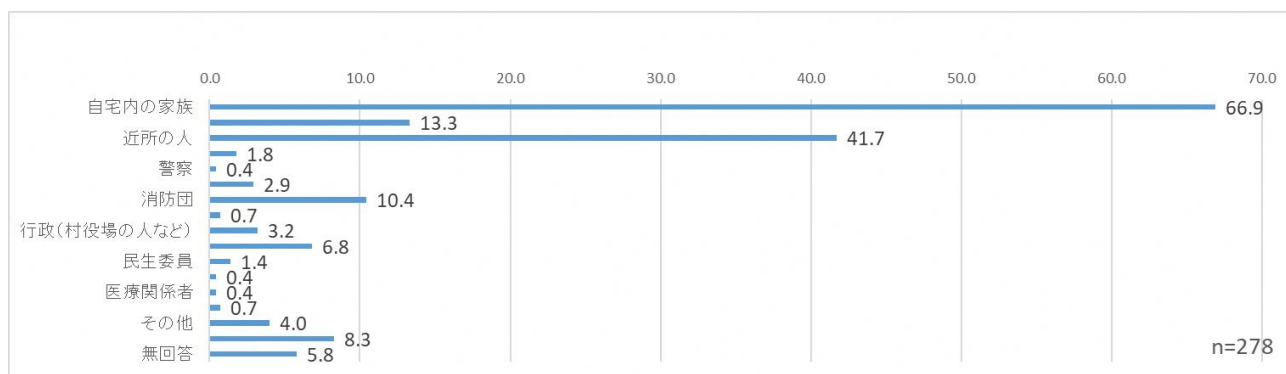
・一度自宅外に避難した後避難や移動をした理由は、村の指示やはじめに避難した場所が危険になったという人が多かった。

付問 8 - 1 2 避難の途中で危険なことはありましたか



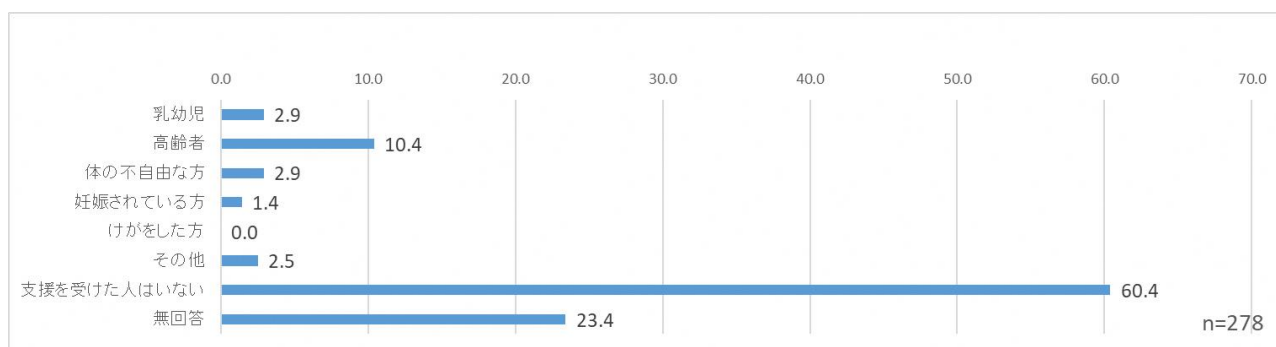
・半数以上の人々が、避難の途中で危険なことがあった。  
 ・浸水で、移動が困難であった人が多い。

付問 8 - 1 3 あなたは、避難したときに誰かと一緒にいたか



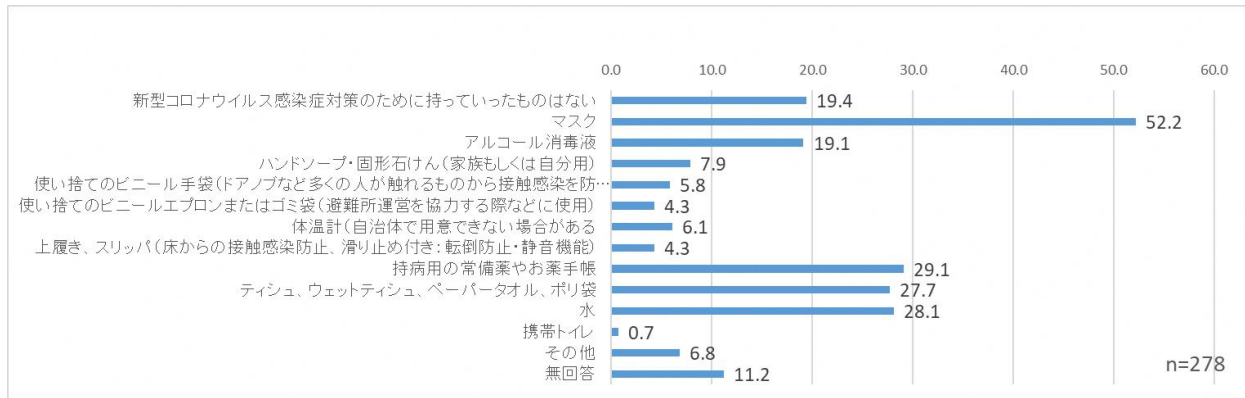
・家族と避難した人が7割弱と最も多いが、近所の人と避難した人も約4割いた。

付問 8 - 1 4 あなたを含むご家族が避難するとき、支援を受けた人はいますか



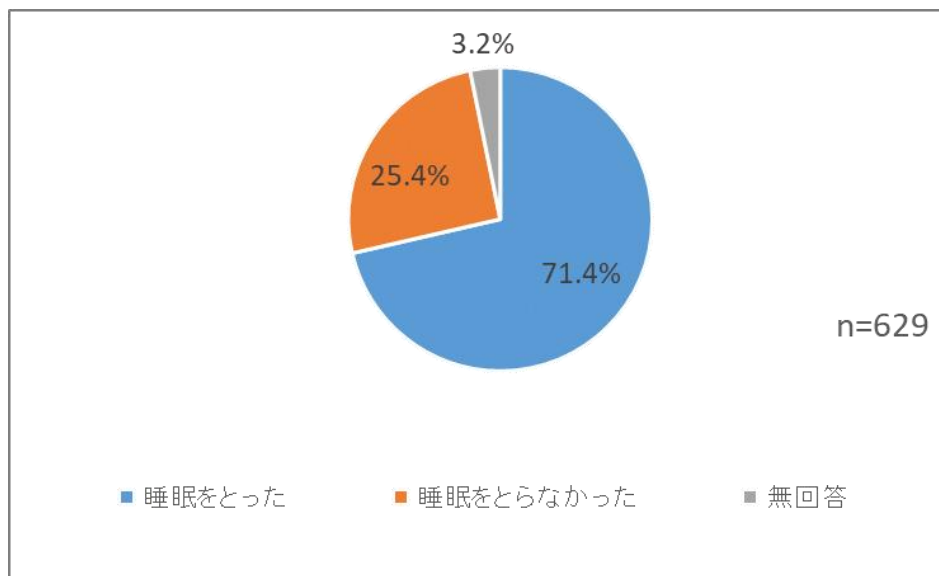
・「支援を受けた人はいない」とした人が6割いた。

付問8-15 あなたは、避難するときに新型コロナウイルス感染症対策のために、以下のようなものを持っていきましたか



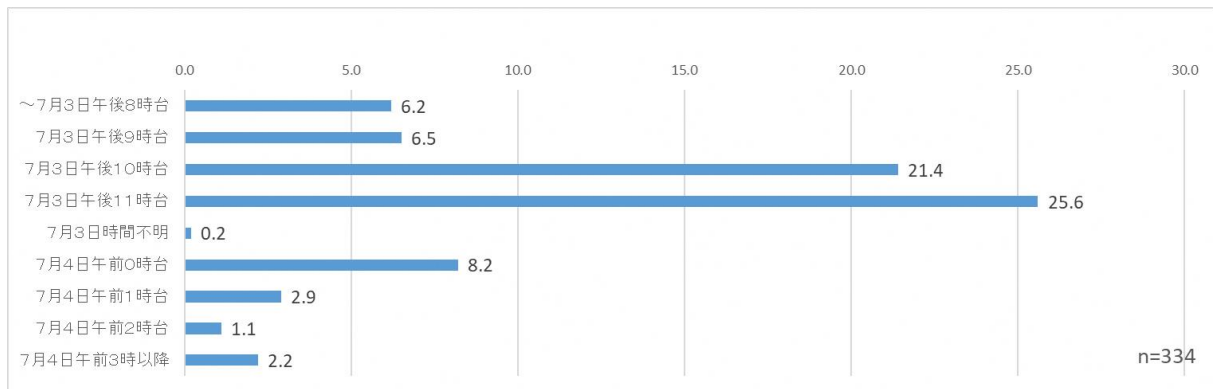
・半数強の人が、コロナ対策としてマスクを持って行っているが、それ以外は3割以下。

問9 あなたは7月3日の夜から翌4日の朝にかけて、睡眠をとりましたか



・7月3日の夜から翌4日にかけて、睡眠をとらなかった人が4分の1いた。

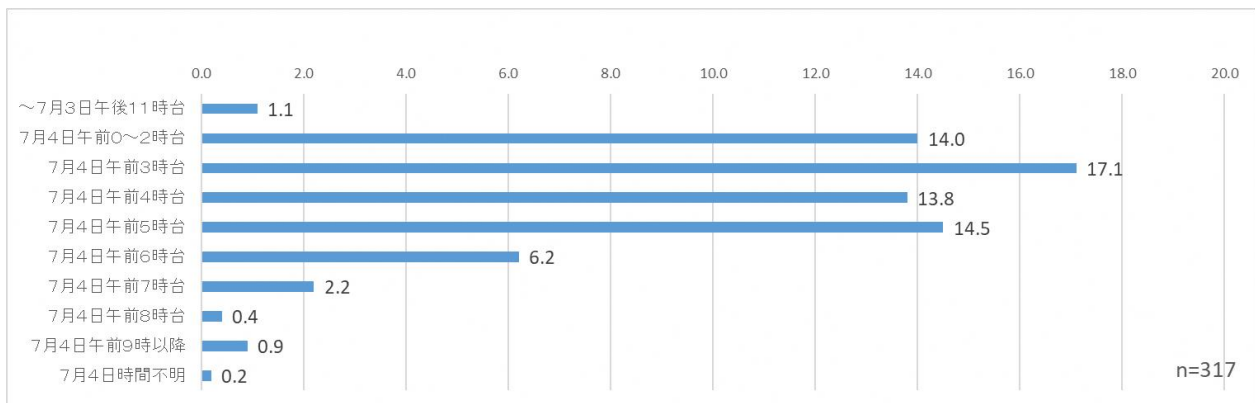
問9 寝た時間



※無回答除く

・睡眠をとった人の約8割の人が、日付が変わる前に寝ている。

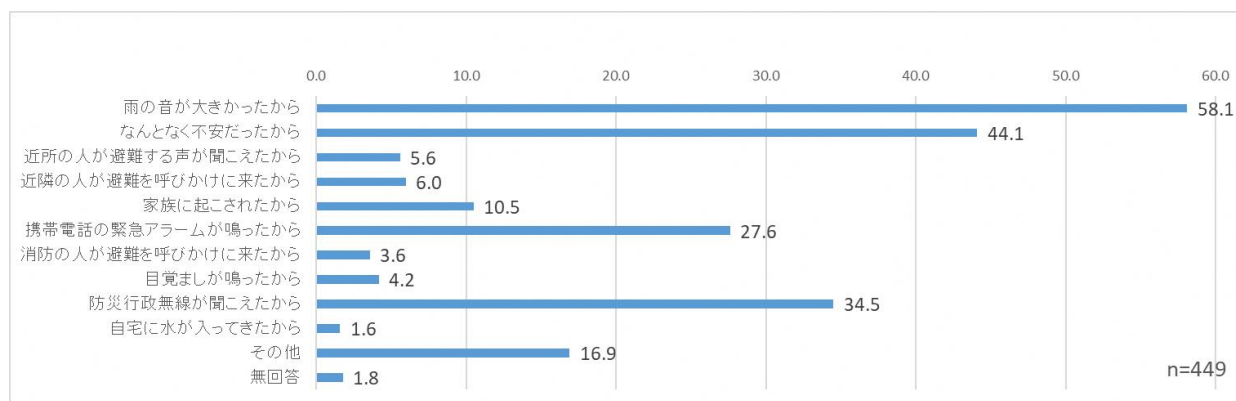
問9 起きた時間



※無回答除く

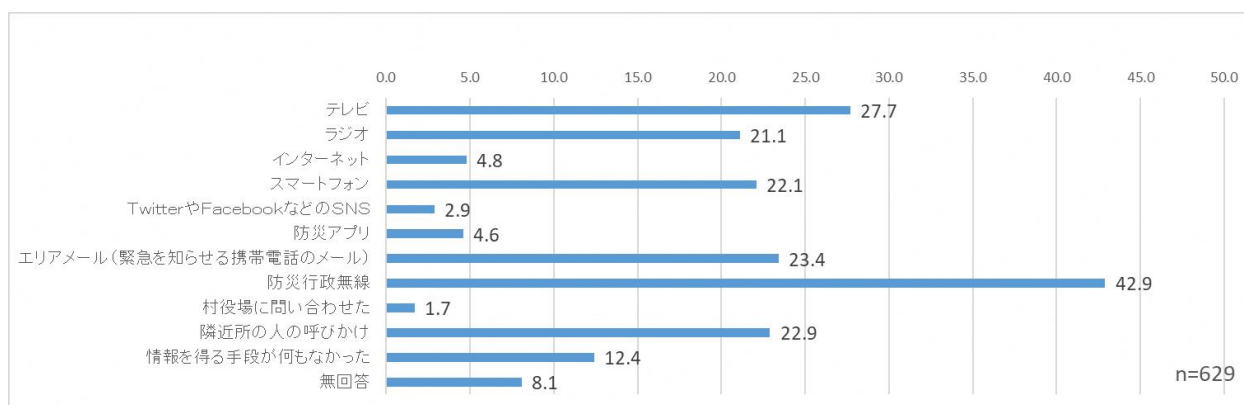
・睡眠をとっていた人は、日付が変わったところから目が覚め始めている。

付問9-1 目が覚めたきっかけとして、あてはまるものすべてに○をつけてください



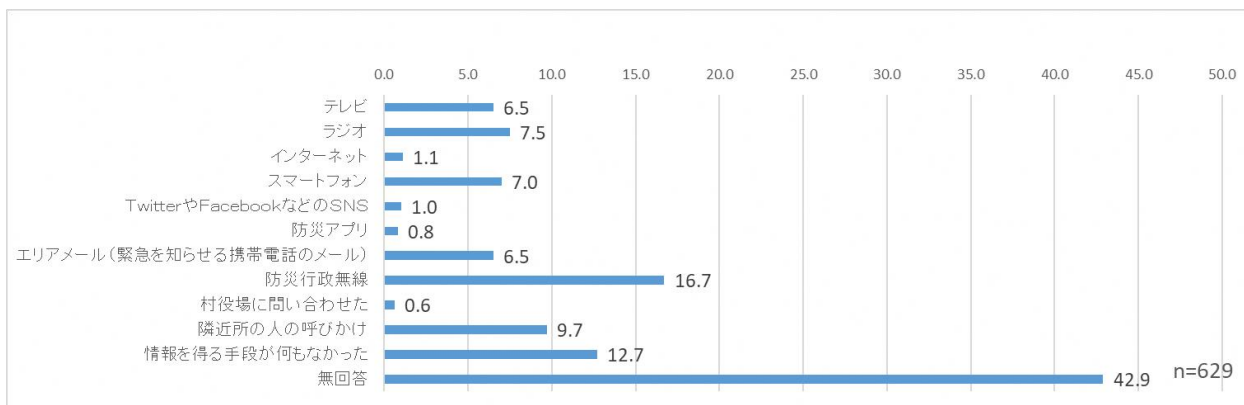
- ・睡眠をとっていた約6割の人が雨の音で目が覚めている。
- ・何となく不安で目を覚ました人も4割強おり、防災行政無線でも3分の1の人が目が覚めた。

問10 7月4日の明け方、大雨や洪水について何で見聞きしましたか



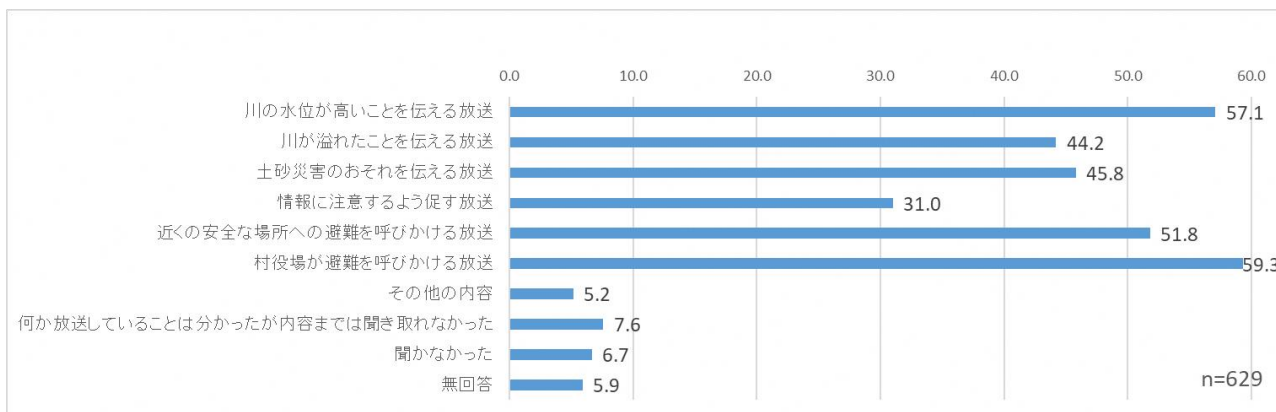
- ・4割強の人が防災行政無線で状況を見聞きしていた。
- ・テレビやラジオは2割強で、雨が強くなった未明は放送時間外であったためであろう。

問10 7月4日の明け方、大雨や洪水について役に立ったものはなんですか



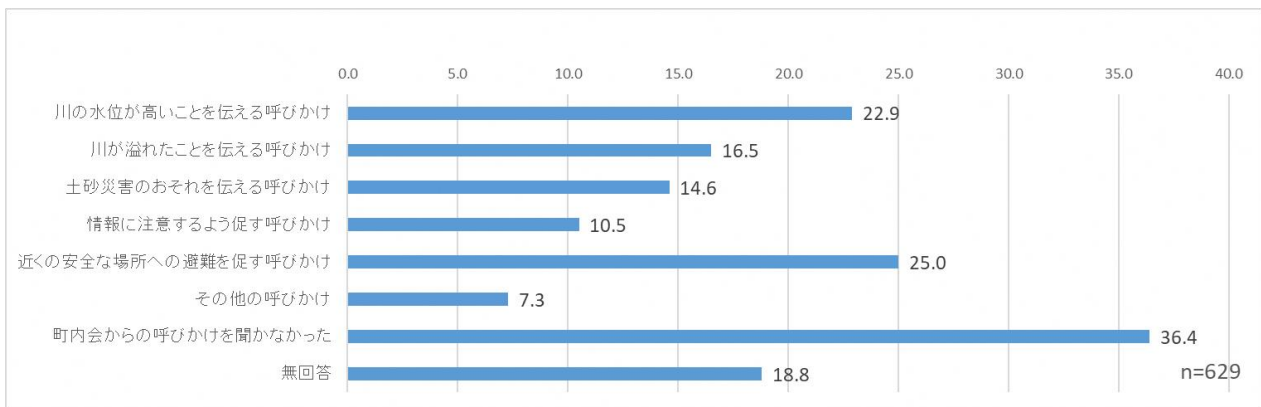
・ 防災行政無線が役に立ったとした人が多い。

問11 あなたは防災行政無線で以下のようなことを聞きましたか



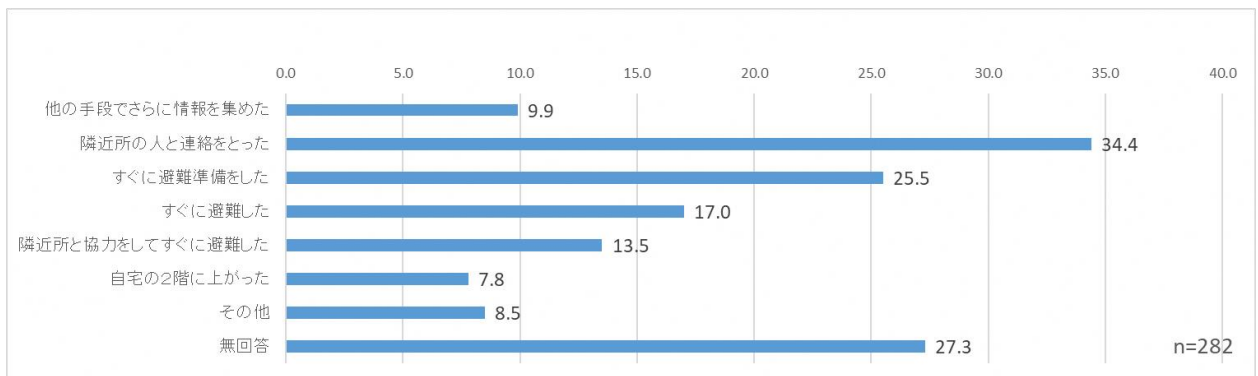
・ 避難を呼びかける放送や、水位が高いことを伝える放送は、半数以上の人聞いていた。

問 1 2 あなたは、今回の水害時、町内会からの以下のような呼びかけがありましたか



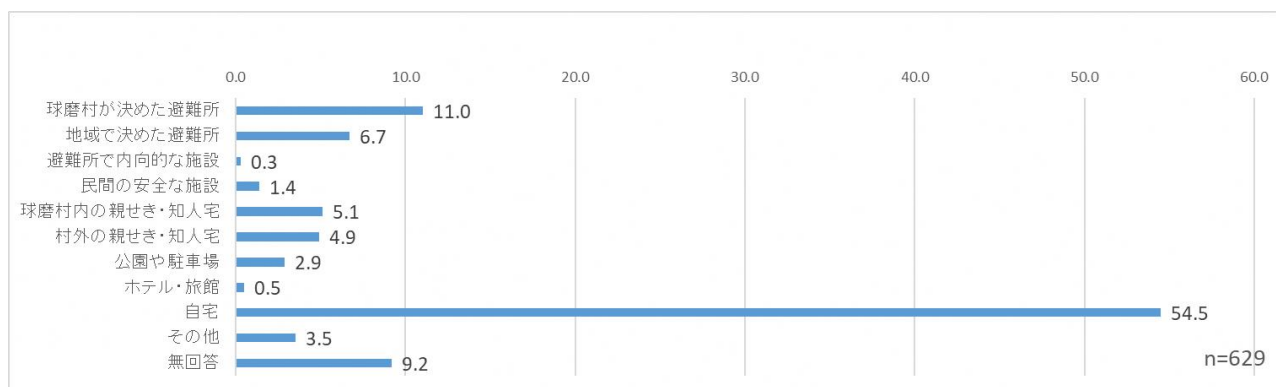
- ・町内会からの呼びかけを聞かなかった人は4割弱いる。
- ・避難を促す呼びかけや、水位が高いことを伝える呼びかけを聞いた人が、それぞれ約4分の1いた。

付問 1 2 - 1 町内会からの呼びかけをうけ、どのように行動しましたか



- ・町内会からの呼びかけを受け、3分の1の人が近隣の人と連絡を取り、4分の1の人がすぐに避難準備をしている。

問13 あなたは、水害があった7月4日の夜、どこにいましたか

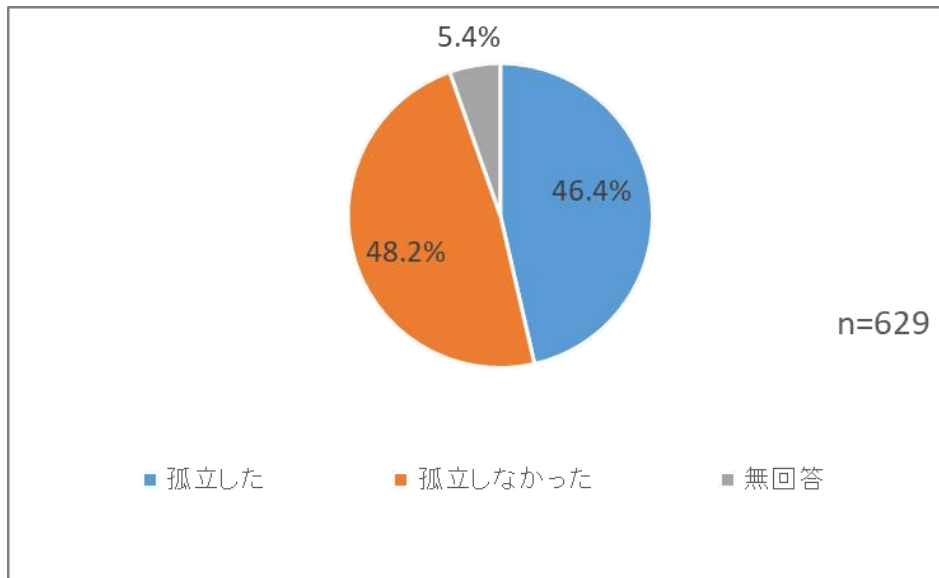


・水害のあった7月4日の夜、半数強は自宅にいた（帰れた）が、4割弱が帰れていない。



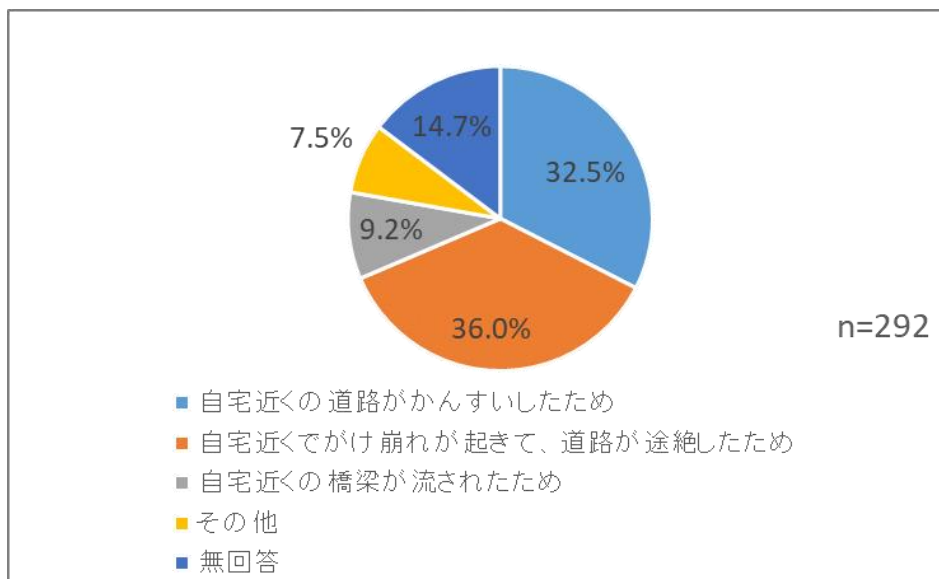
#### 4. 令和2年7月豪雨時に困ったこと

問14 あなたはこの水害を通して孤立するようなことはありましたか



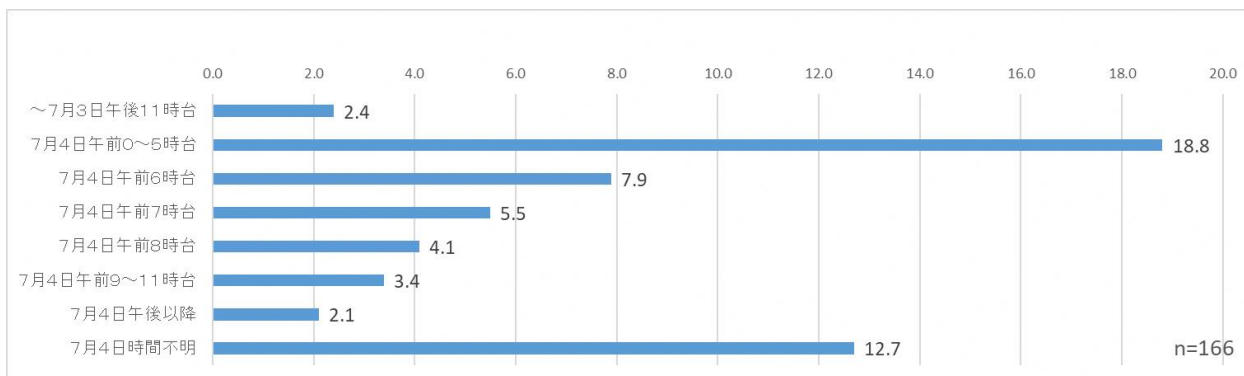
・孤立した人と、孤立しなかった人は、およそ半々であった。

付問14-1 あなたが孤立した理由として、あてはまるものに1つだけ○をつけてください



・孤立した理由としては、がけ崩れで道路が途絶したものと冠水したことが、それぞれ3割強であった。

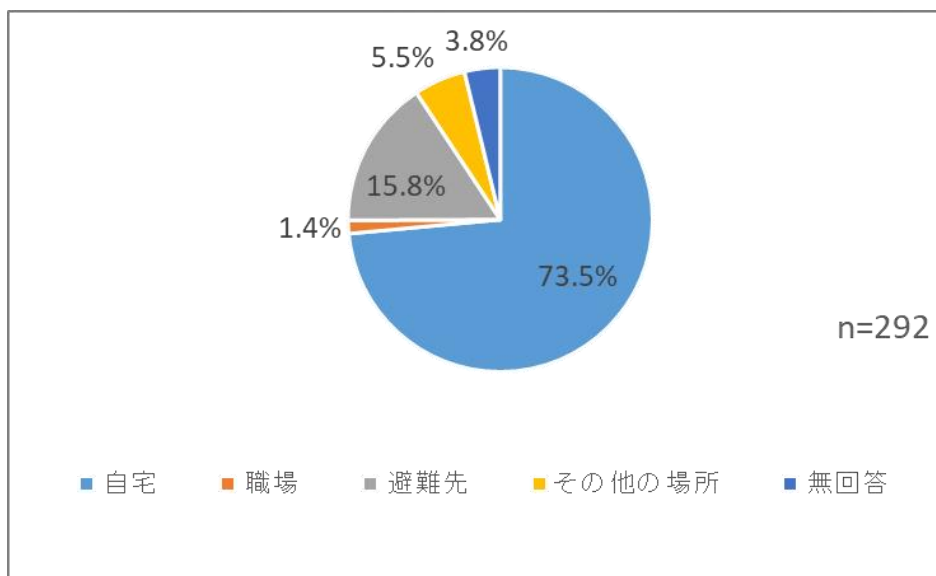
付問14-1 孤立した日時



※無回答除く

・孤立した時刻は、2割の人が4日未明であった。

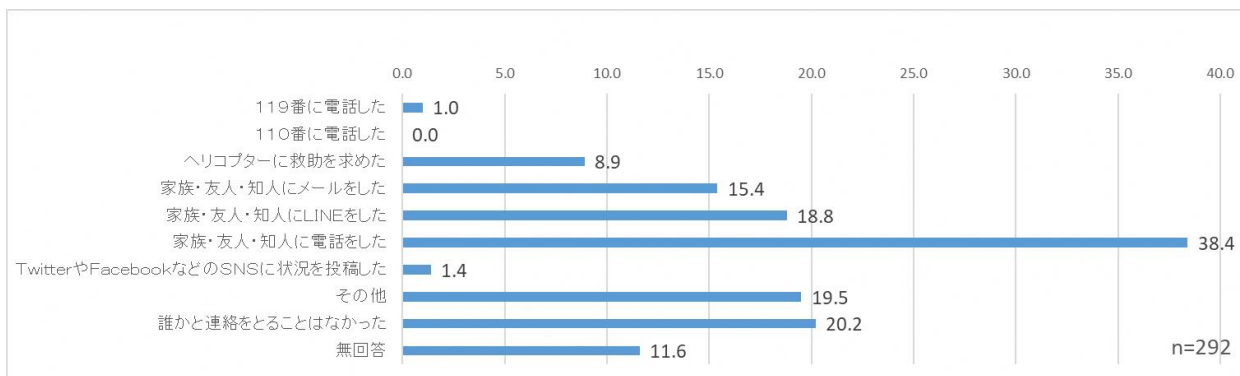
付問14-2 あなたは、どこで孤立しましたか



・約7割の人が自宅で孤立している。

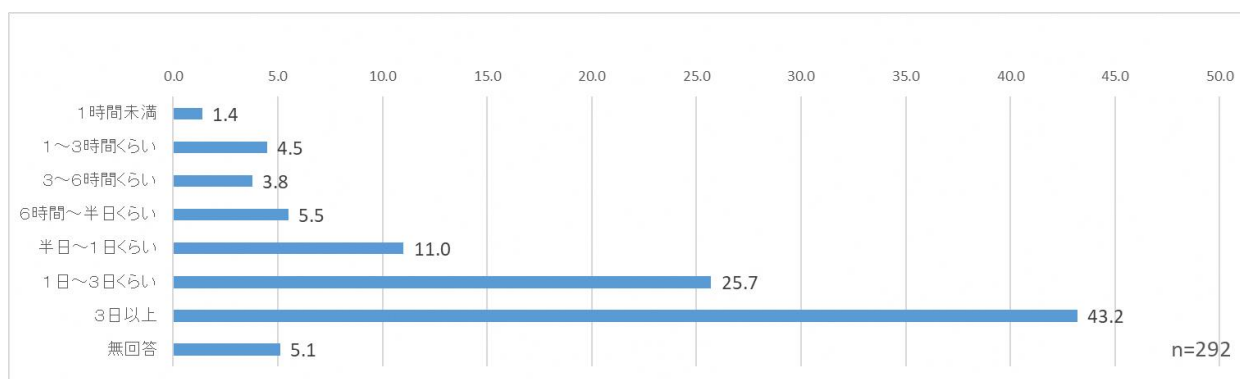
・15.8%が避難先で孤立している。

付問14-3 あなたは、孤立したり、避難したりしたときに、誰かと連絡をとりましたか



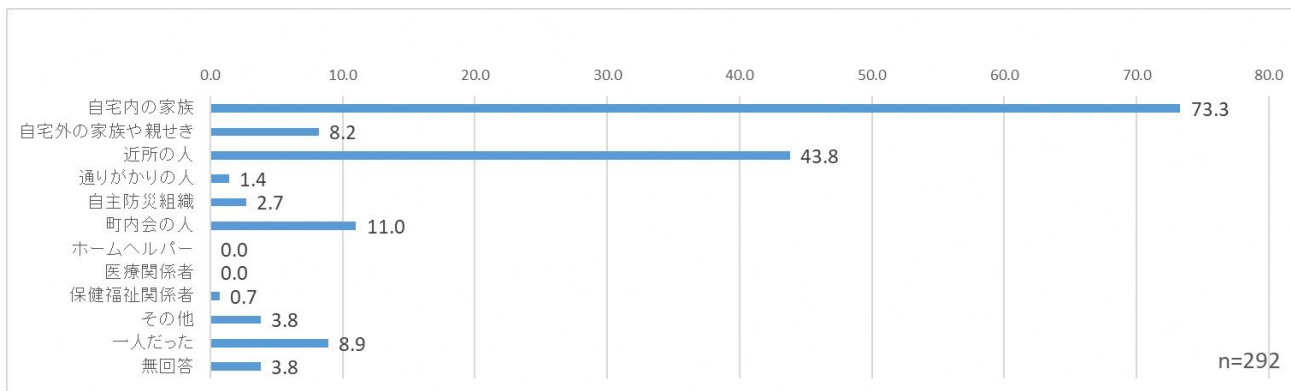
・孤立した時に、家族・友人・知人に電話した人が約4割いた。

付問14-4 あなたは、どのくらいの期間、孤立していましたか



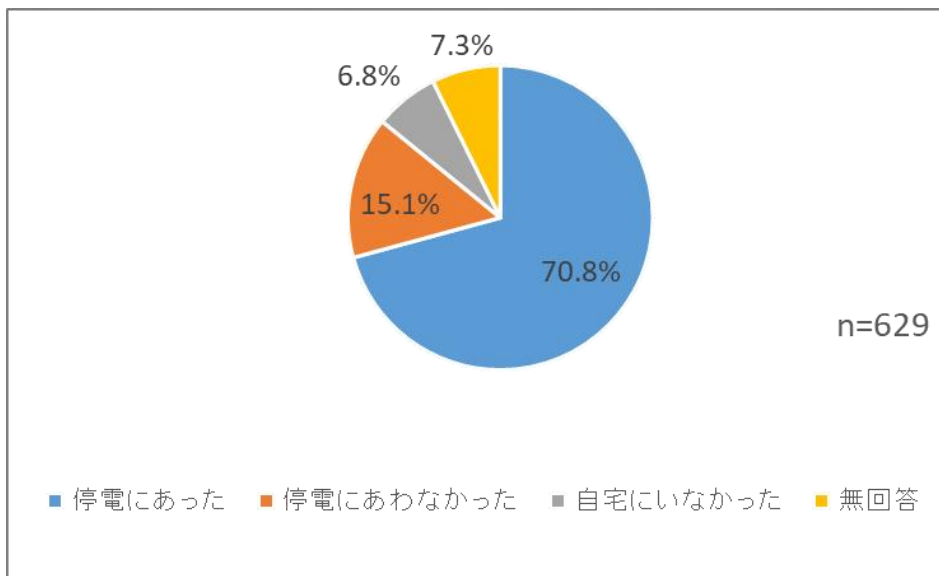
・孤立した人の4割強が3日以上孤立していた。

付問14-5 あなたは、孤立したとき誰と一緒にいましたか



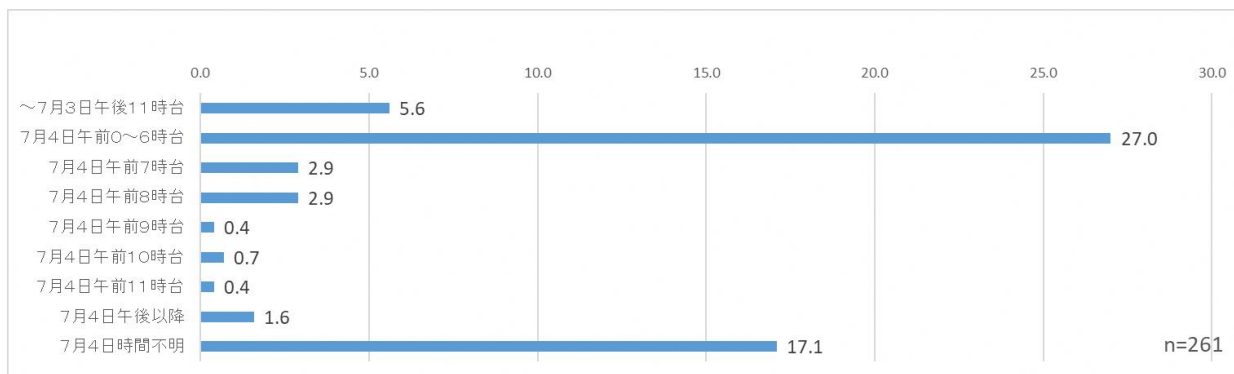
・ 孤立した時、7割強が自宅内の家族と、4割強が近所の人と一緒にだった。

問15 7月3日から4日にかけて、ご自宅で停電にあいましたか



・ 7割の人が停電にあった。

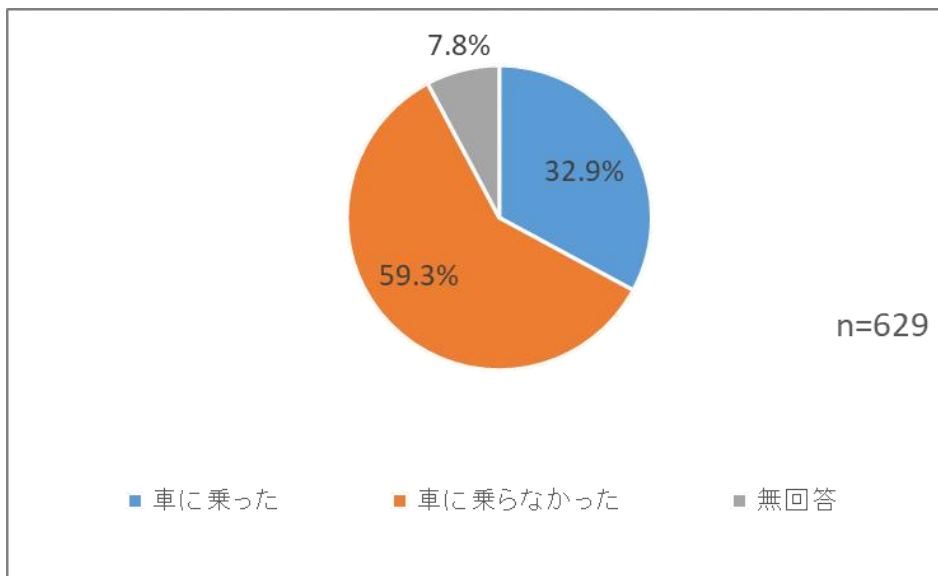
問15 停電にあった日時



※無回答除く

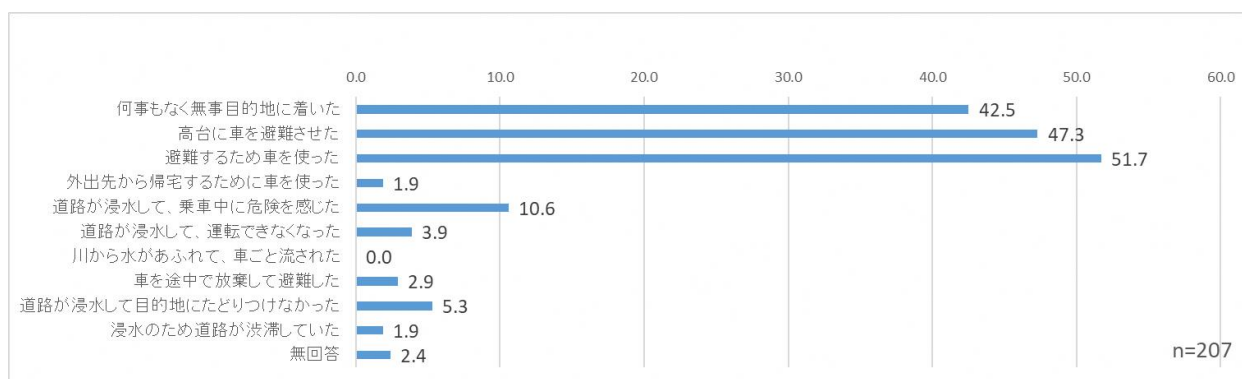
・ 停電にあった人の約半数が4日の未明にっている。

問16 7月4日午前中、水害の最中に車に乗りましたか



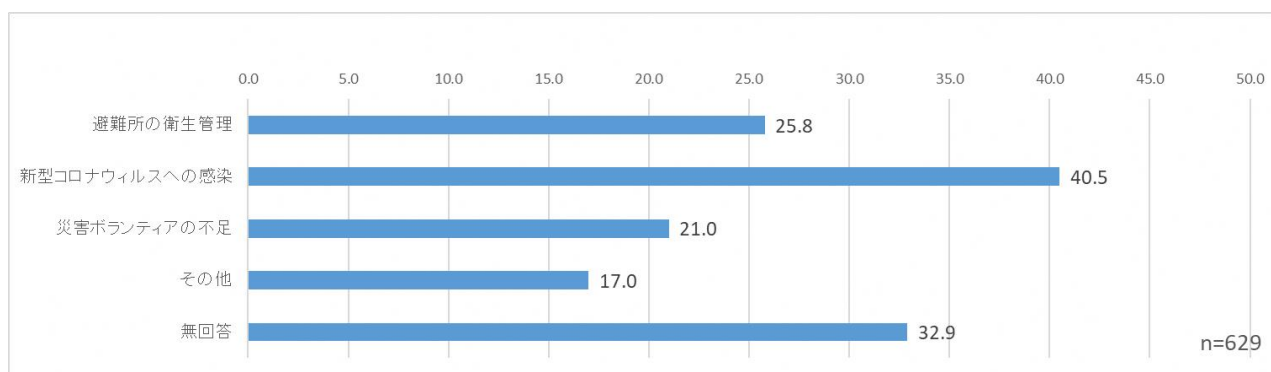
・ 4日の午前中、水害の最中に車に乗った人は約3分の1。

付問16-1 あなたが車に乗っていたときの状況を伺います



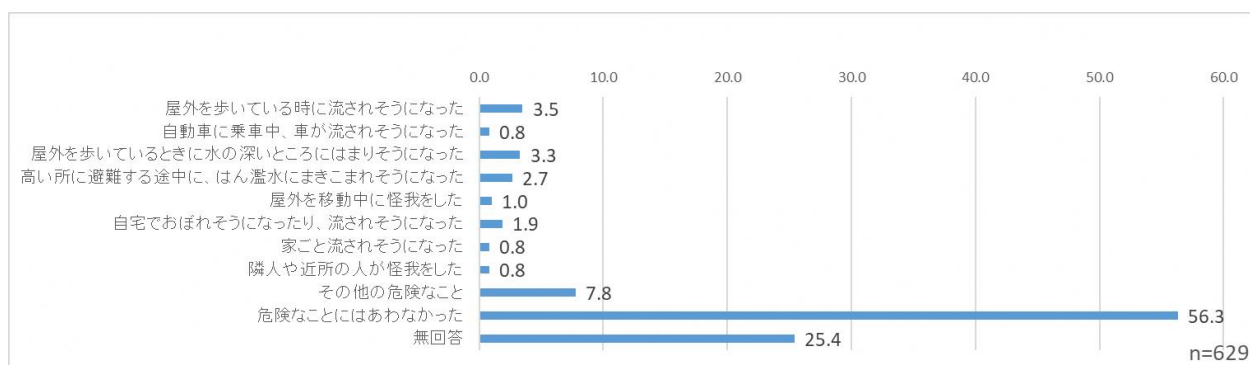
- ・ 4日の午前中に車に乗った人の約半数が避難するため。
- ・ 1割強の人が浸水で乗車中に危険を感じている。

問17 被災後の生活で以下のような不安はありましたか



- ・ 被災後の生活で、4割の人が新型コロナウイルスへの感染に不安があった。

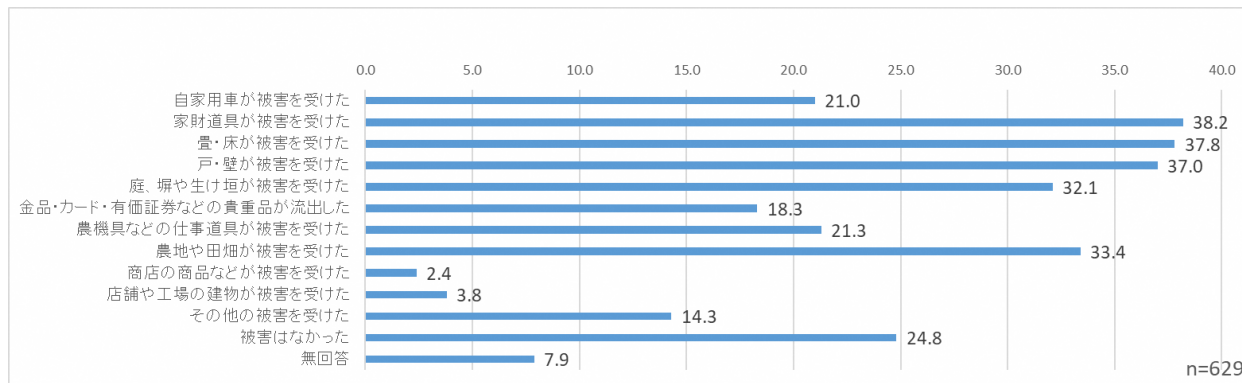
問18 あなたは、水害の間、何か危険なことにあいましたか



- ・半数以上の人々が、水害の間に危険なことにあわなかった。
- ・少なくとも約2割の人々が、水害の間に、危険なことにあっている。

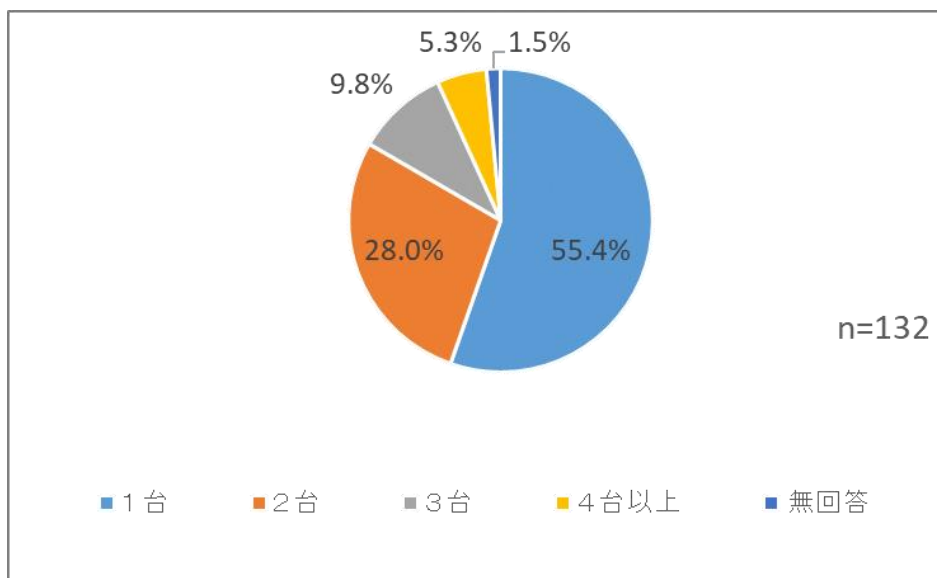
## 5. 令和2年7月豪雨での被害

問19 今回の水害で、あなたが所有している資産や財産の被害について伺います



・ 7割程度の人が、資産や財産の被害にあっている。

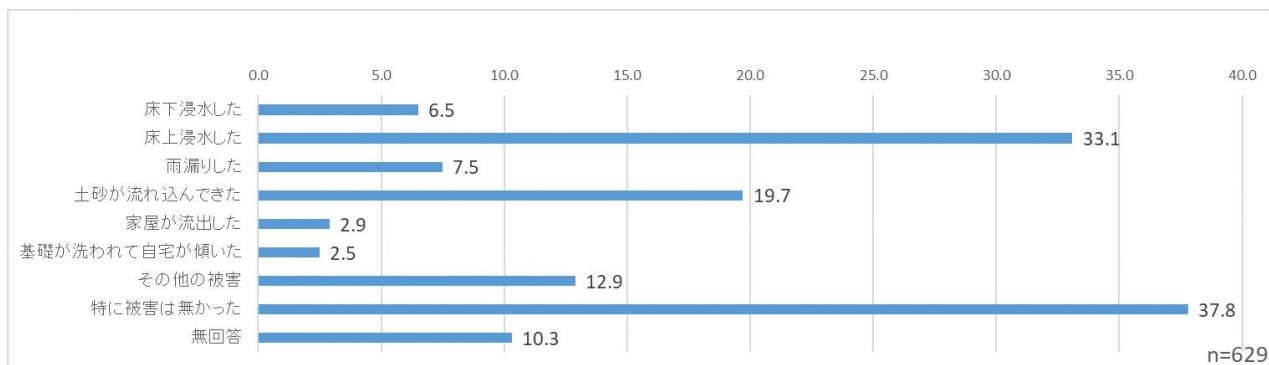
問19 被害を受けた自家用車の台数



・ 自家用車が被害を受けた人の4割が2台以上被害を受けている。

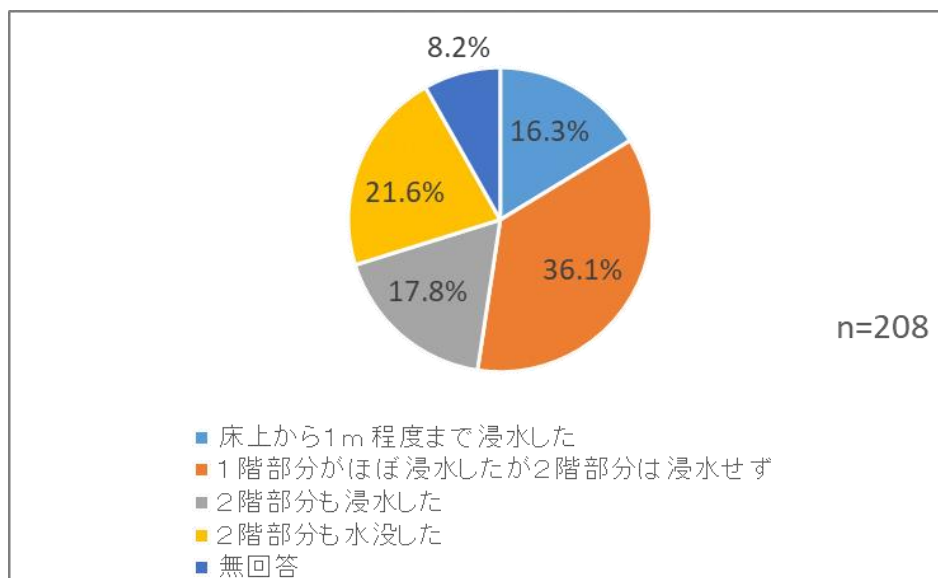


問 2 0 今回の水害で、あなたのご自宅はどのような被害にあいましたか



・約3分の1の人が、床上浸水している。

付問 2 0 - 1 あなたのご自宅はどの程度、浸水しましたか



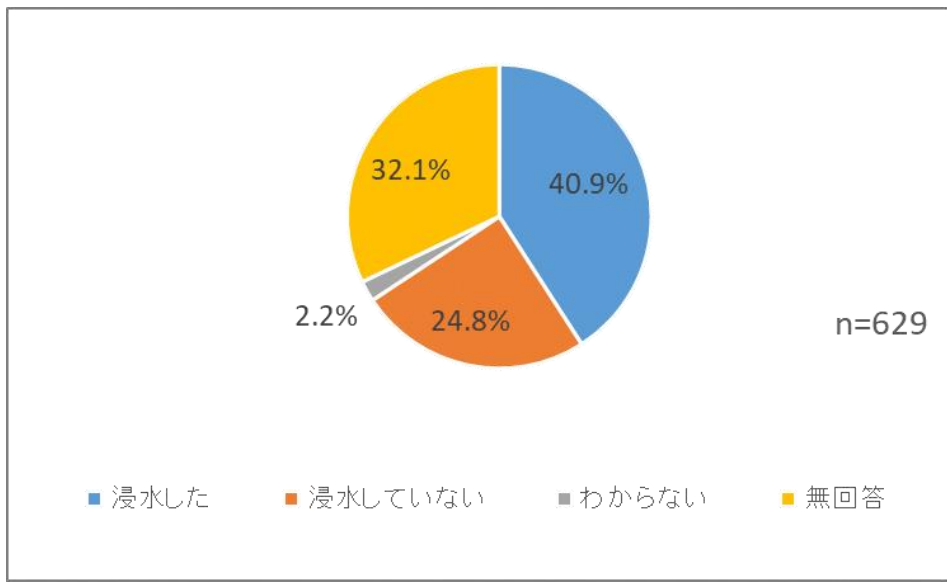
・床上浸水した人のうち、約4割の人が2階部分も浸水している。

付問20-2 今回の水害で、ご自宅はどのような被害を受けましたか。罹災証明上の被害として、あてはまるものに1つだけ○をつけてください



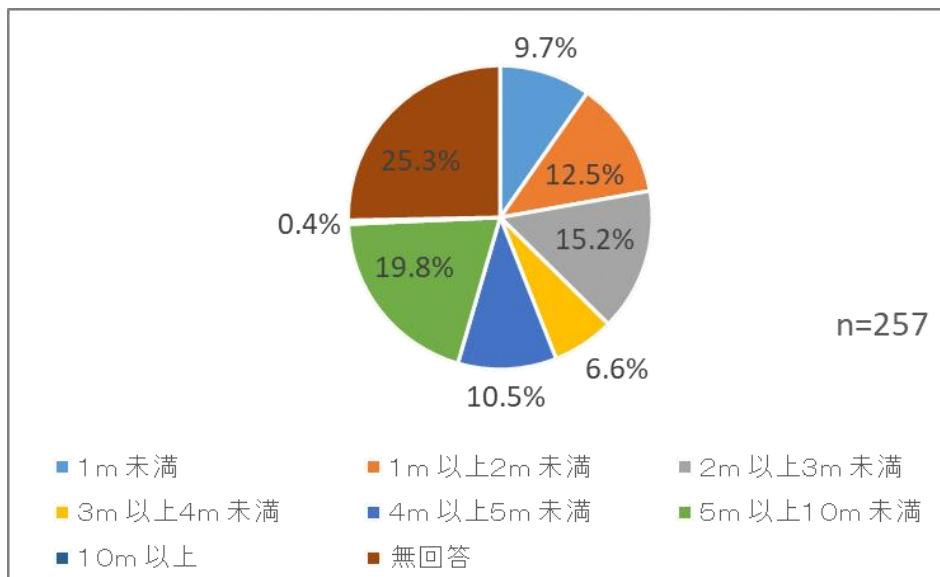
・自宅に被害のあった人のうち半数強が全壊認定されている。

問21 今回の水害で、あなたのご自宅は浸水しましたか



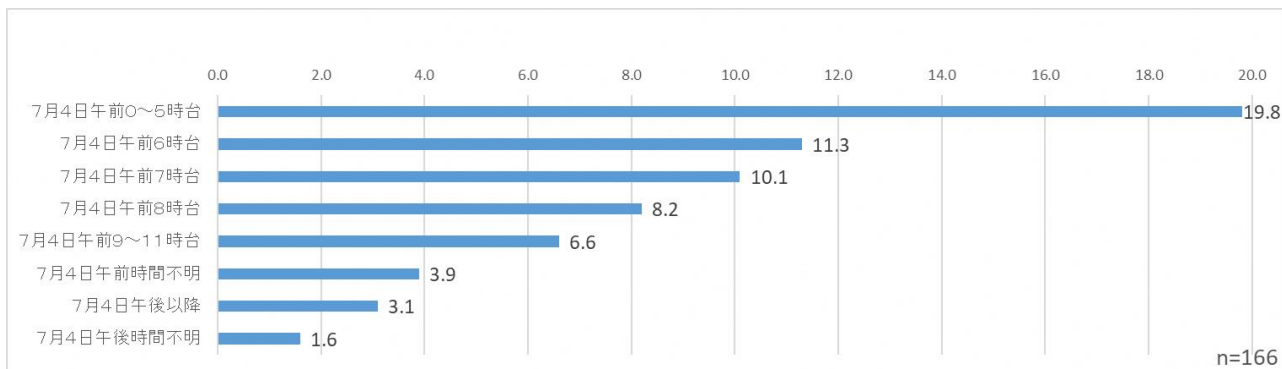
・今回の水害で浸水した人は約4割であった。

問 2 1 自宅が浸水した深さ (m)



・ 浸水した人のうち、4 割弱の人が 3 m 以上浸水している。

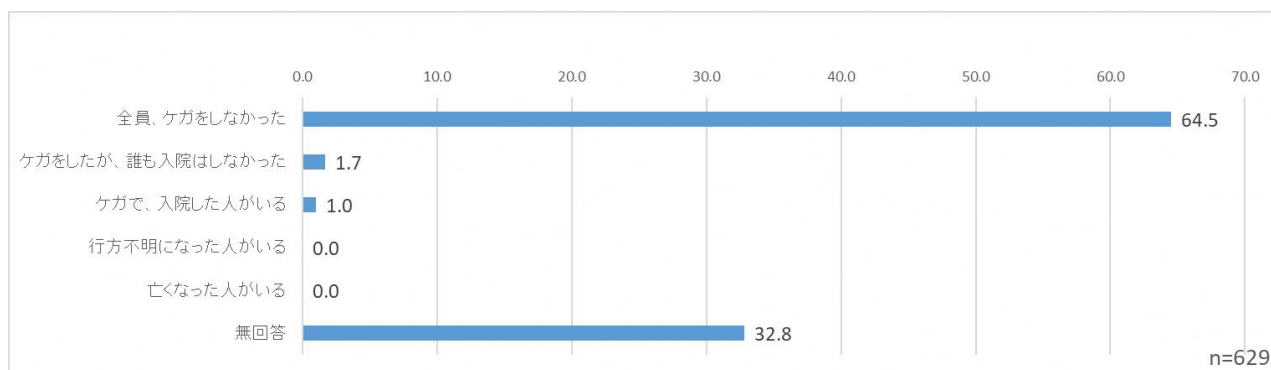
問 2 1 自宅が浸水し始めた時刻



※無回答除く

・ 自宅が浸水し始めた時間は、4 日未明から 7 時台が多い。

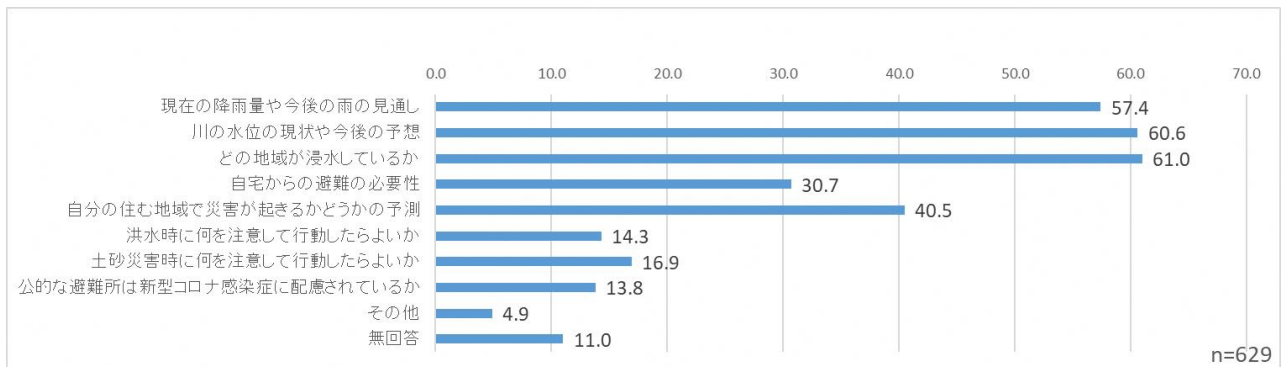
問 2 2 今回の水害で、あなたや同居されていた方の被災状況を伺います



・ 6割強の人は、同居していた人を含め、ケガがなかった。

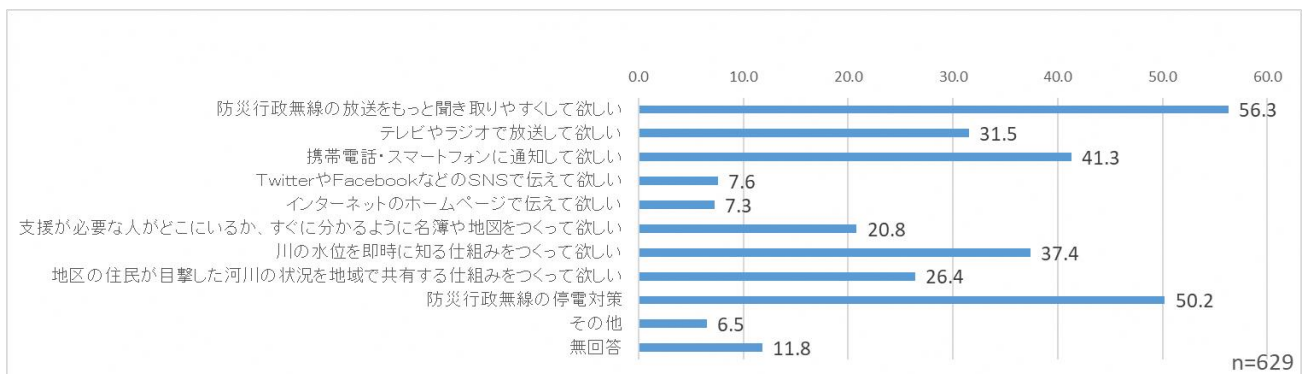
## 6. 水害にかんする情報への意識

### 問23 水害当日、あなたが知りたかった情報は何か



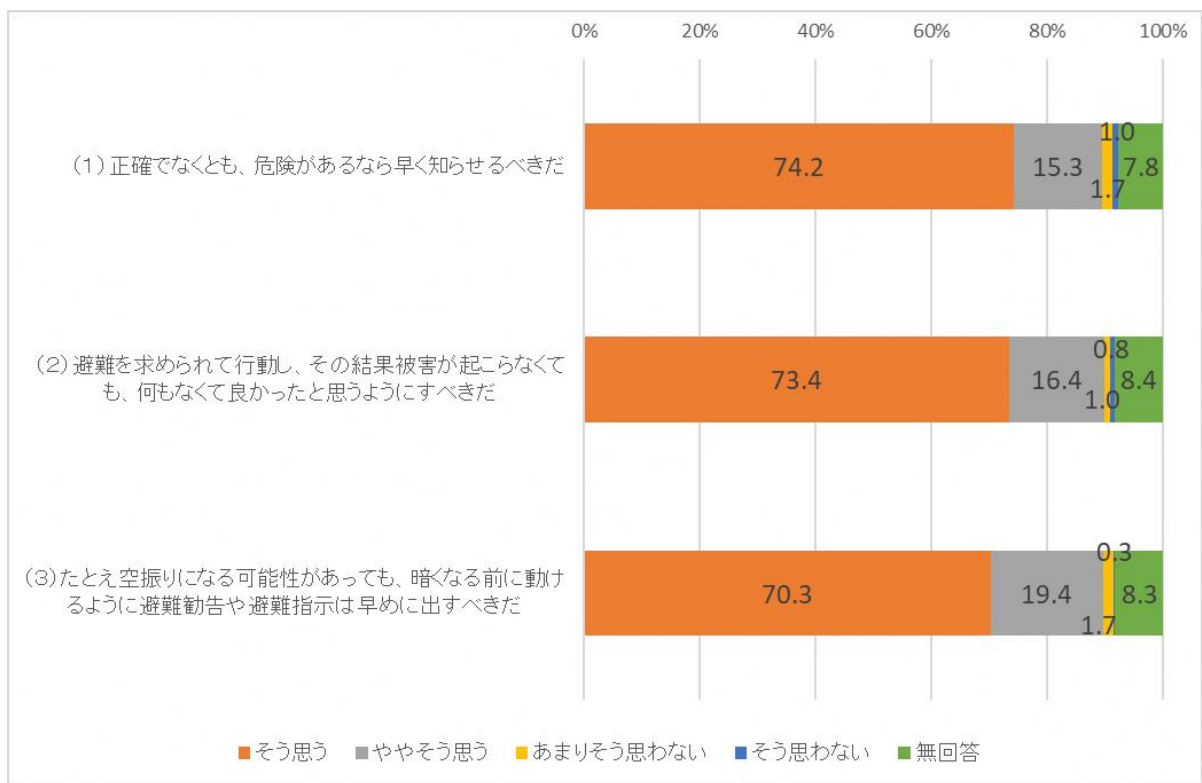
・知りたかった情報は、浸水している地域、川の水位の現状や今後の予想、現在の降雨量や今後の雨の見通しで6割程度。

### 問24 避難や水位に関わる情報の伝達や共有の仕組みについて、あなたの考えにあてはまるものすべてに○をつけてください



・情報伝達や共有の仕組みとして、半数以上が、防災行政無線を聞き取りやすくして、停電対策を求めている。

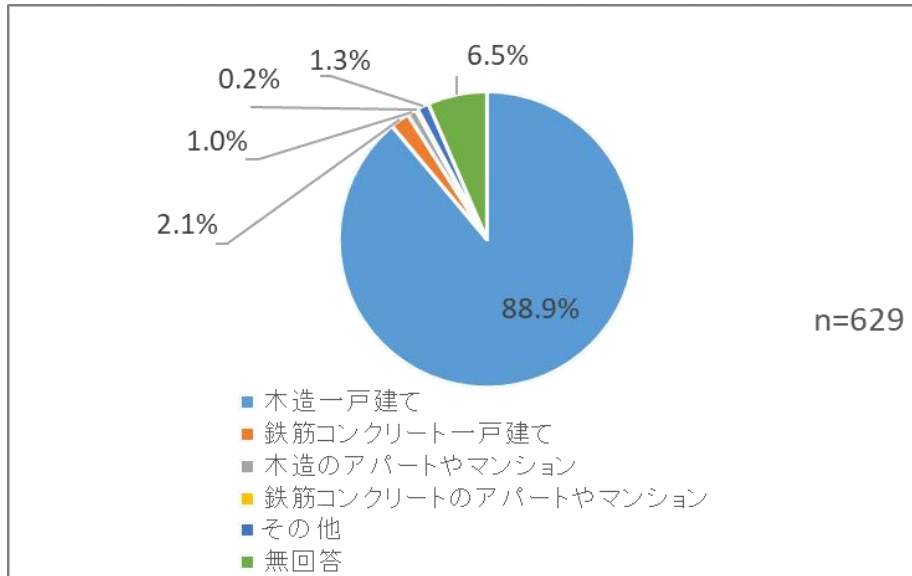
問 2 5 水害や避難に関わる情報についての以下の意見をどう思いますか



- ・ 正確でなくとも、危険があるなら早く知らせるべきだと考えている人が9割弱
- ・ 避難を求められて行動し、その結果被害が起こらなくても、何もなくて良かったと思うようにすべきだと考えている人も9割弱
- ・ たとえ空振りになる可能性があっても、暗くなる前に動けるように避難勧告や避難指示は早めに出すべきだと考えている人も9割弱

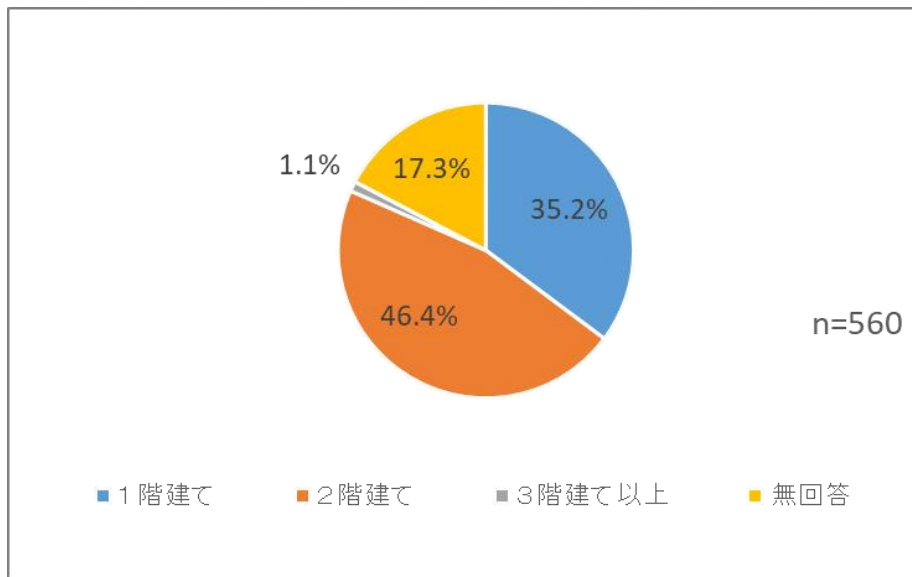
7. フェイス項目等

問26 水害発生時のあなたのお住まいについて教えてください



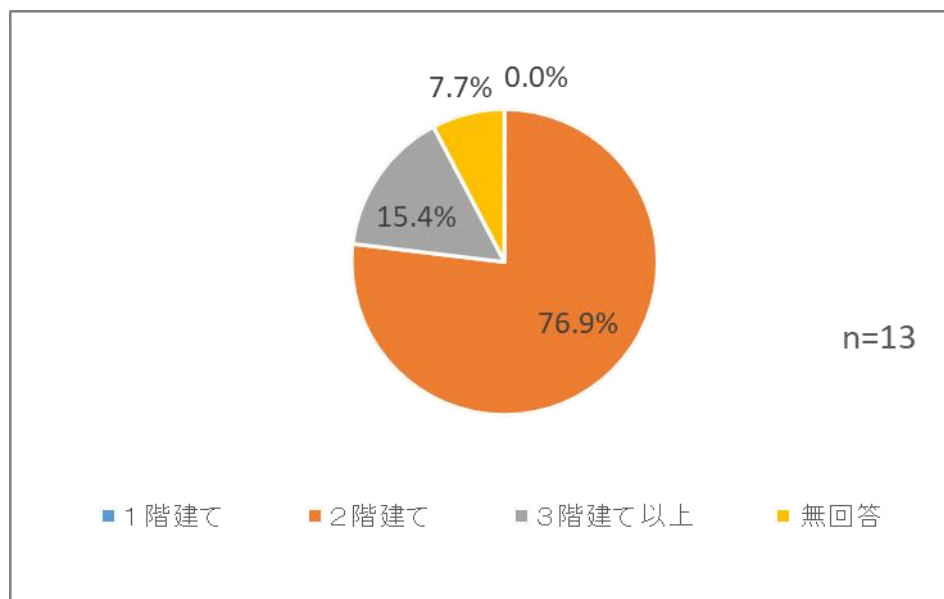
・ 球磨村では、約9割の人が木造一戸建て。

問26 木造一戸建て 階数



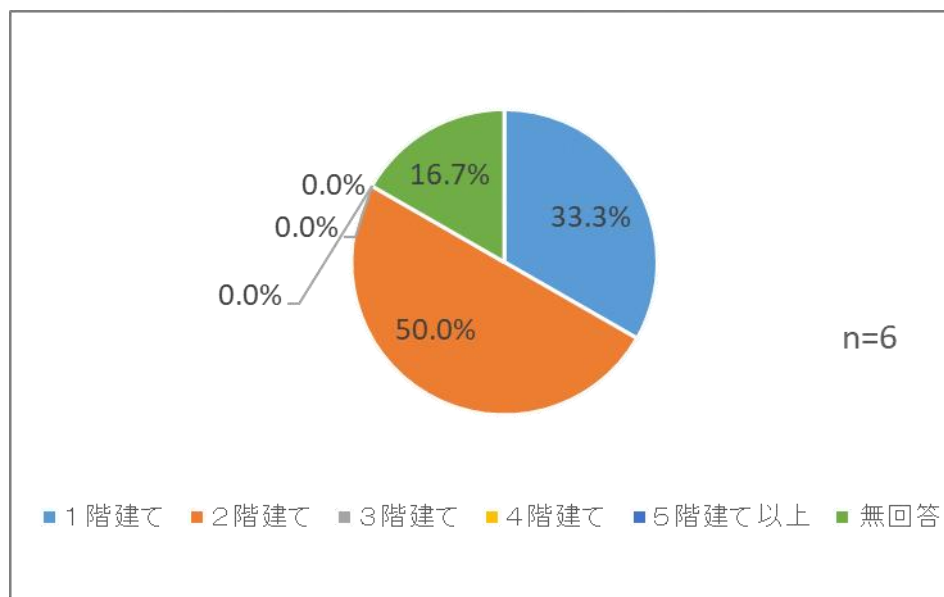
・ 木造一戸建ての約半数が2階建て以上。

問 2 6 鉄筋コンクリート一戸建て 階数



・鉄筋コンクリート一戸建ての8割強が2階建て以上。

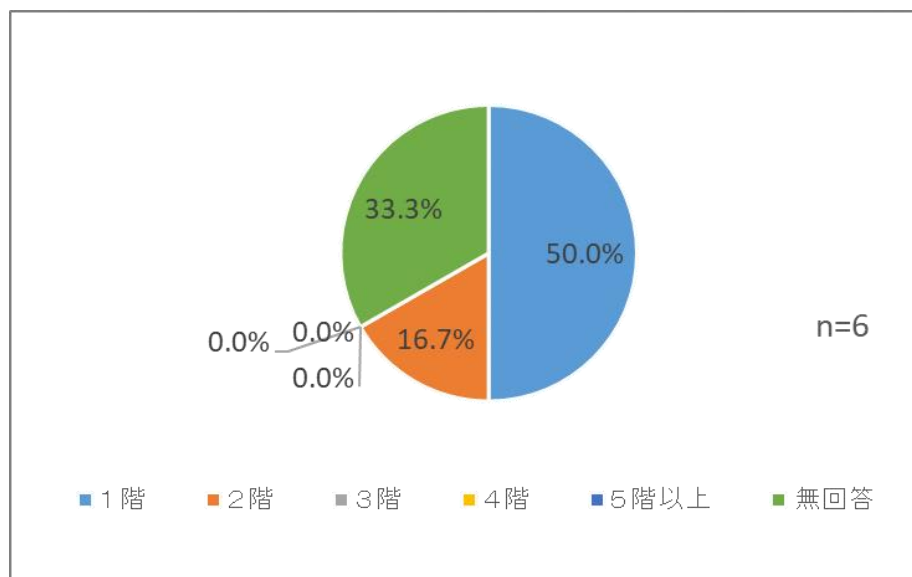
問 2 6 木造のアパートやマンション 階数



・住んでいる木造のアパートやマンションの半数が2階建て。

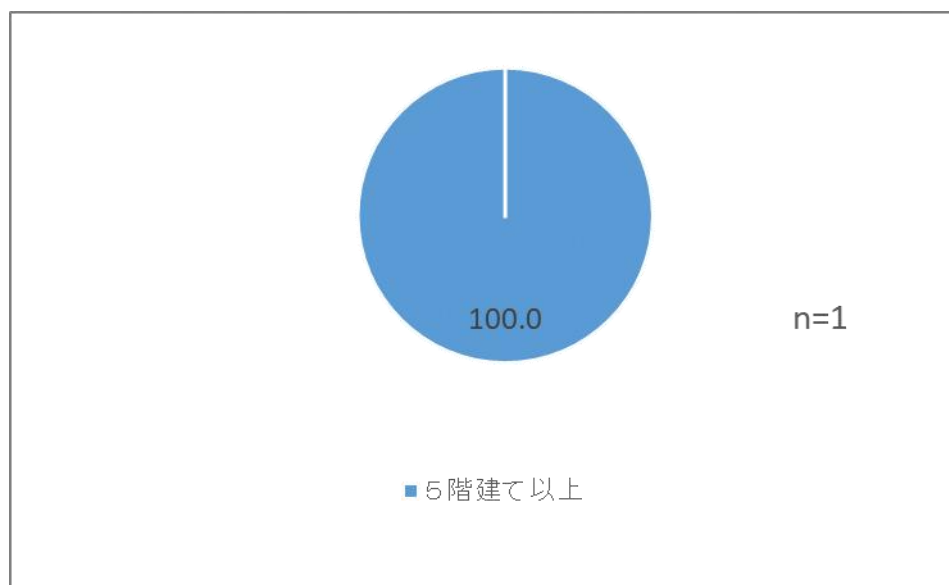


問2 6 木造のアパートやマンション 居住階数



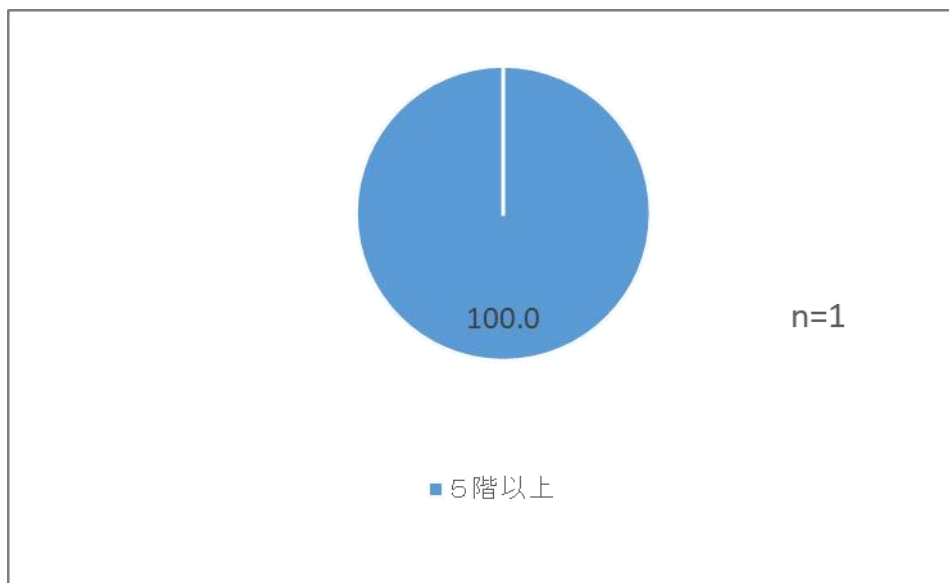
・木造のアパートやマンションの居住階数は、半数が1階。

問2 6 鉄筋コンクリートのアパートやマンション 階数



・鉄筋コンクリートのアパートやマンションは5階建て以上（該当者1名）

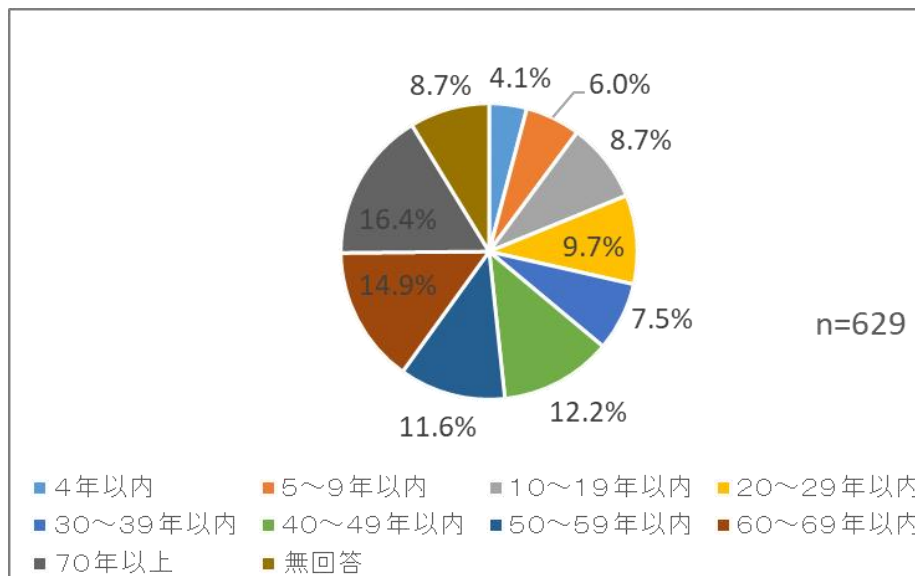
問26 鉄筋コンクリートのアパートやマンション 居住階数



・鉄筋コンクリートのアパートやマンションの居住階は5階以上（該当者1名）

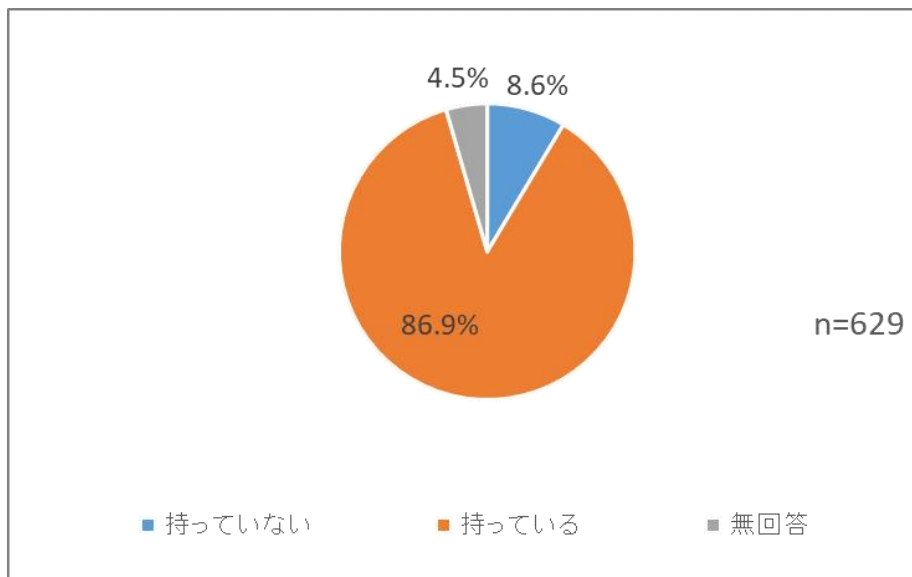
※問27 水害時の家の場所は省略

問28 災害発生時のお住まいにお住みになってからの居住年数



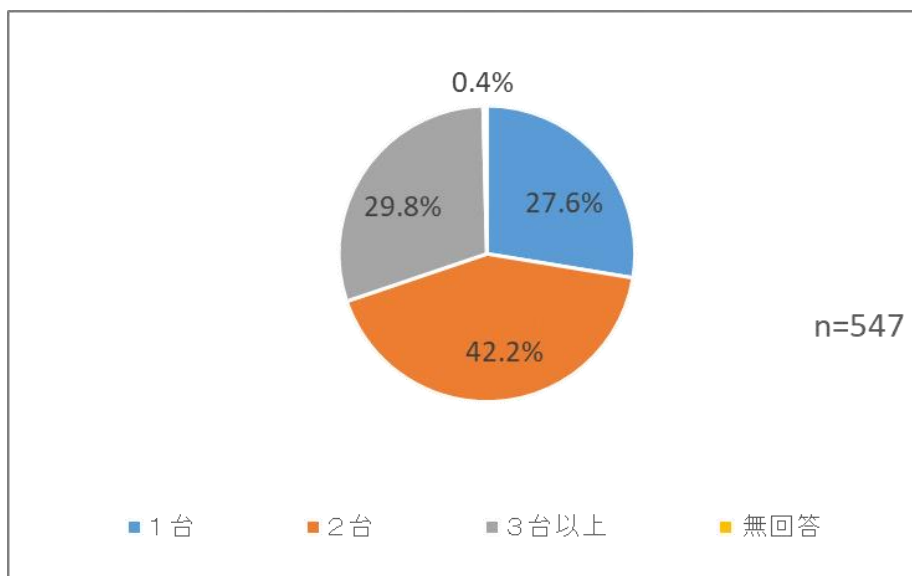
・居住年数は比較的分散しているが、60年以上で3割程度。

問29 お宅では車を何台お持ちですか



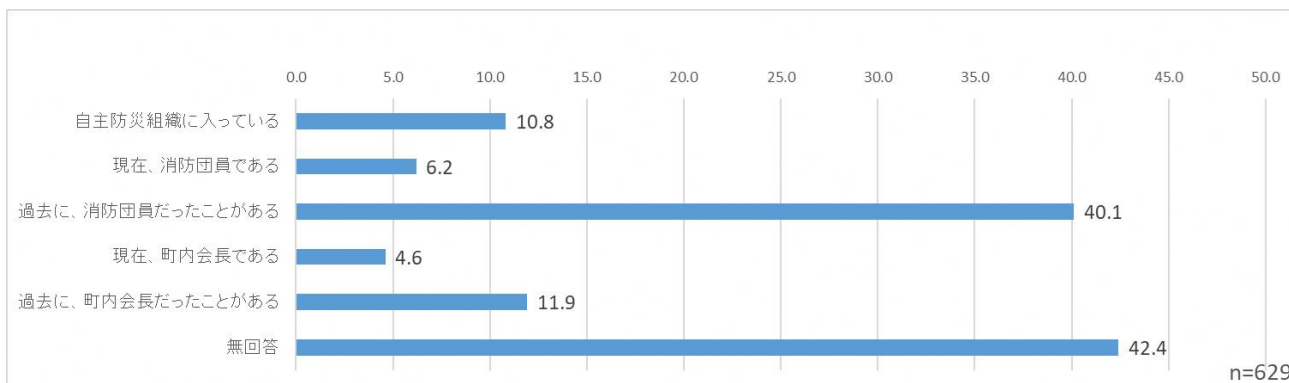
・ 9割弱が車を持っている。

問29 車の所有台数



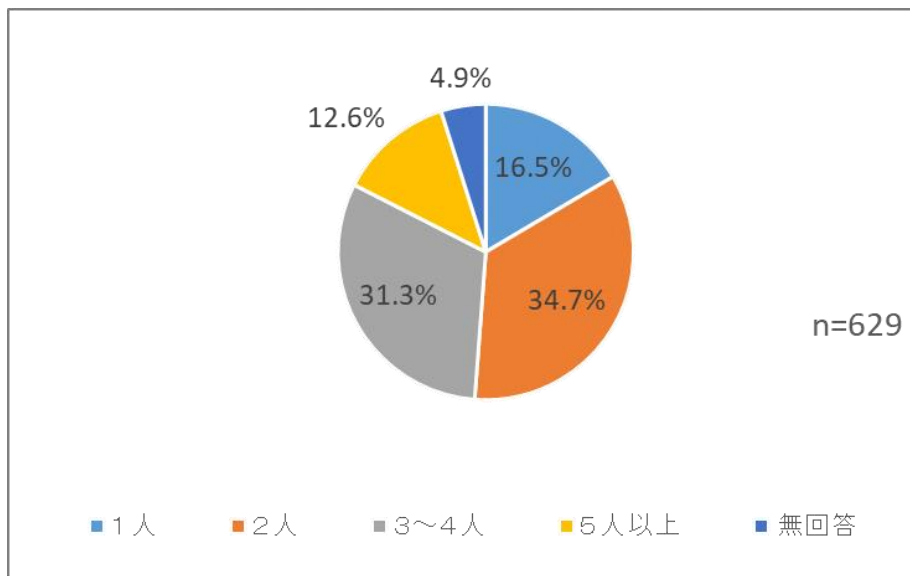
・ 2台持っている人が約4割、3台以上持っている人が約3割。

問30 あなたは消防団や自主防災組織に入っていますか



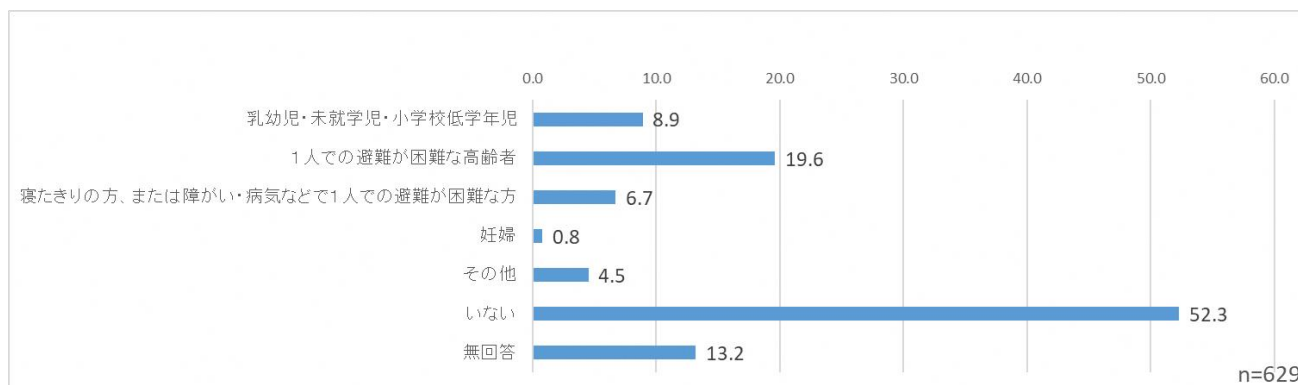
・現在消防団員か、元消防団員が4割強いる。

問31 あなたご自身も含めて、現在何人で暮らしていますか (人)



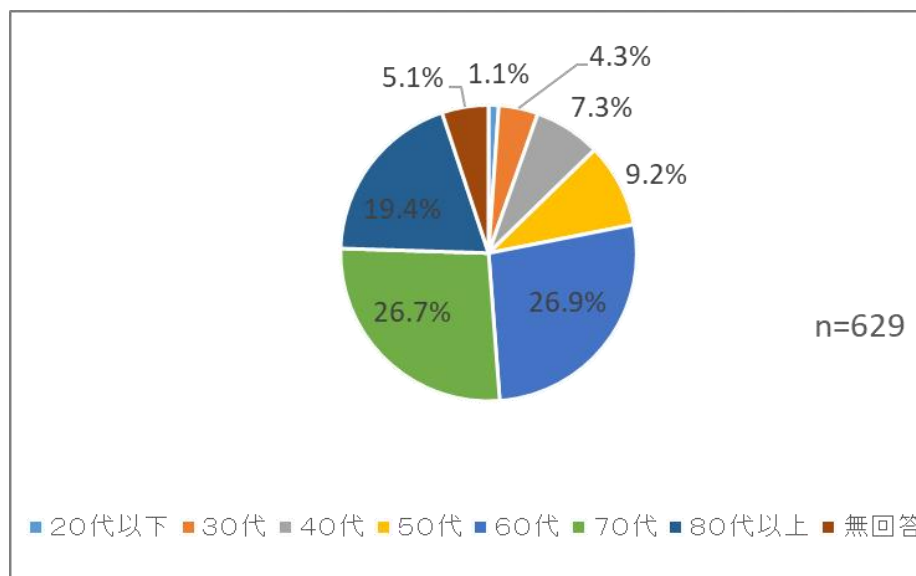
・1人暮らしは16.5%。

問3 2 あなたご自身も含めて、災害時に手助けが必要な方はいますか



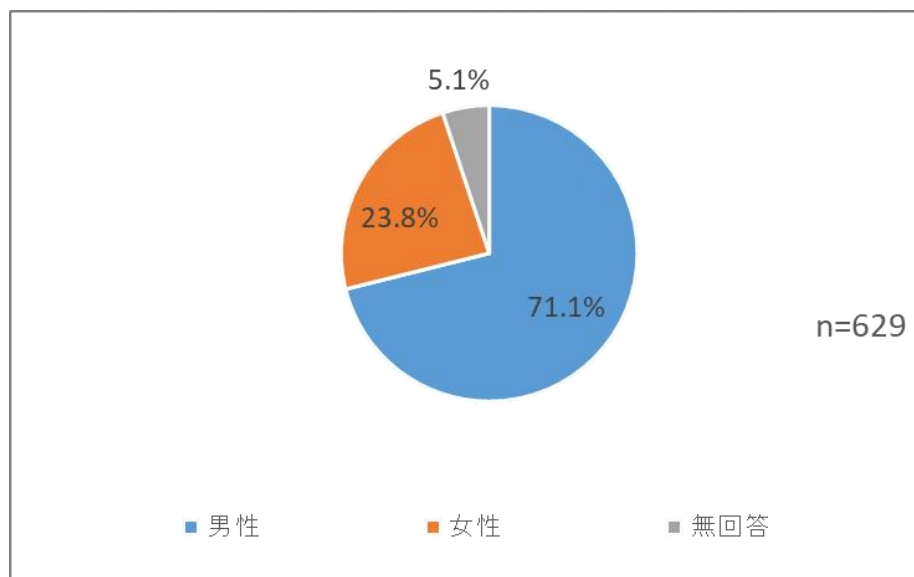
- ・災害時に手助けが必要な人は、半数はいない。
- ・約2割の家庭で、1人で避難が困難な高齢者がいる。

問3 3 あなたの年齢と性別をお知らせください (年齢)



- ・約4分の3が60歳以上

問3 3 あなたの年齢と性別をお知らせください（性別）



・ 7割強が男性